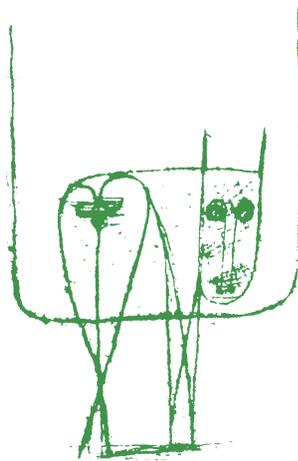

神奈川県立近代美術館

年2017報

ANNUAL REPORT



神奈川県立近代美術館

年2017報

ANNUAL REPORT

目次

[凡例]

- ・本年報に記載する人物は、原則として敬称略とする。
- ・当館職員の役職は「職員一覧」(p.62)を参照のこと。

あいさつ	3
展覧会活動	
2017年度展覧会 会期・観覧者数一覧	4
葉山館	5
鎌倉別館	16
教育普及活動	
教育普及事業実績一覧	18
団体来館・視察受入状況	24
美術図書室	25
美術館紹介・広報 掲載実績	26
刊行物	28
神奈川県立近代美術館における教育普及の3つの新規事業	29
作品蒐集管理活動	
購入・寄贈・寄託状況	31
新収蔵作品一覧	31
館外貸出作品一覧	38
修復作品一覧	39
修復報告	40
美術館資料の保存と活用—新規事業 アーカイブ構築について	45
調査研究活動	
調査・研究報告	
木下杢太郎の詩集『食後の唄』と『木下杢太郎詩集』の挿画について [橋 秀文]	46
1937年の『ソヴェト連邦建設』に見る大粛清の影—ロシア革命への言及に着目して [榎山昌夫]	50
調査研究の発表・執筆等	56
外部資金の活用	56
「神奈川県まなびや基金」を活用した彫刻整備	57
講師派遣・外部委員等就任	58
運営・管理報告	
概況 (沿革・所掌事務・施設の状況)	59
PFI事業の概要	59
収入・支出の状況	59
関係法規	60
組織	61
職員一覧	62

あいさつ

『神奈川県立近代美術館 2017 年度年報』を刊行いたします。

2017 年度には、鎌倉別館を会場とする「建築家・大高正人と鎌倉別館」展を区切りに、同館は改修作業のためにいったん休館し、2019 年秋のリニューアルオープンを目指すことになりました。現在、鋭意、改修作業を進めているところです。

鎌倉館に続く鎌倉別館の休館に際しても、1984 年に開館した同館の歴史に思いを馳せるために、設計に当たった大高正人の業績を回顧し、美術館、博物館、図書館などの文化施設の分野でのその仕事に注目しつつ、鎌倉別館を建築作品として見直す機会といたしました。また、県立社会教育施設公開講座では、「神奈川の近代建築」をテーマに 5 名のゲストを講師に招き、さまざまな視点から論じていただきました。

葉山館では、「木魂を彫る一砂澤ビッキ展」を皮切りに企画展を 4 本開催いたしました。砂澤ビッキに関しては、北海道以外の公立美術館では初めての画期的な個展となりました。砂澤ビッキという、戦後彫刻を代表する木彫家を紹介できたことは、現代彫刻に重点を置く当館にとって積年の夢の実現でもありました。砂澤涼子氏らの協力を得て大作《樹華》の再制作を行い、その記録集を刊行いたしました。

同展に続いて、「没後 90 年 萬鐵五郎展」、「生誕 160 年 マックス・クリンガー版画展」、「白寿記念 堀文子展」を企画展として開催しました。萬鐵五郎展は、洋画家としてばかりでなく、文人画家としての側面をもつ萬に再び光をあてる重要な機会となりました。クリンガーは当館にとってまとめて展示する 2 回目の機会であり、彫刻家、素描家としての側面も含めて紹介いたしました。堀文子展は、葉山館ではこれまでで 2 番目に多い来館者数を記録し、あらためて葉山館に親しんでいただくよい機会となりました。萬展以外は、企画展の会期にあわせて、当館のコレクションを 3 回展示しました。第 2 回では「1937 年」をテーマに取りあげ、科学研究費助成事業の成果発表も兼ねた学術的なものとなり、専門家の間でも一定の評価を得ることができました。

鎌倉館閉館に伴い活動拠点のひとつを失ったことを補うべく、いままで以上に普及活動に注力いたしました。出張授業や館外での講演やワークショップなどのアウトリーチ活動を充実させるとともに、公益財団法人かながわ国際交流財団と当館を含む地域連携の社会包摂プログラム「MULPA (マルパ)」にも、その準備段階から積極的に関わっています。「多文化共生」、「地域連携」、「アンラーニング」は、未来の美術館のための重要なキーワードであると考えています。

最後になりましたが、2017 年度には、棟方志功版画紛失事案及び所蔵絵画除却事案が明らかとなり、多くの方々に多大なるご心配とご迷惑をおかけいたしました。棟方志功版画紛失事案に関する対応においては、2013 年の県民局（文化課）から当館への当該作品の移管にあたって、版画作品がカラーコピーと気付かずに受け入れ、その後の展覧会において展示したことを公表いたしませんでした。所蔵絵画除却事案に関する対応においては、1985 年以前に当館で所在不明となった絵画 2 作品について、所在不明であることを公表せずに 2011 年に除却手続きを行いました。これらのことに関し、ここに反省の念を記し、改めて県民の皆様、美術を愛好される方々に深くお詫びする次第です。今後、再発防止に向け、万全の体制で臨み、日々の意識を高め、県民の重要な財産を適正に管理し、守り、未来に残すよう一層努めてまいります。

2018 年 11 月

神奈川県立近代美術館長
水沢 勉

展覧会活動

2017 年度展覧会 会期・観覧者数一覧

	展覧会名	会期	日数	観覧料		観覧者数 (人)			合計	他館との開催協力など
						有料	無料	うち 中学生 以下		
葉山館 企画展	木魂を彫る— 砂澤ビッキ展	4/8 6/18	63日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	1,200 円 1,050 円 600 円 100 円	6,462	3,892	478	10,354	
	没後90年 萬鐵五郎展	7/1 9/3	57日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	1,000 円 850 円 500 円 100 円	9,049	3,599	753	12,648	巡回： 岩手県立美術館 萬鐵五郎記念美術館 新潟県立近代美術館
	生誕 160 年 マックス・クリンガー版画展	9/16 11/5	46日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	1,200 円 1,050 円 600 円 100 円	2,530	2,089	140	4,619	
	白寿記念 堀文子展	11/18 3/25	107日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	1,200 円 1,050 円 600 円 100 円	34,127	6,382	580	40,509	
小計			273日			52,168	15,962	1,951	68,130	
葉山館 コレクション展	躍動する個性— 大正の新しさ	4/8 6/18	63日	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生	250 円 150 円 100 円	7,669	3,892	478	11,561	
	1937— モダニズムの分岐点	9/16 11/5	46日	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生	250 円 150 円 100 円	3,053	2,089	140	5,142	
	冬の旅、春の声	11/18 3/25	107日	一般 20歳未満・学生 65歳以上・高校生	250 円 150 円 100 円	34,516	6,382	580	40,898	
小計			216日			45,238	12,363	1,198	57,601	
鎌倉別館	建築家・大高正人と 鎌倉別館	5/27 9/3	87日	一般 20歳未満・学生 65歳以上 高校生	600 円 450 円 300 円 100 円	1,876	1,320	692	3,196	
	小計			87日			1,876	1,320	692	3,196
合 計 (8 展覧会)						99,282	29,645	3,841	128,927	

葉山館

729

木魂を彫る—砂澤ビッキ展

SUNAZAWA Bikky: Sculpted Spirits in Wood

戦後日本の彫刻界の巨匠・砂澤ビッキ（1931-1989）の北海道以外の公立美術館で初の個展である。砂澤ビッキは北海道旭川市にアイヌの両親のもとに生まれ、1950年代から60年代にかけてモダンアート協会展で活躍した。本展ではその後の円熟期に入った1970年代に制作された〈木面〉シリーズ、まさに「木魂」を彫ったというべき《神の舌》や《TOH》をはじめ、自然との交感を表現したモニュメンタルな作品《風に聴く》など彫刻23点、アクリル絵画や素描デッサン45点を展示することで、彫刻家・砂澤ビッキの知られざる側面に光を当て、その創造の秘密を探った。

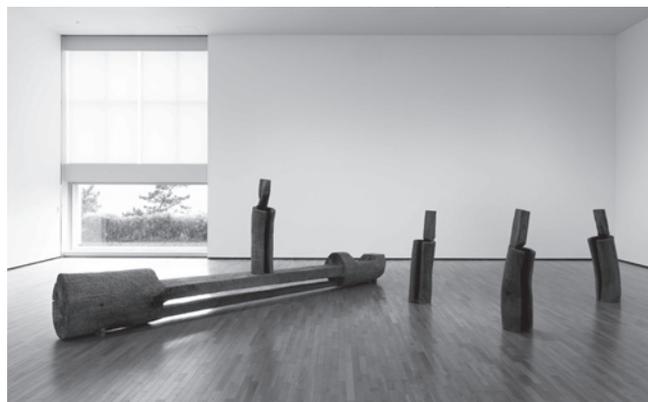
主催：神奈川県立近代美術館、読売新聞社、
美術館連絡協議会
協賛：ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、
日本テレビ放送網
会期：2017年4月8日(土)～6月18日(日)
休館日：月曜日（5月1日は開館）
開催日数：63日
出品総点数：68点
総観覧者数：10,354人
担当学芸員：橋秀文、高嶋雄一郎

関連企画

- 1) 能藤玲子ダンスパフォーマンス「風に聴く」 5月13日(土)
出演：能藤玲子（舞踊家）、能藤玲子創作舞踊団
- 2) 対談 6月3日(土)
砂澤涼子（砂澤ビッキ夫人）×酒井忠康（世田谷美術館館長）
- 3) 砂澤ビッキの言葉を聴く 5月20日(土)
出演：Yae（歌手）、真砂秀朗（インディアンフルート奏者）
- 4) 館長トーク 5月3日(水・祝) 話し手：水沢勉
- 5) 担当学芸員によるギャラリートーク
4月9日(日)、5月6日(土)、6月17日(土)
- 6) 近代美術館入門講座（葉山町共催）「初めての砂澤ビッキ」4月15日(土)
会場：葉山町福祉文化会館 講師：橋秀文
- 7) ワークショップ「ビッキに“触れる”鑑賞ツアー」
4月15日(土)、5月5日(金・祝)、5月28日(日)
- 8) ワークショップ「自分だけの《樹華》をつくろう」
4月22日(土)、5月21日(日)、6月10日(土)
- 9) 先生のための特別鑑賞の時間 5月6日(土)



ポスター



会場風景

カタログ

サイズ：29.0 × 22.5cm、88 ページ、販売価格：2,000 円（税込）

制作：コギト

発行：読売新聞社、美術館連絡協議会

デザイン：馬面俊之

翻訳：小川紀久子

編集：神奈川県立近代美術館（橋 秀文、高嶋雄一郎）

目次

砂澤ビッキ 木魂と呼び交わし生まれる無限のかたち（水沢 勉）

垂直に立てられた舟のように（菅 啓次郎）

図版 彫刻、絵画・素描

砂澤ビッキの〈木面〉シリーズをめぐって（橋 秀文）

年譜（橋 秀文編）

主要参考文献（高嶋雄一郎編）

Sunazawa Bikky The Infinite Forms Created by Communing with Spirits of Wood (Mizusawa Tsutomu)

出品作品一覧

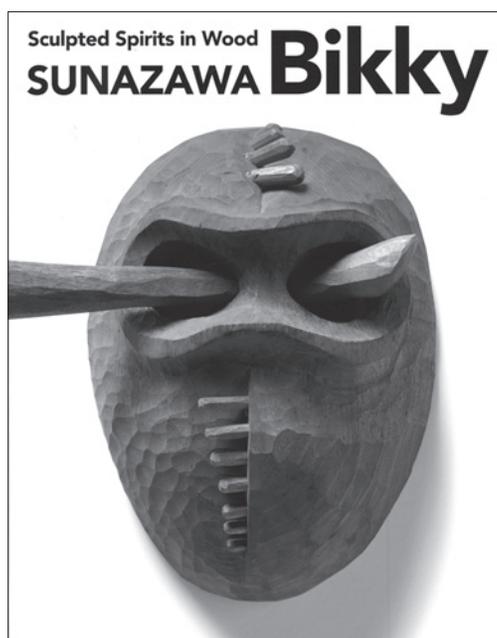
関連記事

▼展評・解説など

- ・高橋咲子「木魂を彫る—砂澤ビッキ展 木魂に宿る自然の神」『毎日新聞』2017年4月12日夕刊、7面
- ・港 千尋「考量2017 音威子府（北海道）次代に紡ぐ木と風の詩」『読売新聞』2017年4月14日、6面
- ・上田貴子「自然の声 ビッキの魂 没後28年 神奈川県立近代美術館 葉山で個展 美術評論家 酒井忠康さんに聞く 文明のよろい脱がされて」『北海道新聞』2017年4月19日、19面
- ・水沢 勉「砂澤ビッキ展（上）原型を彫り出す迫力」『読売新聞』2017年4月27日、26面
- ・橋 秀文「砂澤ビッキ展（中）予想できない木の「表情」」『読売新聞』2017年4月28日、26面
- ・高嶋雄一郎「砂澤ビッキ展（下）自然の痕跡と鮮烈さ刻む」『読売新聞』2017年4月29日、24面
- ・柏崎幸三「かながわ美の手帖 県立近代美術館 葉山「木魂を彫る—砂澤ビッキ展」木から精霊を引き出し造形化する独自の表現」『産経新聞』2017年4月30日、21面
- ・渋谷和彦「美アート「木魂を彫る—砂澤ビッキ展」静かにたたずむ柔と剛」『産経新聞』2017年5月7日、12面
- ・吉崎元章「本州の公立美術館で初めての砂澤ビッキ展」『美術ペン』（第151号）2017年5月31日、p.8
- ・四方幸子「なだらかにつながる「祝福の場」「木魂を彫る—砂澤ビッキ展」神奈川県立近代美術館 葉山」『美術手帖』2017年6月1日（No.1054）pp.184-185
- ・今井歴矢「樹気の風 木魂を彫る 砂澤ビッキ展」『いけ花龍生』（第686号）2017年6月1日、pp.13-16
- ・榎木野衣「木魂を彫る—砂澤ビッキ展 危ういバランス」『東京新聞』2017年6月9日夕刊、7面
- ・北沢憲昭「木魂を彫る—砂澤ビッキ展 生命の残影宿す木材と交感」『朝日新聞』2017年6月6日夕刊、4面
- ・後藤 護「「砂澤ビッキ展—木魂を彫る」を見て」『南信州新聞』2018年1月6日、30面

▼展覧会紹介：3紙（4回）／11誌（11回）

▼情報掲載：6紙（27回）／13誌（19回）



カタログ

葉山館

730

コレクション展 躍動する個性—大正の新しさ

Energetic Individuality in the Japanese Art of the Taisho Era: from Museum Collection

大正時代の美術は、明治時代からの流れを受け継ぎながら、さらに自由な表現を求めて若者たちが革新的な芸術を花開かせた。1912（明治45／大正元）年には岸田劉生や萬鉄五郎らがヒュウザン会（後にフェウザン会）を起し、1914年には二科会が創設され、そこを舞台にして夭折の画家関根正二や村山槐多らが活躍した。さらに、この時期の新興芸術を村山知義らがリードした。1926年には、佐伯祐三らが独立美術協会の前身である1930年協会を結成した。本展では大正時代の美術を通観することで、その輝かしい時代の熱き鼓動を伝えた。併陳で新収蔵作品も展示した。

主催：神奈川県立近代美術館
会期：2017年4月8日(土)～6月18日(日)
休館日：月曜日（5月1日は開館）
開催日数：63日
出品総点数：57点
総観覧者数：11,561人
担当学芸員：橋 秀文

関連企画

- 1) 担当学芸員によるギャラリートーク
4月9日(日)、5月6日(土)、6月17日(土)
- 2) 先生のための特別鑑賞の時間 6月4日(日)

関連記事

▼情報掲載：11誌（15回）



チラシ

731

没後 90 年 萬鐵五郎展

YOROZU Tetsugoro 1885-1927

没後 90 年を記念して開催した萬鐵五郎（1885-1927）の 20 年ぶりの大規模な回顧展。明治末年から大正初めにその才能を開花させた萬は、19 世紀後半に日本に本格的な移入が図られた西洋絵画と東洋の伝統を融合させ、独自の世界を作り上げた。41 年の生涯において、画家として活動したのはわずか 20 年ほどであったが、その間に国際的水準とっていい質と量の作品を生み出し、独自のやり方でモダニズムを問い、またその答えを見出そうと果敢に試みた萬は、日本という文脈であればこそ生まれ得た、特異で比類ない画業を残した。本展では、水墨画にも焦点を当て、重要文化財の油彩画《裸体美人》や水彩画の代表作に加えて素描、版画のほか、制作のプロセスを示す周辺作品や資料を交え、萬が目指した表現の本質に改めて迫るとともに、その稀にみる才能と洞察力に恵まれた画家の創作の原動力を顧みた。

主催：神奈川県立近代美術館、東京新聞

会期：2017年7月1日(土)～9月3日(日)

前期：7月1日(土)～7月30日(日)

後期：8月1日(火)～9月3日(日)

休館日：月曜日（7月17日は開館）

開催日数：57日

出品総点数：442点（巡回展 469点）

総観覧者数：12,648人

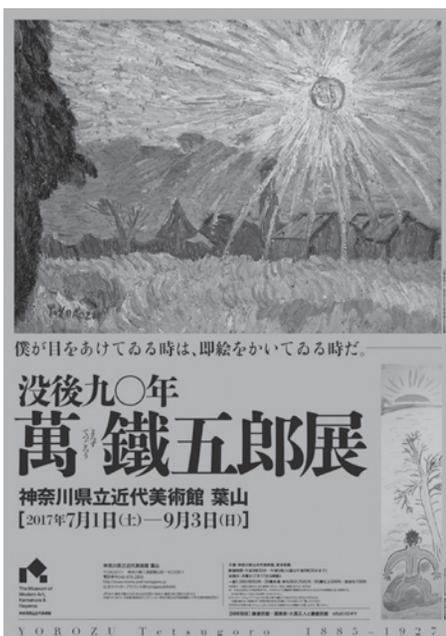
担当学芸員：長門佐季、高嶋雄一郎

巡回先：岩手県立美術館、萬鉄五郎記念美術館、

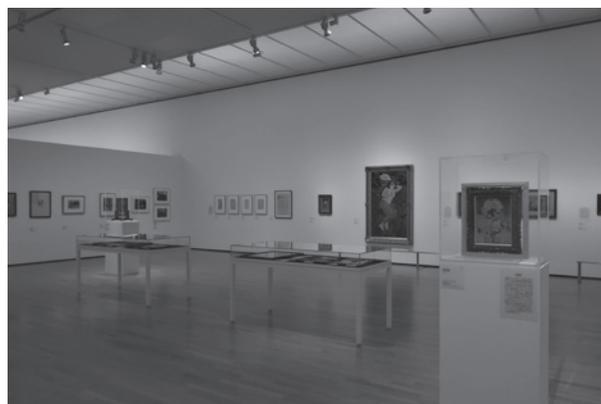
新潟県立近代美術館

関連企画

- 1) 巡回館担当学芸員によるトーク 7月2日(日)
講師：平澤 広（萬鉄五郎記念美術館学芸員）
- 2) 館長トーク 7月16日(日) 話し手：水沢 勉
- 3) 担当学芸員によるギャラリートーク
7月30日(日)、8月5日(土)、8月27日(日)
- 4) 近代美術館入門講座（葉山町共催）「萬鐵五郎と湘南」 7月15日(土)
会場：葉山町福祉文化会館 講師：長門佐季
- 5) 子どものためのワークショップ
7月25日(火)、8月1日(火)、8月4日(金)、8月18日(金)
- 6) 先生のための特別鑑賞の時間 7月9日(日)



ポスター



会場風景

カタログ

サイズ：26.0 × 19.0cm、368ページ、販売価格：2,500円（税込）
編集：原田光（前岩手県立美術館長）、根本亮子（岩手県立美術館）、加藤俊明（岩手県立美術館）
平澤広（萬鉄五郎記念美術館）、伊藤真紀子（萬鉄五郎記念美術館）
水沢勉、長門佐季、三本松倫代、高嶋雄一郎
藤田裕彦（新潟県立近代美術館）
澤田佳三（新潟県立万代島美術館）
東京新聞事業局文化事業部

翻訳：小川紀久子
校正：田宮宣保
制作：印象社
発行：東京新聞

目次

楕円状の運動体として——「没後90年 萬鉄五郎展」開催にあたって（水沢勉）
本図録の編集について（原田光）

カタログ Catalogue

- I. 1885-1911年 出発
- II. 1912-1913年 挑戦
- III. 1914-1918年 沈潜
- IV. 1919-1927年 解放

写真・資料類

萬鉄五郎 新たな全体像へのアプローチ（平澤広）
記された萬鉄五郎——展覧会評に見る生前の評価（澤田佳三）
萬鉄五郎の版画制作について（根本亮子）
まなざしの磁場——萬鉄五郎《裸体美人》への一視点として（水沢勉）
《宝珠をもつ人》、居場所はどこか。（原田光）

萬事典

出品作品リスト List of Works in the Exhibition

萬鉄五郎主要文献目録

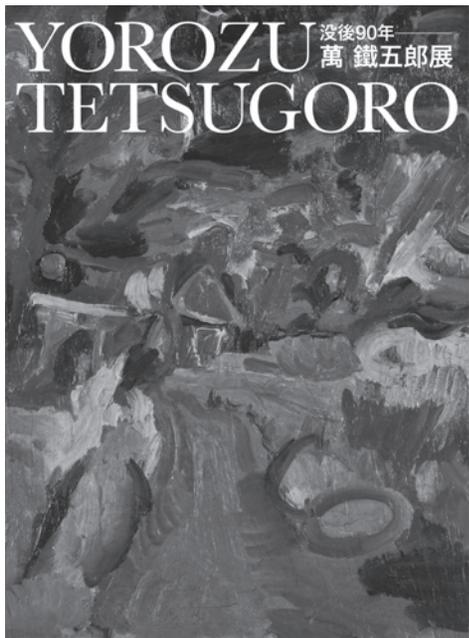
As an Oval Moving Body—— On the Occasion of the Yorozu Tetsugoro Exhibition (Mizusawa Tsutomu)

An Abridged Chronology of Yorozu Tetsugoro

関連記事

▼展評・解説など

- ・窪田直子「膨大な南画 独創生む「没後90年 萬鉄五郎展」」『日本経済新聞』2017年4月26日、44面
- ・木村尚貴「先駆者・萬鉄五郎の実験 次々変わる作風 岩手2館で没後90年展 追い続けた「日本のモダニズム」「精神的自然」水墨画に結実」『朝日新聞』2017年6月6日夕刊、4面



カタログ

- ・池上英洋「池上先生の絵ほどこき 画家萬鉄五郎の巻 新様式を吸収し続け」『東京新聞』2017年6月27日、14面
- ・野呂法夫「没後90年記念展覧会 湘南の光感じて 萬鉄五郎の世界 葉山で来月1日から」『東京新聞』2017年6月28日、21面
- ・草間俊介「没後90年萬鉄五郎 画業の全貌 県立近代美術館 葉山」『東京新聞』2017年7月2日、24面
- ・渋沢和彦「自由闊達な萬鉄五郎に出会う」『産経新聞』2017年7月6日、16面
- ・下野綾「美術 膨大な作品への原動力 回顧展「萬鉄五郎展」近代美術館 葉山」『神奈川新聞』2017年7月24日、12面
- ・「追求したのは独自の芸術 神奈川で「没後90年 萬鉄五郎展」」『大阪日日新聞』2017年7月25日、10面
- ・「独自の芸術へ懸命に 強い探求心、加速する挑戦 没後90年 萬鉄五郎展」『四國新聞』2017年7月26日、12面
- ・「モダニズムと独自の世界 「没後90年 萬鉄五郎展」 神奈川県立近代美術館 葉山 油彩と水墨画 41年の足跡」『熊本日日新聞』2017年7月26日、28面
- ・「追求したのは独自の芸術 「没後90年 萬鉄五郎展」」『千葉日報』2017年7月26日、16面
- ・「追求した独自の芸術 「没後90年 萬鉄五郎展」 神奈川 9月3日まで」『東奥日報』2017年7月26日、11面
- ・高橋咲子「評 美術 没後90年 萬鉄五郎展 内面との格闘と解放」『毎日新聞』2017年7月26日夕刊、6面
- ・「独自の芸術世界を追求 「没後90年 萬鉄五郎展」に画業全貌」『沖縄タイムス』2017年7月27日、18面
- ・「独自の「萬風」芸術 「没後90年 萬鉄五郎展」 神奈川」『日本海新聞』2017年7月27日、9面
- ・「探求心の果て 独自芸術 南画に油彩技法取入れ 没後90年 萬鉄五郎展 神奈川県立近代美術館 葉山」『高知新聞』2017年7月28日、11面
- ・「追求したのは独自の芸術 没後90年 萬鉄五郎展 神奈川県立近代美術館 葉山」『徳島新聞』2017年7月30日、11面
- ・「目まぐるしいほど手法変化 独自の芸術世界追求 油彩と南画表現近づく 没後90年 萬鉄五郎展 神奈川」『宮崎日日新聞』2017年7月31日、20面
- ・「没後90年 画家・萬鉄五郎展 独自の芸術追求した41年」『山形新聞』2017年7月31日、8面
- ・「独自の画風全貌に光 神奈川で没後90年展 画家・萬鉄五郎」『愛媛新聞』2017年8月2日、13面
- ・「独自の芸術追求 没後90年 萬鉄五郎展」『茨城新聞』2017年8月3日、13面
- ・安藤涼子「独自世界 萬鉄五郎の画業 神奈川で回顧展 水墨画にも光」『中國新聞』2017年8月3日、13面
- ・「没後90年 萬鉄五郎展 類いまれな画業の全貌」『静岡新聞』2017年8月4日、8面
- ・高嶋雄一郎「没後九〇年 萬鉄五郎展 ㊤ 果てなき創作の原点」2017年8月4日、18面
- ・長門佐季「没後九〇年 萬鉄五郎展 ㊤ 芸術見つめ直し着想」2017年8月5日、18面
- ・水沢勉「没後九〇年 萬鉄五郎展 ㊤ 漁村の暮らしを讃美」2017年8月6日、24面
- ・藤田一人「没後90年 萬鉄五郎展 等身大の私的心情と生活風土」『公明新聞』2017年8月9日、5面
- ・森本智之「美術評 没後90年 萬鉄五郎展 苦闘物語る画風の変遷」『東京新聞』2017年8月18日夕刊、7面
- ・中ザワヒデキ「Reviews 元祖ホット・ジャパン 没後90年 萬鉄五郎展」『美術手帖』2017年9月（通巻1059号）、pp.170-172

▼展覧会紹介：1紙（3回）／7誌（7回）

▼情報掲載：7紙（43回）／14誌（30回）

▼ウェブ

- ・Jeff Michael Hammond, "Straddling East and West in art", *The Japan Times*, 25 July 2017. (<https://www.japantimes.co.jp/culture/2017/07/25/arts/straddling-east-west-art/#.W7B4SulRfVI>)

▼テレビ番組

- ・NHK-E テレ 日曜美術館「最先端を走った鉄人～萬鉄五郎の格闘～」2017年7月2日

葉山館

732

生誕 160 年 マックス・クリンガー版画展

Max Klinger: The 160th Anniversary of His Birth

当館では、版画集『イヴと未来』(作品 III)、『間奏曲』(作品 IV)、『手袋』(作品 VI)、『ある愛』(作品 X) の収蔵を機に、1981 年 4 月に「クリンガーとルドン展—版画巨匠シリーズ I—」を開催して以来、19 世紀から 20 世紀の転換期にドイツで活躍した彫刻家、画家、版画家マックス・クリンガー (1857-1920) の連作版画を展覧してきた。彼の版画作品には、精緻な写実性と幻想性が共存し、不思議な魅力を称えている。クリンガー生誕 160 年を記念するこの展覧会では、当館収蔵品に加え、版画集『ドラマ』(作品 IX) や『死について 第 2 部』(作品 XIII)、さらに蔵書票なども借用展示し、この卓越した芸術家の版画作品をより広く紹介した。

主 催：神奈川県立近代美術館

会 期：2017年9月16日(土)～11月5日(日)

休 館 日：月曜日 (9 月 18 日と 10 月 9 日は開館)

開 催 日 数：46 日

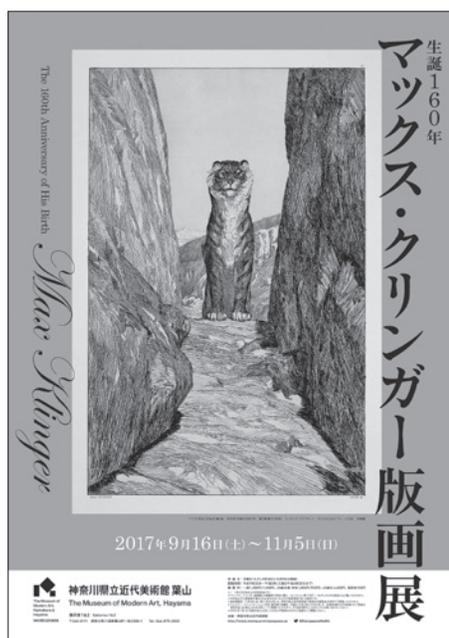
出品総点数：109 点

総観覧者数：4,619 人

担当学芸員：靱山昌夫、朝木由香、高原茉莉奈

関連企画

- 1) 館長によるオープニング・トーク 9月16日(土) 話し手：水沢 勉
- 2) 担当学芸員によるギャラリートーク
10月15日(日)、10月21日(土)、11月2日(木)
- 3) 近代美術館入門講座 (葉山町共催)「マックス・クリンガーについて」
10月7日(土) 会場：葉山町福祉文化会館 講師：靱山昌夫
- 4) 先生のための特別鑑賞の時間 10月15日(日)



ポスター



会場風景

カタログ

『19世紀末の幻想世界 マックス・クリンガー ポストカードブック』
サイズ：15.0×10.7cm、72ページ、販売価格：1,836円（税込）
企画・編集：神奈川県立近代美術館
執筆：水沢勉、靱山昌夫
発行者：足立欣也
発行所：株式会社求龍堂
装丁・レイアウト：神田宇樹
編集：清水恭子（求龍堂）
印刷・製本：大日本印刷株式会社

目次

『イヴと未来』（作品 III）第6版、1898年（初版は1880年）
『間奏曲』（作品 IV）、出版年不明（初版は1881年）
『手袋』（作品 VI）第4版、1898年（初版は1881年）
『ある愛』（作品 X）第5版、1920年（初版は1887年）
『プラームス幻想』（作品 XII）第2版、1894年（初版は1894年）
作品解説（靱山昌夫）
ヤヌス（双頭神）の如く マックス・クリンガーの現代性（水沢勉）
ポストカード・リスト
マックス・クリンガー略年譜

※ポストカード26枚入

関連記事

▼展評・解説など

- ・下野 綾「幻想的な絵柄で魅了 生誕160年 マックス・クリンガー版画展」『神奈川新聞』2017年10月19日、6面
- ・石川健次「Art Scene 「生誕160年 マックス・クリンガー版画展」『サンデー毎日』（第96巻第53号）2017年10月29日、p.120

▼展覧会紹介：2誌（2回）

▼情報掲載：4紙（6回）／11誌（27回）



ポストカードブック

733

コレクション展 1937—モダニズムの分岐点

From Museum Collection: 1937—Modernism at a Branch Point

ヨーロッパで「パリ万博」や「退廃美術展」が開催された1937年、日本では中国大陸での戦争が本格化した。本展では1937年前後に焦点をあて、1930年代の日本の近代美術を紹介すると共に、同時代にみられた国内外の前衛美術の動向をたどった。展示前半は、朝井閑右衛門、阿部合成、麻生三郎、内田巖、小野忠重、松本竣介、村井正誠、吉原治良などの油彩、版画約40点で構成した。後半は同年、日本で開催された「海外超現実主義作品展」に注目し、同展を企画した瀧口修造と山中散生がアンドレ・ブルトンらシュルレアリストと交わした書簡や原稿などを通して、前衛思潮との国際的な交流の一端を紹介した。あわせてソヴィエト連邦の宣伝グラフ雑誌『ソヴィエト連邦建設』、村山知義による映画・演劇活動を記録したスクラップブックなどを展示した。

主 催：神奈川県立近代美術館
 協 力：慶應義塾大学日吉メディアセンター
 助 成：芸術文化振興基金助成事業
 会 期：2017年9月16日(土)～11月5日(日)
 休 館 日：月曜日(9月18日と10月9日は開館)
 開 催 日 数：46日
 出品総点数：218点
 総観覧者数：5,142人
 担当学芸員：朝木由香、靱山昌夫

小冊子
 サ イ ズ：21.0×14.8cm、6ページ、無料配布
 編集・発行：神奈川県立近代美術館
 印刷・制作：株式会社 野毛印刷社

目次
 1937—戦争前夜 モダニズムの輝き(水沢 勉)
 「海外超現実主義作品展」をめぐる海外との交流—山中散生、瀧口修造の書簡について(朝木由香)
 『ソヴィエト連邦建設』に見る1937年前後のソヴィエト社会主義共和国連邦の一端(靱山昌夫)

関連企画

- 1) 館長によるオープニング・トーク 9月16日(土) 話し手：水沢 勉
- 2) 担当学芸員によるギャラリートーク
9月23日(土・祝)、10月21日(土)、11月2日(木)
- 3) 近代美術館入門講座(葉山町共催)
「海外超現実主義作品展(1937年)について」9月23日(土・祝)
会場：葉山町福祉文化会館 講師：朝木由香
- 4) 先生のための特別鑑賞の時間 10月21日(土)

関連記事

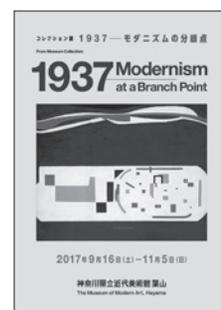
- ▼展覧会紹介：1紙(1回)
- ▼情報掲載：5誌(10回)
- ▼ウェブ
 - ・Kevin Michael Smith, "Japanese Modernism at a 'Branch Point': On the Museum of Modern Art, Hayama's 1937 Exhibition", *Cross-Currents: East Asian History and Culture Review*, E-Journal No.26(March 2018) (<http://cross-currents.berkeley.edu/e-journal/issue-26>)



チラシ



会場風景



小冊子

葉山館

734

白寿記念 堀文子展

HORI Fumiko

1967年から大磯にアトリエを構え、1987年に第36回神奈川文化賞を受賞するなど神奈川ゆかりの日本画家である堀文子（1918-）の白寿を記念した展覧会。1952年に第2回上村松園賞を受賞し、新しい時代の日本画を担う画家として注目された堀は、現代の日本画のあり方や表現を追求するばかりでなく、1960年代以降はメキシコ、イタリア、ネパールなど世界各地を訪れ、そこで感受した生命の輝きを描き続けた。文筆家としても知られ、画文集やエッセイに記された潔い言葉は世代を超えた多くの人々の共感を集めている。本展では、展覧会初の出品となる作品も含めた代表作の日本画、絵本の原画、素描などに加え、装丁を手がけた書籍、雑誌など関連資料を展示し、その画業を通覧するとともに堀文子の芸術観と人間像に迫った。

主催：神奈川県立近代美術館、神奈川新聞社、
tvk（テレビ神奈川）、FMヨコハマ

企画協力：ナカジマアート

後援：大磯町

会期：2017年11月18日（土）～2018年3月25日（日）

※一部展示替

前期Ⅰ：11月18日（土）～12月17日（日）

前期Ⅱ：12月19日（火）～2018年1月21日（日）

後期Ⅰ：1月23日（火）～2月18日（日）

後期Ⅱ：2月20日（火）～3月25日（日）

休館日：月曜日（1月8日と2月12日は開館）

年末年始（12月29日～1月3日）

開催日数：107日

出品総点数：127点

総観覧者数：40,509人

担当学芸員：西澤晴美、朝木由香、土居由美

関連企画

- 1) 記念講演会「女流画家たちとの出会い」12月16日（土）
講師：大村 智（北里大学特別栄誉教授、学校法人女子美術大学名誉理事長、
葦崎大村美術館館長）
- 2) スペシャルトーク 2月3日（土）
ゲスト：檀 ふみ（女優） 聞き手：水沢 勉
- 3) 館長によるオープニング・トーク 11月18日（日） 話し手：水沢 勉
- 4) 担当学芸員によるギャラリートーク
12月23日（土・祝）、2月17日（土）、3月18日（日）
- 5) 近代美術館入門講座（葉山町共催）「旅と四季 堀文子の世界」
11月25日（土） 会場：葉山町福祉文化会館 講師：西澤晴美
- 6) 先生のための特別鑑賞の時間 1月20日（土）



ポスター



会場風景

カタログ

サイズ：24.8 × 20.5cm、128 ページ、販売価格：2,500 円（税込）
編集：神奈川県立近代美術館
執筆：堀 文子、水沢 勉、西澤晴美
デザイン：小野田昭人（コップェル）
プリンティングディレクター：丹下善尚、小島果歩
発行：神奈川県立近代美術館

目次

ごあいさつ（堀 文子）
生命のリアリズム 白寿記念 堀文子展に際して（水沢 勉）
図版
第 I 章 はじまり
第 II 章 絵本の世界
第 III 章 さすらい
第 IV 章 うつろい
第 V 章 命といふもの
第 VI 章 アトリエ
堀文子 略年譜
作品リスト

関連記事

▼展評・解説など

- ・水沢 勉「白寿記念 堀文子展 きょうから 県立近代美術館葉山 世紀を超えた生命のリアリズム」『神奈川新聞』2017年11月18日、19面
- ・宮川匡司「厳粛な生命の営み描く「白寿記念 堀文子展」」『日本経済新聞』2017年11月29日、44面
- ・ナビゲーター：山根基世「今月のART 美術 自然を間近にみてその奥の“宇宙”を描く」『家庭画報』2018年2月号、2017年12月1日、p.250
- ・下野 綾「美術」白寿記念で大規模回顧展 堀文子 作品で人生たどる」『神奈川新聞』2017年12月4日、12面
- ・藤田一人「美術評「朝倉撰『リアルの自覚』」展「白寿記念 堀文子展」いまと向き合う」『東京新聞』2017年12月8日夕刊、7面
- ・金子 徹「アートなちよう「白寿記念 堀文子展」神奈川県立近代美術館 葉山 命の輝き追究 変わり続ける画風」『しんぶん赤旗』2017年12月10日日曜版、16面
- ・高橋咲子「評 展覧会 白寿記念 堀文子展 多彩な「自然」を表す」『毎日新聞』2017年12月13日夕刊、5面
- ・藤塚正人「「繊細で豊かな感性」ノーベル賞大村さん「堀文子展」で講演 近美葉山」『神奈川新聞』2017年12月17日、18面
- ・藤島俊会「回顧'17 神奈川の文化時評 美術 筋が通った白寿の堀文子 緊張感ほしいヨコトリ」『神奈川新聞』2017年12月25日、6面
- ・「「白寿記念 堀文子展」美の世界を追求」『徳島新聞』2017年12月25日、8面（同内容の記事が『東奥日報』『日本海新聞』『山陽新聞』『信濃毎日新聞』など計18紙に掲載）
- ・淵上えり子「絵や自身と向き合って80年 99歳・堀文子さんの足跡たどる展示」『読売新聞』2018年1月4日、28面
- ・外崎晃彦「かながわ美の手帖 県立近代美術館 葉山館「白寿記念 堀文子展」 年齢重ね輝く人生 99年の軌跡を追う」『産経新聞』2018年1月7日、21面
- ・藤田一人「白寿記念 堀文子展 長寿時代を生き抜くヒント」『公明新聞』2018年1月17日、5面
- ・「神奈川近美「堀文子展」で 大村智さんが記念講演会を開催」『新美術新聞』2018年1月21日（No.1461）、3面
- ・木村尚貴「あふれる好奇心 無垢な心で 堀文子、白寿記念展」『朝日新聞』2018年2月6日夕刊、4面
- ・黒沢綾子「長寿作家 生き方に共感 堀文子展 命の輪廻見つめ続け」『産経新聞』2018年2月22日、23面
- ・武居利史「文化の話題 美術 堀文子展にみる生命のリアリズム」『前衛』2018年3月1日（第959号）、pp.174-175
- ・西澤晴美「白寿記念 堀文子（上）草花のごとく無為に生きる」『神奈川新聞』2018年3月5日、9面
- ・西澤晴美「白寿記念 堀文子（下）珍鳥に見る鑑賞の楽しみ」『神奈川新聞』2018年3月12日、12面

▼展覧会紹介：1紙（1回）／11誌（12回）

▼情報掲載：7紙（65回）／17誌（57回）

▼ウェブ

- ・Alan Gleason, Starting from Zero: The Liberated Nihonga of Fumiko Hori, *artscape japan*, 1 March 2018 (<http://www.dnp.co.jp/artscape/eng/ht/1803.html>)

▼テレビ番組

- ・tvk テレビ神奈川 ニュース番組内での紹介 2月9日
- ・NHK-E テレビ 日曜美術館「アートシーン」1月7日



カタログ

葉山館

735

コレクション展 冬の旅、春の声

From Museum Collection: Winter Journey, Voices of Spring

同時開催の「白寿記念 堀文子展」にあわせ、旅と季節をキーワードとする所蔵品展。世界各地に取材して豊かな画業を展開した堀文子と同様に、異郷を旅し、故郷を訪れ、さまざまな光景に目をとめた美術家たちは、生の息吹きや季節の変化をさまざまに表現してきた。冬から春に向かう葉山の静謐な空気とともに楽しむ展示室での小旅行として、戦前から現代まで、また国内外に渡る12作家の油彩画、日本画、版画、彫刻、現代美術を紹介した。

主催：神奈川県立近代美術館

会期：2017年11月18日(土)～2018年3月25日(日)

休館日：月曜日（1月8日と2月12日は開館）

年末年始（12月29日～1月3日）

開催日数：107日

出品総点数：17点

総観覧者数：40,898人

担当学芸員：三本松倫代、鈴木敬子

関連記事

▼情報掲載：7誌（21回）

関連企画

- 1) 演奏会「冬から春の音風景 澤村祐司が触れる箏の世界」 3月4日(土)
出演：澤村祐司（生田流箏曲家）
- 2) 担当学芸員によるギャラリートーク
12月2日(土)、2月17日(土)、3月18日(日)
- 3) 近代美術館入門講座（葉山町共催）「コレクション展の楽しみ方」
12月2日(土) 会場：葉山町福祉文化会館 講師：三本松倫代



会場風景

鎌倉別館

736

建築家・大高正人と鎌倉別館

Architect OTAKA Masato and Kamakura Annex

改修に伴う長期休館を控え、オリジナルの建築・意匠環境での鎌倉別館で開催する最後の企画展。第1部では同館で開催した展覧会に関する所蔵作品・資料を紹介し33年間の活動を回顧した。第2部では鎌倉別館を設計した建築家・大高正人の美術関連の仕事に焦点を当て、建築図面や模型、映像を紹介するとともに、旧鎌倉館の歩みと閉館後の画像なども紹介した。

主催：神奈川県立近代美術館
会期：2017年5月27日(土)～9月3日(日)
休館日：月曜日(7月17日は開館)
開催日数：87日
出品総点数：130点
総観覧者数：3,196人
担当学芸員：三本松倫代、立花由美子

関連企画

- 1) 連続講演会(平成29年度県立社会教育施設公開講座)
「神奈川の近代建築」(全5回)
場所：鎌倉商工会議所会館 地下ホール
第1回 8月26日(土)「神奈川県に見る戦後建築の出発点―坂倉準三、前川國男、村野藤吾を中心に」
講師：松隈 洋(京都工芸繊維大学教授)
第2回 9月9日(土)「庭園と建築とアートがつくる有機的な環境」
講師：藤原徹平(建築家、横浜国立大学大学院准教授)
第3回 10月28日(土)「鎌倉近代の建築―鎌倉宮から県立近代美術館鎌倉別館まで」講師：吉田鋼市(横浜国立大学名誉教授)
第4回 11月4日(土)「湘南の別荘建築」
講師：藤森照信(建築史家、建築家、東京都江戸東京博物館館長)
第5回 11月25日(土)「震災・敗戦からの復興と近代建築」
講師：木下直之(東京大学教授、静岡県立美術館館長)
- 2) 担当学芸員によるギャラリートーク
6月25日(日)、7月9日(日)、8月6日(日)
- 3) 先生のための特別鑑賞の時間 6月17日(土)



ポスター



会場風景

教育普及活動

教育普及事業実績一覧

受講・参加プログラム(講演会・ギャラリートーク・学校連携プログラム等)

	事業名	事業内容				事業実績	
		テーマまたは内容	講師等	実施日	実施場所	参加方法等	受講人数
講演会	「白寿記念 堀文子展」記念講演会 「女流画家たちとの出会い」 *図1	「堀文子展」を記念した講演会	大村 智(北里大学特別荣誉教授、学校法人女子美術大学名誉理事長、葦崎大村美術館館長)	H29.12.16	葉山館 講堂	事前申込制	71名
ゲストトーク	「没後90年 萬鐵五郎展」巡回館担当学芸員によるトーク *図2	巡回館担当学芸員による作品解説	平澤 広(萬鐵五郎記念美術館学芸員)	H29.7.2	葉山館	自由参加	80名
対談	「木魂を彫る—砂澤ビッキ展」対談:砂澤涼子×酒井忠康 *図3	「砂澤ビッキ展」を記念した対談	砂澤涼子(砂澤ビッキ夫人)、酒井忠康(世田谷美術館館長)	H29.6.3	葉山館 講堂	先着順	100名
スペシャルトーク	「白寿記念 堀文子展」スペシャルトーク *図4	「堀文子展」を記念した対談形式のスペシャルトーク	檀 ふみ(女優)、水沢 勉	H30.2.3	葉山館 講堂	事前申込制	講堂:70名 中継:35名
パフォーマンスイベント等	「木魂を彫る—砂澤ビッキ展」能藤玲子ダンスパフォーマンス「風に聴く」 *図5	展示室内でのダンスパフォーマンス	能藤玲子(舞踊家)、能藤玲子創作舞踊団	H29.5.13	葉山館 第3展示室奥	自由参加	100名
	「木魂を彫る—砂澤ビッキ展」砂澤ビッキの言葉聴く *図6	展示室内での朗読・歌・演奏	朗読・歌: Yae (歌手) 共演: 真砂秀朗 (インディアンフルート奏者)	H29.5.20	葉山館 第3展示室奥	自由参加	80名
ワークショップ	「木魂を彫る—砂澤ビッキ展」ビッキに“触れる”鑑賞ツアー	「砂澤ビッキ展」と屋外彫刻の鑑賞後、特別に用意した砂澤ビッキの彫刻に触れるプログラム	高嶋雄一郎	H29.4.15	葉山館 講堂他	先着順	19名
	「木魂を彫る—砂澤ビッキ展」ビッキに“触れる”鑑賞ツアー	「砂澤ビッキ展」と屋外彫刻の鑑賞後、特別に用意した砂澤ビッキの彫刻に触れるプログラム	高嶋雄一郎	H29.5.5	葉山館 講堂他	先着順	25名
	「木魂を彫る—砂澤ビッキ展」ビッキに“触れる”鑑賞ツアー	「砂澤ビッキ展」と屋外彫刻の鑑賞後、特別に用意した砂澤ビッキの彫刻に触れるプログラム	高嶋雄一郎	H29.5.28	葉山館 講堂他	先着順	14名
	「木魂を彫る—砂澤ビッキ展」自分だけの《樹華》をつくらう	ヤナギの木を組み上げた作品《樹華》の制作を体験するプログラム	高嶋雄一郎	H29.4.22	葉山館 講堂他	先着順	6名/4名/5名
	「木魂を彫る—砂澤ビッキ展」自分だけの《樹華》をつくらう	ヤナギの木を組み上げた作品《樹華》の制作を体験するプログラム	高嶋雄一郎	H29.5.21	葉山館 講堂他	先着順	10名/0名/7名
	「木魂を彫る—砂澤ビッキ展」自分だけの《樹華》をつくらう	ヤナギの木を組み上げた作品《樹華》の制作を体験するプログラム	高嶋雄一郎	H29.6.10	葉山館 講堂他	先着順	9名/12名/2名
	「没後90年 萬鐵五郎展」子どものためのワークショップ「わくわくゆったりマップ」編	2016年度「わくわくゆったりグッズ」を使ったプログラム	高嶋雄一郎	H29.7.25	葉山館 中庭他	自由参加	11名
	「没後90年 萬鐵五郎展」子どものためのワークショップ「わくわくゆったりマップ」編	2016年度「わくわくゆったりグッズ」を使ったプログラム	高嶋雄一郎	H29.8.1	葉山館 中庭他	自由参加	20名
	「没後90年 萬鐵五郎展」子どものためのワークショップ「ぼくもわたしもてつごろう」編	2017年度「わくわくゆったりグッズ」を使ったプログラム	高嶋雄一郎	H29.8.4	葉山館 中庭他	自由参加	10名
	「没後90年 萬鐵五郎展」子どものためのワークショップ「ぼくもわたしもてつごろう」編	2017年度「わくわくゆったりグッズ」を使ったプログラム	高嶋雄一郎	H29.8.18	葉山館 中庭他	自由参加	10名
	「没後90年 萬鐵五郎展」子どものためのワークショップ「ぼくもわたしもてつごろう」編	2017年度「わくわくゆったりグッズ」を使ったプログラム	土居由美	H29.7.4	葉山館 講堂	団体来館	16名(横須賀市内中学校)
	「没後90年 萬鐵五郎展」子どものためのワークショップ「ぼくもわたしもてつごろう」編	2017年度「わくわくゆったりグッズ」を使ったプログラム	高嶋雄一郎	H29.7.21	葉山館 中庭他	団体来館	25名(三浦市内中学校)
	「没後90年 萬鐵五郎展」子どものためのワークショップ「ぼくもわたしもてつごろう」編	2017年度「わくわくゆったりグッズ」を使ったプログラム	土居由美	H29.8.8	葉山館 講堂	団体来館	9名(逗子市内中学校)
	彫刻ツアー	野外彫刻を鑑賞するプログラム	高嶋雄一郎	H29.7.25	葉山館 中庭他	自由参加	11名
	彫刻ツアー	野外彫刻を鑑賞するプログラム	高嶋雄一郎	H29.8.1	葉山館 中庭他	自由参加	19名
造形ワークショップ	子どもに向けた創作系プログラム(2種類)	岡 典明(美術家)	H29.11.5	葉山館 講堂	自由参加	46名/42名	
造形ワークショップ	子どもに向けた創作系プログラム(2種類)	岡 典明(美術家)	H29.12.3	葉山館 講堂	自由参加	54名/56名	
造形ワークショップ	子どもに向けた創作系プログラム(2種類)	岡 典明(美術家)	H30.1.7	葉山館 講堂	自由参加	37名/55名	
ギャラリートーク	「木魂を彫る—砂澤ビッキ展」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による作品解説	橋 秀文	H29.4.9	葉山館	自由参加	10名
	「木魂を彫る—砂澤ビッキ展」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による作品解説	橋 秀文	H29.5.6	葉山館	自由参加	16名
	「木魂を彫る—砂澤ビッキ展」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による作品解説	橋 秀文	H29.6.17	葉山館	自由参加	70名
	「木魂を彫る—砂澤ビッキ展」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による作品解説	橋 秀文	H29.5.13	葉山館	団体来館	70名(都内大学)
	「木魂を彫る—砂澤ビッキ展」館長トーク	館長による開催展覧会解説	水沢 勉	H29.5.3	葉山館	自由参加	42名
	コレクション展「躍動する個性—大正の新しさ」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による作品解説	橋 秀文	H29.4.9	葉山館	自由参加	12名
	コレクション展「躍動する個性—大正の新しさ」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による作品解説	橋 秀文	H29.5.6	葉山館	自由参加	8名
	コレクション展「躍動する個性—大正の新しさ」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による作品解説	橋 秀文	H29.6.17	葉山館	自由参加	14名
「建築家・大高正人と鎌倉別館」展担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による作品解説	三本松倫代	H29.6.25	鎌倉別館	自由参加	2名	

事業名	事業内容				事業実績		
	テーマまたは内容	講師等	実施日	実施場所	参加方法等	受講人数	
ギャラリートーク	「建築家・大高正人と鎌倉別館」展担当学芸員によるギャラリートーク *図7	学芸員による作品解説	三本松倫代	H29.7.9	鎌倉別館	自由参加	7名
	「建築家・大高正人と鎌倉別館」展担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による作品解説	三本松倫代	H29.8.6	鎌倉別館	自由参加	10名
	「没後90年 萬鐵五郎展」館長トーク	「萬鐵五郎／その創造の秘密」	水沢 勉	H29.7.16	葉山館	自由参加	70名
	「没後90年 萬鐵五郎展」担当学芸員によるギャラリートーク	「雲煙飛動の人／萬鐵五郎」	長門佐季	H29.7.30	葉山館	自由参加	50名
	「没後90年 萬鐵五郎展」担当学芸員によるギャラリートーク	「雲煙飛動の人／萬鐵五郎」	長門佐季	H29.8.5	葉山館	自由参加	28名
	「没後90年 萬鐵五郎展」担当学芸員によるギャラリートーク	「雲煙飛動の人／萬鐵五郎」	高嶋雄一郎	H29.8.27	葉山館	自由参加	40名
	「生誕160年 マックス・クリンガー版画展」& コレクション展「1937—モダニズムの分岐点」館長トーク	館長による開催展覧会解説	水沢 勉	H29.9.16	葉山館	自由参加	34名
	「生誕160年 マックス・クリンガー版画展」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による作品解説	梶山昌夫	H29.10.15	葉山館	自由参加	10名
	「生誕160年 マックス・クリンガー版画展」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による作品解説	梶山昌夫	H29.10.21	葉山館	自由参加	13名
	「生誕160年 マックス・クリンガー版画展」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による作品解説	梶山昌夫	H29.11.2	葉山館	自由参加	18名
	コレクション展「1937—モダニズムの分岐点」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による作品解説	朝木由香	H29.9.23	葉山館	自由参加	13名
	コレクション展「1937—モダニズムの分岐点」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による作品解説	橋 秀文	H29.10.21	葉山館	自由参加	10名
	コレクション展「1937—モダニズムの分岐点」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による作品解説	橋 秀文	H29.11.2	葉山館	自由参加	10名
	「白寿記念 堀文子展」館長トーク	館長による開催展覧会解説	水沢 勉	H29.11.18	葉山館	自由参加	25名
	「白寿記念 堀文子展」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による作品解説	西澤晴美	H29.12.23	葉山館	自由参加	35名
	「白寿記念 堀文子展」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による作品解説	西澤晴美	H30.2.17	葉山館	自由参加	40名
	「白寿記念 堀文子展」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による作品解説	西澤晴美	H30.3.18	葉山館	自由参加	64名
	コレクション展「冬の旅、春の声」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による作品解説	三本松倫代	H29.12.2	葉山館	自由参加	12名
	コレクション展「冬の旅、春の声」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による作品解説	三本松倫代	H30.2.17	葉山館	自由参加	25名
	コレクション展「冬の旅、春の声」担当学芸員によるギャラリートーク	学芸員による作品解説	三本松倫代	H30.3.18	葉山館	自由参加	11名
県立社会教育施設公開講座	県立社会教育施設公開講座「連続講演会・神奈川の近代建築」／第1回	「神奈川県に見る戦後建築の出発点—坂倉準三、前川國男、村野藤吾を中心に」	松隈 洋(京都工芸繊維大学教授)	H29.8.26	鎌倉商工会議所会館	事前申込制	60名
	県立社会教育施設公開講座「連続講演会・神奈川の近代建築」／第2回	「庭園と建築とアートがつくる有機的な環境」	藤原徹平(建築家、横浜国立大学大学院准教授)	H29.9.9	鎌倉商工会議所会館	事前申込制	33名
	県立社会教育施設公開講座「連続講演会・神奈川の近代建築」／第3回	「鎌倉近代の建築—鎌倉宮から県立近代美術館 鎌倉別館まで」	吉田鋼市(横浜国立大学名誉教授)	H29.10.28	鎌倉商工会議所会館	事前申込制	36名
	県立社会教育施設公開講座「連続講演会・神奈川の近代建築」／第4回 *図8	「湘南の別荘建築」	藤森照信(建築史家、建築家、東京都江戸東京博物館館長)	H29.11.4	鎌倉商工会議所会館	事前申込制	100名
	県立社会教育施設公開講座「連続講演会・神奈川の近代建築」／第5回	「震災・敗戦からの復興と近代建築」	木下直之(東京大学教授、静岡県立美術館館長)	H29.11.25	鎌倉商工会議所会館	事前申込制	43名
先生のための特別鑑賞の時間	先生のための特別鑑賞の時間／第1回鑑賞編	「砂澤ビッキ展」鑑賞、担当学芸員による解説、意見交換、ワークショップの体験等	橋 秀文、土居由美、鈴木敬子	H29.5.6	葉山館	事前申込制	8名
	先生のための特別鑑賞の時間／第2回実践編	コレクション展「躍動する個性—大正の新しさ」鑑賞、担当学芸員による解説、意見交換、「Museum Box 宝箱」の体験等	橋 秀文、土居由美、高原茉莉奈	H29.6.4	葉山館	事前申込制	6名
	先生のための特別鑑賞の時間／第3回鑑賞編	「建築家・大高正人と鎌倉別館」展鑑賞、担当学芸員による解説、鎌倉別館の建築や野外彫刻の鑑賞等	三本松倫代、立花由美子	H29.6.17	鎌倉別館	事前申込制	10名
	先生のための特別鑑賞の時間／第4回鑑賞編	「萬鐵五郎展」鑑賞、担当学芸員による解説、意見交換、2017年度「わくわくゆったりグッズ」の紹介等	長門佐季、土居由美、鈴木敬子、高原茉莉奈	H29.7.9	葉山館	事前申込制	14名
	先生のための特別鑑賞の時間／第5回鑑賞編	「マックス・クリンガー版画展」鑑賞、担当学芸員による解説、広報印刷物についての意見交換等	梶山昌夫、土居由美、高原茉莉奈、鈴木敬子	H29.10.15	葉山館	事前申込制	16名
	先生のための特別鑑賞の時間／第6回実践編 *図9	コレクション展「1937—モダニズムの分岐点」鑑賞、担当学芸員による解説、意見交換、「Museum Box 宝箱」の体験等	朝木由香、土居由美、鈴木敬子、八木めぐみ	H29.10.21	葉山館	事前申込制	7名
	先生のための特別鑑賞の時間／第7回特別編「葉山館の庭で彫刻探検」	葉山館の野外彫刻の鑑賞、2016年度「わくわくゆったりグッズ」を用いたワークショップの体験等	高嶋雄一郎、鈴木敬子、八木めぐみ	H29.11.19	葉山館	事前申込制	10名
	先生のための特別鑑賞の時間／第8回実践編	コレクション展「冬の旅、春の声」鑑賞、担当学芸員による解説、意見交換、「Museum Box 宝箱」の体験等	三本松倫代、立花由美子	H29.12.3	葉山館	事前申込制	4名
	先生のための特別鑑賞の時間／第9回鑑賞編	「堀文子展」鑑賞、担当学芸員による解説、意見交換等	西澤晴美、高原茉莉奈、鈴木敬子	H30.1.20	葉山館	事前申込制	8名
	先生のための特別鑑賞の時間／第10回特別編「ブルーノ・ムナーリ」	ブルーノ・ムナーリについての解説、意見交換等	高嶋雄一郎、鈴木敬子、八木めぐみ	H30.2.24	葉山館	事前申込制	21名

事業名		事業内容				事業実績	
		テーマまたは内容	講師等	実施日	実施場所	参加方法等	受講人数
葉山アート・アカデミー	葉山アート・アカデミー	エイゼンシテイン監督映画作品 上映会とスライド・トーク「戦艦ポチョムキン」	羽山昌夫	H29.10.7	葉山館 講堂	自由参加	14名
	葉山アート・アカデミー	エイゼンシテイン監督映画作品 上映会とスライド・トーク「十月」	羽山昌夫	H29.10.8	葉山館 講堂	自由参加	10名
	葉山アート・アカデミー	エイゼンシテイン監督映画作品 上映会とスライド・トーク「全線～古きものと新しきもの～」	羽山昌夫	H29.10.9	葉山館 講堂	自由参加	9名
	葉山アート・アカデミー	コレクション展「1937—モダニズムの分岐点」スライド・トーク	朝木由香	H29.10.29	葉山館 講堂	自由参加	3名
	葉山アート・アカデミー「アート・ディレクターとしての北原白秋」	「アート・ディレクターとしての北原白秋」	橋 秀文	H29.11.22	葉山館 講堂	自由参加	8名
	葉山アート・アカデミー「アート・ディレクターとしての北原白秋」	「北原白秋 視覚の変遷」	橋 秀文	H29.11.29	葉山館 講堂	自由参加	8名
	葉山アート・アカデミー「アート・ディレクターとしての北原白秋」	「北原白秋 異国趣味から西洋への誘惑へ」	橋 秀文	H29.12.6	葉山館 講堂	自由参加	12名
	葉山アート・アカデミー「アート・ディレクターとしての北原白秋」	「再度、アート・ディレクターとしての北原白秋」	橋 秀文	H29.12.13	葉山館 講堂	自由参加	11名
地域連携	ミュージアム・トリップ(鎌倉市立第一中学校連携授業)事前学習	オリエンテーション及びワークショップ	高嶋雄一郎、土居由美	H29.5.19	鎌倉市立第一中学校		15名
	ミュージアム・トリップ(鎌倉市立第一中学校連携授業)	展覧会鑑賞及びワークショップ	高嶋雄一郎、土居由美	H29.5.25	葉山館		15名
	ミュージアム・トリップ(鎌倉市立第一中学校連携授業)	展覧会鑑賞及びワークショップ	橋 秀文、土居由美	H29.6.8	葉山館		15名
	ミュージアム・トリップ(鎌倉市立第一中学校連携授業)	展覧会鑑賞及びワークショップ	三本松倫代、立花由美子	H29.6.29	鎌倉別館		15名
	ミュージアム・トリップ(鎌倉市立第一中学校連携授業)	ワークショップ	高嶋雄一郎、土居由美	H29.9.7	葉山館		15名
	美術教室(鎌倉学園中学校連携授業)	展覧会鑑賞、担当学芸員による解説、意見交換等	三本松倫代、立花由美子	H29.6.3	鎌倉別館		83名
	美術教室(鎌倉学園中学校連携授業)	展覧会鑑賞、担当学芸員による解説、意見交換等	三本松倫代、立花由美子	H29.6.10	鎌倉別館		91名
	美術館学入門(県立藤沢清流高等学校連携授業)	展覧会鑑賞、担当学芸員による解説、意見交換等	三本松倫代、立花由美子	H29.6.9	鎌倉別館		9名
	横浜国立大学附属鎌倉小学校連携授業	展覧会鑑賞、担当学芸員による解説、意見交換等	三本松倫代、立花由美子	H29.7.4	鎌倉別館		33名
	横浜国立大学附属鎌倉小学校連携授業	展覧会鑑賞、担当学芸員による解説、意見交換等	三本松倫代、立花由美子	H29.7.12	鎌倉別館		66名
	横浜国立大学附属鎌倉小学校連携授業	展覧会鑑賞、担当学芸員による解説、意見交換等	三本松倫代、立花由美子	H29.7.13	鎌倉別館		32名
	横浜国立大学附属鎌倉小学校連携授業	展覧会鑑賞、担当学芸員による解説、意見交換等	三本松倫代、立花由美子	H29.7.14	鎌倉別館		111名
葉山町文化祭館長講座	「美術館と暮らす 鎌倉と葉山で」	水沢 勉	H29.11.5	葉山町福祉文化会館	自由参加	12名	
地域連携(葉山町)	近代美術館入門講座(葉山町共催連続講座)／第1回	「初めての砂澤ピッキ」	橋 秀文	H29.4.15	葉山町福祉文化会館	自由参加	8名
	近代美術館入門講座(葉山町共催連続講座)／第2回	「萬籟五郎と湘南」	長門佐季	H29.7.15	葉山町福祉文化会館	自由参加	38名
	近代美術館入門講座(葉山町共催連続講座)／第3回	「海外超現実主義作品展(1937年)について」	朝木由香	H29.9.23	葉山町福祉文化会館	自由参加	19名
	近代美術館入門講座(葉山町共催連続講座)／第4回	「マックス・クリンガーについて」	羽山昌夫	H29.10.7	葉山町福祉文化会館	自由参加	25名
	近代美術館入門講座(葉山町共催連続講座)／第5回	「旅と四季 堀文子の世界」	西澤晴美	H29.11.25	葉山町福祉文化会館	自由参加	40名
	近代美術館入門講座(葉山町共催連続講座)／第6回	「コレクション展の楽しみ方」	三本松倫代	H29.12.2	葉山町福祉文化会館	自由参加	24名
出張授業	逗子市立久木中学校	「Museum Box 宝箱」を使った授業	羽山昌夫、土居由美、高原茉莉奈	H29.5.29	久木中学校	授業数4	124名
	横浜市立文庫小学校	「Museum Box 宝箱」を使った授業	高嶋雄一郎、高原茉莉奈、立花由美子	H29.11.10	文庫小学校	授業数2	72名
	横須賀市立養護学校	来館に向けた事前学習	橋 秀文、土居由美、高原茉莉奈、鈴木敬子	H29.10.18	横須賀市立養護学校		16名
	横須賀市立養護学校	展示室鑑賞・庭園散歩	橋 秀文、土居由美、高原茉莉奈、八木めぐみ	H29.10.20	葉山館		7名
	横浜市立六浦南小学校	創作ワークショップ 「部分から全体を想像しよう」	羽山昌夫、土居由美、高原茉莉奈、鈴木敬子	H29.10.24	六浦南小学校	授業数2	54名
	横浜市立瀬ヶ崎小学校	創作ワークショップ	高嶋雄一郎、高原茉莉奈、八木めぐみ	H29.12.12	瀬ヶ崎小学校	授業数4	140名
	インクルーシブ出張授業	創作ワークショップ 「ポータブル・アート・ミュージアム」	羽山昌夫、高嶋雄一郎、高原茉莉奈	H29.8.5	ハッピーテラス茅ヶ崎		7名
	インクルーシブ出張授業	創作ワークショップ 「ポータブル・アート・ミュージアム」	羽山昌夫、鈴木敬子	H29.8.6	ハッピーテラス茅ヶ崎		12名

事業名	事業内容				事業実績		
	テーマまたは内容	講師等	実施日	実施場所	参加方法等	受講人数	
「公益財団法人かながわ国際交流財団連携事業 「みんなでまなびほぐす美術館」社会を包む教育普及事業」(MMUPA)	学生ボランティアのガイダンス	髙山昌夫	H29.5.14	葉山館		7名	
	学生ボランティアのガイダンス	髙山昌夫	H29.6.11	神奈川韓国 会館		26名	
	学生ボランティアのガイダンス	髙山昌夫	H29.6.27	関東学院大学 関内キャンパス		21名	
	学生ボランティアのガイダンス	髙山昌夫	H29.7.1	関東学院大学 関内キャンパス		28名	
	フォーラムに向けた事前学習	内山早苗(株式会社UDジャパン)	H29.6.27	関東学院大学 関内キャンパス		7名(当館から の参加人数)	
	フォーラム「みんなでまなびほぐす美術館」	ライラ・カセム(グラフィックデザイナー)、 光島貴之(美術家・鍼灸師)他	H29.7.8	関東学院大学 関内キャンパス		68名(一般 参加人数)	
	写真ワークショップ	「あなたとポートレート ～あなたらしく、わたしらしく～」	鈴木建男(写真家)	H29.10.14	葉山館 講堂		17名
	生田流箏曲家 澤村祐司による箏の演奏会 *図10	「冬から春の音風景 澤村祐司が触れる箏の世界」	澤村祐司(生田流箏曲家)	H30.3.4	葉山館 第3 展示室奥	自由参加	120名
	鑑賞ミニワークショップ	展覧会を語り、野外彫刻に触れながら鑑賞する ミニワークショップ	高原茉莉奈	H30.3.4	葉山館 講堂等		3名
	澤村祐司氏との交流会	澤村祐司氏と親子2組の交流	髙山昌夫、土居由美	H30.3.4	葉山館 講堂		6名
	講演会 *図11	「ユニバーサル・ミュージアムとは何かー触文 化論に基づく展示・教育普及事業」	広瀬浩二郎(国立民族学博物館准教授)	H30.3.21	葉山館 講堂		29名
実習・研修等受入	博物館学芸員実習	計10日間/6大学(県内・都内)の受入	高嶋雄一郎	H29.7.26～ H29.9.19	葉山館 講堂		8名 (延べ80名)
	インターン研修	計20日間/1大学(都内)の受入	三本松倫代	H29.9.9～ H30.3.30	葉山館、 鎌倉別館等		1名 (延べ20名)
	高校生インターンシップ	計3日間/5校(県内)の受入	土居由美、高原茉莉奈、鈴木敬子、 三本松倫代、立花由美子	H29.8.1 H29.8.3 H29.8.4	葉山館、 鎌倉別館		7名
	中学生職業体験	計6日間/5校(葉山町内、逗子市内、横須賀市 内)の受入	髙山昌夫、高原茉莉奈、八木めぐみ、 山中久美子	H29.11.9～ H29.11.24	葉山館		14名
	教員研修	県立総合教育センター主催 教員研修	土居由美	H29.7.27	葉山館		19名
	教員研修	藤沢市立大道小学校	土居由美	H29.8.1 H29.8.2	葉山館		1名
	教員研修	県立鎌倉養護学校	土居由美	H29.8.1～ H29.8.3	葉山館		2名
	教員研修	県立小田原工業高等学校	土居由美	H29.8.3～ H29.8.4	葉山館		1名
	教員研修	逗葉三浦合同小・中学校初任者研修会	土居由美	H29.8.18	葉山館		25名
その他	全国美術館会議	水沢 勉、橋 秀文、髙山昌夫、三本松倫代	H29.5.25 H29.5.26	鎌倉 プリンス ホテル		4名 (当館から の参加人数)	



図1.「白寿記念 堀文子展」
記念講演会「女流画家たちとの出会い」 講師:大村 智
日時:12月16日(土) 午後3時-4時
場所:葉山館 講堂



図2.「没後90年 萬籟五郎展」
巡回館担当学芸員によるトーク 講師:平澤 広
日時:7月2日(日) 午後2時-3時
場所:葉山館 展示室



図3.「木魂を彫る—砂澤ビッキ展」
対談 砂澤涼子、酒井忠康
日時:6月3日(土) 午後2時-3時30分
場所:葉山館 講堂



図4.「白寿記念 堀文子展」
スペシャルトーク ゲスト:檀 ふみ
日時:平成30年2月3日(土) 午後2時-3時
場所:葉山館 講堂



図5.「木魂を彫る—砂澤ビッキ展」
能藤玲子ダンスパフォーマンス「風に聴く」
日時:5月13日(土) 午後2時-2時30分
場所:葉山館 展示室



図6.「木魂を彫る—砂澤ビッキ展」
砂澤ビッキの言葉を聴く 出演:Yae、真砂秀朗
日時:5月20日(土) 午後2時-3時
場所:葉山館 展示室



図7.「建築家・大高正人と鎌倉別館」展
担当学芸員によるギャラリー・トーク
日時:7月9日(日) 午後2時-2時30分
場所:鎌倉別館 展示室

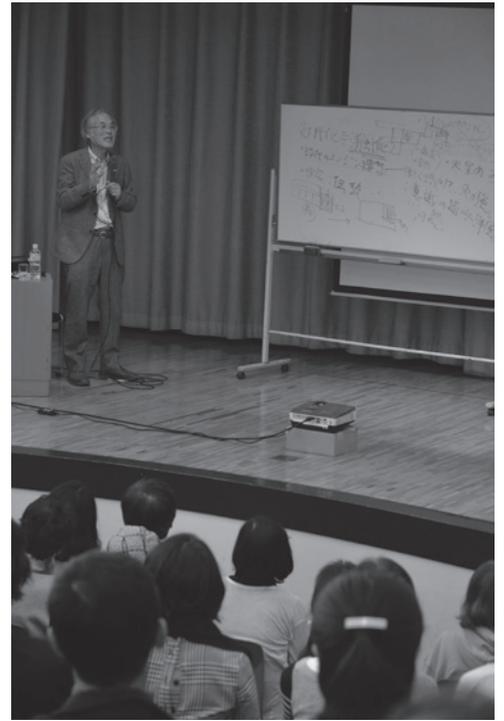


図8. 連続講演会 県立社会教育施設公開講座
第4回 「湘南の別荘建築」 講師:藤森照信
日時:11月4日(土) 午後1時30分-3時30分
場所:鎌倉商工会議所会館



図9. コレクション展「1937—モダニズムの分岐点」
先生のための特別鑑賞の時間 第6回実践編
日時:10月21日(土) 午前10時-午後12時30分
場所:葉山館 展示室



図10. かながわ国際交流財団連携事業
「冬から春の音風景 澤村祐司が触れる箏の世界」
日時:平成30年3月4日(日) 午後3時-4時
場所:葉山館 展示室



図11. かながわ国際交流財団連携事業
「ユニバーサル・ミュージアムとは何か—触文化論に基づく展示・教育普及事業」
講師:広瀬浩二郎
日時:平成30年3月21日(水・祝) 午後2時-3時30分
場所:葉山館 講堂

「Museum Box 宝箱」貸出

内容	件数等
貸出総数	93個
貸出先	12校と3団体
貸出回数	15回
利用総人数	1480名
内訳	小学校：6校
	中学校：2校
	大学：3校
	その他：4団体
地域	横浜市8ヶ所、葉山町2ヶ所、鎌倉市2ヶ所、茅ヶ崎市、三浦市、東京都

団体来館受入状況 (註)

団体種別	件数等
教育機関等	小学校：1校／延べ1回247名
	中学校：3校／延べ3回200名
	高校：2校／延べ3回37名
	大学：4校／延べ4回164名
	特別支援学級等：3校／延べ3回45名
一般	生涯学習センター等団体：6団体／延べ6回148名
	病院・福祉団体：5団体／延べ7回116名
	美術予備校等の団体：1団体／延べ1回15名
	他美術館からの団体：2団体／延べ2回89名
	旅行会社・観光等の団体：6団体／延べ9回211名
	その他団体：10団体／延べ10回254名

〔註〕

1. 7月4日、21日、8月8日の団体来館受入れ時には、ワークショップを実施した（「教育普及事業実績一覧」p.18参照）。
2. 5月13日の団体来館受入れ時には、担当学芸員がギャラリートークを行った。
3. このデータは事前申込による団体来館受入数に限る。

視察受入状況

年	月日	来館者	人数	視察場所
2017年 (平成29年)	4月28日(金)	福井県環境営業部参事	2人	葉山館
	5月16日(火)	鳥取中部ふるさと広域連合議会	18人	葉山館
	7月12日(火)	神奈川県教育委員会教育委員	10人	鎌倉別館
	8月4日(金)	神奈川県教育委員会教育長	1人	葉山館
	8月30日(水)	自由民主党神奈川県議会議員団文教部会	8人	葉山館
2018年 (平成30年)	1月24日(水)	大阪市議会	25人	葉山館
	2月8日(木)	神奈川県知事	3人	葉山館

美術図書室

藤代知子

1) 資料の収集・整理

- ・蔵書数(システム登録 2018年3月末現在) 91,367冊
- ・2017年度新規図書・AV・図録登録数 4,701冊
- ・佐野繁次郎資料 127点の整理

2) システム環境整備

- ・閲覧室のNTTdocomo Wi-Fi 環境整備
- ・2018年度システム更新にむけて、図書システム見直しワーキング
- ・2018年度美術図書館横断検索リニューアルにむけた、OPACと横断検索の利便性向上のための検討・調整

3) 特別コレクション

- ・青木茂文庫の登録・整理

4) 閲覧サービス

- ・年間入室者数 4,995名(開館日1日平均18名)
- ・年間複写枚数 1,450枚(開館日1日平均5枚)
- ・年間レファレンス受付件数 141件

・入室者状況

美術図書室の利用では、展覧会別で「没後90年 萬鐵五郎展」が1日平均24名、「木魂を彫る一砂澤ビッキ展/コレクション展 躍動する個性—大正の新しさ」が1日平均19名と多かった。

展覧会観覧者数に対する美術図書室入室者数の比率は「木魂を彫る一砂澤ビッキ展/コレクション展 躍動する個性—大正の新しさ」が11.7%と最も高かった。

・レファレンス状況

レファレンス受付件数では、「白寿記念 堀文子展/コレクション展 冬の旅、春の声」開催期間中が最も多く、計46件であった。特集コーナーに出している資料のなかで、堀文子のある作品が載っている資料はどれか、など展覧会に連動したレファレンスがなかった。

当年度のレファレンスとして、「岡本彌壽子の資料」「平櫛田中の伝記」「村井正誠《天使とトビア》」が最近展示されたのは、何の展覧会か「レオナルド・ダ・ヴィンチ《最後の晩餐》が大きく載っている資料」「熊谷守一の猫の絵が多く載っている資料」「開催中の横浜トリエンナーレに関する資料」「藤田嗣治の画集、特に戦争画が載っている資料」「寺内萬治郎の資料」「葉山に現存する近代建築の資料」などがあった。

5) 展覧会関連資料の展示

美術図書室では、展覧会関連資料を「特集コーナー」としてわかりやすくまとめ、来室者が手にとって閲覧できるようにしている。展覧会を見る前や後に、作家や作品の情報を得たり、更に知りたい内容を深めたりできると、来室者に好評を博している。

・「木魂を彫る一砂澤ビッキ展」

『砂澤ビッキ作品集』(用美社、1989)、『砂澤ビッキ素描 北の女』(用美社、1990)などの作品集や、浅川泰『砂澤ビッキ 風に聴く』(北海道新聞社、1996)、柴橋伴夫『風の王 砂澤ビッキの世界』(響文社、2001)、館内にアトリエが再現されている『洞爺湖芸術館』(洞爺湖町、2007)の刊行物や、個展図録『砂澤ビッキ展』(北海道立旭川美術館、1990)、『TENTACLE 砂澤ビッキ展』(北海道立近代美術館、1994)、『樹気 砂澤ビッキ展 札幌芸術の森15周年記念』(札幌市芸術文化財団、2001)を展示した。

同じく北海道で開催され、砂澤ビッキも出品したグループ展図録『北海道現代美術展 第1回』(北海道立近代美術館、1978)、『イメージ・群 北海道の美術 '86』(北海道立近代美術館、1986)、『イメージ・響 北海道の美術 '87』(北海道立近代美術館、1987)、『イメージ・動 北海道の美術 '88』(北海道立近代美術館、1988)、『創造と回帰 現代木彫の潮流』(北海道立近代美術館、2010)など計22冊を展示し、作家活動の一端を紹介した。

・コレクション展「躍動する個性—大正の新しさ」

大正時代の新興美術を主題とした資料、朝日新聞社/北海道立函館美術館/長野県辰野町郷土資料館編『アクション展 大正新興美術の息吹』(朝日新聞社、1989)、北澤憲昭『岸田劉生と大正アヴァンギャルド』(岩波書店、1993)、五十殿利治『大正期新興美術運動の研究』(スカイドア、1995)、五十殿利治ほか『大正期新興美術資料集成』(国書刊行会、2006)、和歌山県立近代美術館編『動き出す! 絵画 ペール北山の夢 モネ、ゴッホ、ピカソらと大正の若き洋画家たち』(和歌山県立近代美術館ほか、2016)をはじめ、各出品作家の展覧会図録『木村荘八展 生誕100年 大正モダンと回想的風俗』(練馬区立美術館、1993)、神奈川県立近代美術館ほか編『関根正二展 生誕100年』(神奈川県立近代美術館/福島県立美術館/愛知県美術館、1999)、大阪市立美術館編『岸田劉生展 生誕120周年記念』(大阪市立美術館/読売新聞社/読売テレビ、2011)など計26冊を展示した。

・「没後90年 萬鐵五郎展」

研究書や伝記の『鉄人画論』(中央公論美術出版、1985)、村上善男『萬鐵五郎 土沢から茅ヶ崎へ』(有隣堂、1991)、『萬鐵五郎 鉄人アヴァンギャルド』(二玄社、1997)、陰里鉄郎『萬鐵五郎 生涯と芸術』(『陰里鉄郎著作集』編集委員、2007)などをはじめ、萬鐵五郎記念美術館で行われた展覧会図録と刊行物『萬鐵五郎 生涯展』(1989)、『萬鐵五郎 多面体展 萬鐵五郎と郷土の造形 開館10周年記念』(1994)、『萬鐵五郎の自画像 わが内なるカオス』(1995)、『萬鐵五郎書簡集』(1999)、『黒田清輝と萬鐵五郎展 明治・大正、ふたりの変革者』(2000)、『再考・萬鐵五郎展』(2006)、『萬鐵五郎初期素描展 初学入門の人達に』(2011)、『萬鐵五郎七変化 わが内なる自画像』(2013)、『萬鐵五郎を解いて、見る。 観る・読む・語る 萬鐵五郎』(2016)や、岩手県立博物館編『萬鐵五郎 水彩画作品集 岩手県立博物館所蔵』(岩手県立博物館友の会、1981)、『萬鐵五郎展 生誕100周年記念』(岩手県文化振興事業団、1985)など計30冊を展示した。

・「生誕 160 年 マックス・クリンガー版画展」
 クリンガーの洋書、海外展覧会図録である J. Kirk T. Varnedoe, *Graphic Works of Max Klinger*, Dover, 1977., *Max Klinger: 1857-1920: Beeldhouwwerken, Schilderijen, Tekeningen, Grafiek*, Museum Boymans-van Beuningen, 1978., Dieter Gleisberg [et al], *Max Klinger: Wege zum Gesamtkunstwerk*, Philipp von Zabern, c1984., *Eine Liebe: Max Klinger und die Folgen*, Kerber, c2007.をはじめ、国内展覧会図録の『マックス・クリンガー版画展 不安のイメージ/イメージの不安』(北海道立近代美術館、1981)、国立西洋美術館編『マックス・クリンガー展 ライブツィヒ美術館/国立西洋美術館所蔵作品』(アイメックス [制作]、1988)、『マックス・クリンガー 版画』(高知県立美術館、1996) を展示した。

また、関連図書として、宮城県美術館ほか編『ウィーン分離派 1898-1918』(東京新聞、2001)、神奈川県立近代美術館ほか編『白樺派の愛した美術『白樺』 誕生 100 年』(読売新聞大阪本社、2009)、池田祐子編『西洋近代の都市と芸術 4 ウィーン 総合芸術に宿る夢』(竹林舎、2016) など計 12 冊を展示した。

・コレクション展「1937—モダニズムの分岐点」
 『村井正誠作品集』(美術出版社、1974)、久保貞次郎編『小野忠重版画集』(形象社、1977)、『阿部合成展 ふるさと脱出と回帰願望 浪岡町町村合併 40 周年記念事業』(浪岡町中世の館、1995)、『内田巖展 没後 50 年 猪熊弦一郎・小磯良平とともに』(新見美術館、2004)、大阪市立近代美術館建設準備室ほか編『吉原治良展 生誕 100 年記念』(朝日新聞社、2005)、『麻生三郎展』(東京国立近代美術館、2010)、加藤俊明ほか編『松本竣介展 生誕 100 年』(NHK ブラネット東北/NHK プロモーション、2012)、村山知義研究会編『村山知義の宇宙 すべての僕が沸騰する』(読売新聞社/美術館連絡協議会、2012)、『朝井閑右衛門展 空想の饗宴』(練馬区立美術館、2016) など、各出品作家の資料を 2、3 冊ずつ展示した。

また、山中散生宛書簡がまとめて出品されたことにあわせ、黒沢義輝編『山中散生・1930 年代のオルガナイザー コレクション・日本シュールレアリスム 6』(本の友社、1999) など計 22 冊を展示した。

・「白寿記念 堀文子展」
 堀は多くの画文集が刊行されており、展覧会も開催されているため、それらの資料をまとめて展示できる機会となった。展覧会会場でも原画が展示されていた絵本、与田準一/作、堀文子/画『はなとあそんできた ふみこちゃん』『ビップとちようちよう』(福音館書店、1989)、谷川俊太郎/詩、堀文子/絵、諸井誠/曲『き』、堀文子/絵と文『みち』(至光社、1990、2002) には興味を惹かれる来室者が多く、たびたび手に取る姿がみられた。
 画文集は、『花 堀文子画文集』(日本交通公社出版事業局、1982)、『季 堀文子画文集』(日本交通公社出版事業局、1984)、『時の刻印 堀文子画文集』(求龍堂、1999)、『命といふもの 堀文子画文集』(小学館、2007)、『ホルトの木の下で』(幻戯書房、2009)、『無心にして花を尋ね 堀文子画文集 第 2 集』(小学館、2009)、『名もなきものの力 堀文子画文集 第 3 集』(小学館、2012) など、展覧会図録

は『堀文子展 その歳月』(朝日新聞社文化企画局企画第一部、1991)、勝山滋編『堀文子展』(平塚市美術館、2010)、石井恵美編『堀文子展 命の不思議』(長野県信濃美術館、2011) など計 25 冊を展示した。

・コレクション展「冬の旅、春の声」
Abraham David Christian: der heilige Mensch, alle Erde, danzas contra la morte, Transit, Württembergischer Kunstverein, 1982., 『Abraham David Christian: Sculpture』(Gatodo Gallery, 1988)、『御舟・青樹・雞村 原三溪翁ゆかりの作家たち』(三溪園保勝会、1991)、『馥郁タル火夫ヨ 生誕 100 年 西脇順三郎その詩と絵画』(神奈川近代文学館/神奈川県立近代美術館、1994)、山口蓬春記念館/渋谷区立松濤美術館編『山口蓬春 新日本画への軌跡』(山口蓬春記念館、1997)、『山本正道展 風・記憶・かたち 開館 40 周年記念』(彫刻の森美術館、2009)、東京パブリッシングハウス編『版画にみる戦後ドイツの美術 E. マタレーから A.D. クリスチャン』(富士ゼロックス、2009)、『朝倉展 アバンギャルド少女』(BankART1929、2010)、宮崎進『冬の旅』(新潮社 図書編集室、2014)、谷中安規『谷中安規 モダンとデカダン』(国書刊行会、2014)、アート・ベンチャー・オフィス ショウ編『吉岡堅二展 生誕 110 年記念』(田辺市立美術館、2017) など、各出品作家の作品集や最近行われた展覧会図録を計 14 冊展示した。

6) 明治 150 年 小展示
 2018 年 1 月 18 日から 3 月 25 日まで、明治 150 年にちなみ図書室内で小展示を行った。
 青木茂文庫より「亀井竹二郎の石版画画帖《懐古東海道五十三驛真景》のうち五景」を展示し、展示日数 55 日、計 1,161 名の来室者があった。

美術館紹介・広報 掲載実績

1) 美術館紹介記事
 原田マハ「いつか行きたいミュージアム 海に面した絶景の美術館 神奈川県立近代美術館葉山(神奈川県葉山町)『スタイルアサヒ』Vol.91、2017 年 4 月 1 日、p.5
 「ビールを飲むなら名建築で 神奈川県立近代美術館 葉山 レストラン オランジュ・ブルー」『ビール王国』Vol.14、2017 年 4 月 15 日、pp.118-121
 「日帰りさんぽ 逗子・葉山 SNAP & MAP」『OZ magazine』No.542、2017 年 5 月 12 日、p.31
 水沢 勉「特集 神奈川が誇る芸術の中心地 近美のヒミツ 館長インタビュー 葉山に「ひたる」ひと時を」『広報はやま』No.567、2017 年 6 月 1 日、pp.2-4
 岩本文枝「美術館におしゃべり OK の日 子連れも安心/感想を交換」『日本経済新聞』2017 年 6 月 20 日夕刊、14 面
 「j パザールミニ 葉山 葉山特別見学会」『神奈川新聞』2017 年 6 月 21 日、22 面
 下野 綾「文化亭 学芸員のお勧め」『神奈川新聞』2017 年 6 月 22 日、12 面
 成田有佳「アートを歩く 芸術さんぽ 神奈川県立近代美術館 葉山 彫刻さがして館外散策」『毎日新聞』2017 年 8 月

18日、21面
 「KANAGAWAの美術館めぐり 神奈川県立近代美術館 葉山 海に見える美術館でアートな休日」『シティリビング』No.832、2017年9月8日、p.3
 「タウン情報 近代美術館入門講座」『タウンニュース』逗子・葉山版 No.291、2017年12月1日、p.3
 「新幹線「20世紀遺産」に鎌倉の旧県立近美も」『神奈川新聞』2017年12月9日、17面
 「日本の20世紀遺産20選 新幹線・赤坂離宮を選定 番外で広島原爆関連も イコモス国内委」『東京新聞』2017年12月9日、6面
 「「日本の20世紀遺産20選」発表 イコモス国内委 世界文化遺産の候補探し」『読売新聞』2017年12月13日、19面
 成田有佳「美術館「会話OKの日」に賛否」『毎日新聞』2017年12月13日、19面
 北川文「鎌倉文華館」19年春オープン 古都の魅力発信拠点に 旧県立近美鎌倉館本館」『神奈川新聞』2018年1月25日、22面
 菅尾保「鎌倉」新ミュージアムに 鶴岡八幡宮 来春めど開館方針」『朝日新聞』2018年1月25日、29面
 「近代美術館 鎌倉館 新たな文化施設へ 鶴岡八幡宮 来春、開館目指す」『読売新聞』2018年1月25日、33面
 因幡健悦「カマキン新型施設に 来春開館 鶴岡八幡宮が再生計画」『毎日新聞』2018年1月25日、23面
 北爪三記「旧県立近代美術館 改修し来春オープンへ 鎌倉の文化歴史を発信 鎌倉文華館鶴岡ミュージアムに」『東京新聞』2018年1月26日、24面
 山野英嗣「近代」再考—近代美術館の使命」『新美術新聞』No.1463、2018年2月11日、2面
 「鎌倉文華館 鶴岡ミュージアム」が19年春開館 旧神奈川県立近代美術館鎌倉館を改修」『新美術新聞』No.1465、2018年3月1日、3面

2) 収蔵作品・作家ほか紹介記事

窪田直子「人間存在の真実追求 「ジャコメッティ展」」『日本経済新聞』2017年6月21日、40面
 黒沢綾子「美アート ジャコメッティ展 人間の本質へ飽くなき冒険」『産経新聞』2017年6月25日、14面
 堀尾真紀子「名画に出会う 第88回 晴天の爽快な躍動」『クレスコ』No.196、2017年7月1日、口絵とp.46
 「特集 宮崎進 私の10点 [2014年の宮崎進展会場写真と当館所蔵《頭部》など]」『ギャラリー』第387号、2017年7月1日、pp.11-25
 関口裕士「言葉の現在地 2017年夏④ 99歳の画家 中国で従軍経験 浜田知明さん 「戦争しない」反省どこへ 「聖戦」一部の支配者のため」『北海道新聞』2017年8月8日、19面
 林寿美「謎解き! 奇想ワールド③ ピーテル・ブリューゲル(父) [原画]《剛毅》動物に例えた人の強欲」『東京新聞』2017年8月21日夕刊、1-2面
 井上涼「ベルギー奇想の系譜④ 登場人物ごとに生活や性格」『東京新聞』2017年9月13日、18面
 志賀信夫「砂澤ピッキ」『Extr ART』File.14、2017年9月29日、pp.92-98
 「かながわ遊ナビ 美術 片岡球子 面構—神奈川県立近

代美術館コレクションを中心に」『毎日新聞』2017年10月6日、25面
 磯村知子「東洋医学の現場から 「面構」と漢方薬」『Dermatology Today』Vol.030、2017年10月15日、p.35
 「話題の展覧会 平塚市美術館「片岡球子 面構 神奈川県立近代美術館コレクションを中心に」《面構 足利尊氏》」『美術の窓』No.429、2017年10月20日、p.154
 「展覧会 INFORMATION 平塚市美術館「片岡球子・面構 神奈川県立近代美術館コレクションを中心に」《面構 足利尊氏》」『つくりびと』Vol.64、2017年11月1日、p.18
 福住廉「評「片岡球子 面構」展 「ゲテモノ性」貫いた本物」『朝日新聞』2017年11月21日夕刊、4面
 「展覧会ガイド「片岡球子 面構 神奈川県立近代美術館コレクションを中心に」平塚市美術館 《面構 葛飾北斎》」『アートコレクターズ』No.104、2017年11月25日、p.107
 「清宮質文名品55選 木版画・モノタイプ・ガラス絵 《小さな炎》《希望のマスク》 神奈川県立近代美術館蔵 望月富昉コレクション」『版画芸術』No.178、2017年12月1日、pp.27, 44
 太田治子「太田治子の湘南の名画から紡ぐストーリー 第21回 堀文子「霧氷」から」『かまくら春秋』No.572、2017年12月1日、pp.46-47
 平野甲賀「もじ転々 その1 佐伯祐三と佐野繁次郎の文字」『なごみ』通巻457号、2018年1月1日、p.57
 「今月の展覧会 岸田劉生と椿貞雄 宮城県美術館 岸田劉生《童女図(麗子立像)》」『ギャラリー』第394号、2018年2月1日、p.55
 「遊ナビ 美術 青山義雄展—きらめく航跡をたどる」『毎日新聞』2018年2月2日、23面
 「「青山義雄展 きらめく航跡をたどる」開催 ※2月18日(日)は無料観覧日! 横須賀美術館」『毎日新聞』2018年2月4日、28面
 「必見!! 今年の展覧会 BEST200 宮城県美術館「求道の画家 岸田劉生と椿貞雄」 [岸田劉生《童女図》]」『美術の窓』No.434、2018年2月20日、p.89
 「必見!! 今年の展覧会 BEST200 横須賀美術館「青山義雄展 きらめく航跡をたどる」 [青山義雄《海辺の輪舞》]」『美術の窓』No.435、2018年2月20日、p.118
 「展覧会ガイド 横須賀美術館「青山義雄展 きらめく航跡をたどる」 [青山義雄《海辺の輪舞》]」『アートコレクターズ』No.107、2018年2月25日、p.79
 「展覧会ガイド 宮城県美術館「求道の画家 岸田劉生と椿貞雄」 [岸田劉生《童女図》]」『アートコレクターズ』No.108、2018年2月25日、p.79
 下野綾「マチスが認めた色使い 洋画家 青山義雄回顧展 横須賀美術館」『神奈川新聞』2018年2月26日、12面
 杵沢耕介「ざらりいモール 横須賀美術館「青山義雄展」から」『読売新聞』2018年3月20日夕刊、7面
 大西若人「名作誕生—つながる日本美術 脈打つ美の系図 体感 創造までの格闘のドラマ 来月13日から東京国立博物館で」『朝日新聞』2018年3月27日、33面

3) ホームページ閲覧数(2017年4月~2018年3月)

ホームページ総訪問者数 533,453
 参照ページ総数 1,309,700

刊行物

1) 夏休み企画告知チラシ

編集・発行：神奈川県立近代美術館
デザイン：美柑和俊 (MIKAN-DESIGN)
印刷：株式会社 野毛印刷社
29.7 × 21cm、多色
無料配布
2017年7月発行



2) わくわくゆったりえほん ぼくもわたしもてつごろう

発行：神奈川県立近代美術館
デザイン：美柑和俊 (MIKAN-DESIGN)
印刷：株式会社 野毛印刷社
25.7 × 18.2cm、多色、22ページ
7月16日から9月3日まで18歳以下の来館者に無料配布
2017年7月発行



3) 山中散生書簡資料集

編集・翻訳：田中淳一、朝吹亮二、笠井裕之、
松田健児 (慶應義塾大学)、朝木由香
協力：慶應義塾大学日吉メディアセンター
印刷：株式会社 野毛印刷社
発行：神奈川県立近代美術館
21.0 × 14.8cm、22ページ、単色
9月16日から11月5日まで展示室3で無料配布
2017年9月発行
JSPS 科研費 (課題番号 16K02544)



4) 砂澤ビッキ《樹華》記録集

執筆：水沢 勉
写真：山本 紉、井上浩二
編集：高嶋雄一郎、橋 秀文
デザイン：飯村哲也デザイン事務所、迫水ヒサ
印刷：朝日オフセット印刷株式会社
発行：神奈川県立近代美術館
29.7cm × 21cm、20ページ、多色4図、単色
37図
無料配布
2017年9月発行
《樹華》ふたたび (水沢 勉) / 《樹華》再制作
プロジェクト / 《樹華》展示風景 / 対談：砂澤
凉子 × 酒井忠康



5) 美術館たより『たいせつな風景』25号

特集：音と風景
編集・発行：神奈川県立近代美術館
制作：株式会社 野毛印刷社
20.9 × 14.5cm、12ページ、多色3図、単色5図
無料配布
2018年1月発行
思い出すままに (高橋アキ) / ぼくと在る風景 (鈴木
昭男) / [想い出の展覧会] 《着陸と着水》、
平家池とつながった (原田 光) / 表紙作品解
説 吉村 弘《CLOUDS SCENE》(三本松倫代)



6) 美術館たより『たいせつな風景』26号

特集：ダンス
編集・発行：神奈川県立近代美術館
制作：株式会社 野毛印刷社
20.9 × 14.5cm、12ページ、多色6図、単色3図
無料配布
2018年3月発行
1910年代—ダンスの衝撃 (武石みどり) / 「木
魂を彫る 砂澤ビッキ展」で踊って思う (能藤
玲子) / 光と風のなかに (酒井幸菜) / 表紙作
品解説 谷中安規《僕》『方寸版画 幻想集』1
(橋 秀文)



7) 2018年度年間スケジュール

編集・発行：神奈川県立近代美術館
制作：有限会社 リーヴル
21 × 10cm、蛇腹折1枚、多色10図
無料配布
2018年3月発行



8) 2016年度年報

編集・発行：神奈川県立近代美術館
印刷：朝日オフセット印刷株式会社
29.7 × 21cm、68ページ、多色1図、単色131図
無料配布
2018年3月発行
あいさつ / 展覧会活動 / 教育普及活動 / 作品収
集管理活動 / 調査研究活動 / 運営・管理報告



神奈川県立近代美術館における教育普及の3つの新規事業

—アウトリーチ事業、専門講座、そして社会包摂事業—

榎山昌夫

神奈川県立近代美術館は平成29年度から教育普及事業の3つの新規事業、近代美術館入門講座、葉山アート・アカデミー、MULPA（マルパ）とそれをきっかけとした社会包摂事業を立ち上げた。

近代美術館入門講座は葉山町との共催事業で、葉山館で開催される企画展とコレクション展について、担当学芸員が葉山町福祉文化会館に赴いてその内容を分かりやすく解説するアウトリーチ事業であり、主たる対象は葉山館が立地する葉山町の住民である。初回は十分な広報期間が取れなかったこともあり、参加人数は限られていたが、年度を通しての平均参加者は25名を超え、平成30年度も継続実施することとなった〔図1〕。



図1. 近代美術館入門講座
「マックス・クリンガーについて」
日時:10月7日(土)
場所:葉山町福祉文化会館 大会議室

葉山アート・アカデミーは、近代美術館入門講座と対照的に、実施展覧会との関連の有無は問わず、講堂の遊休時間を活用して、講師を務める学芸員がそれぞれの研究分野について専門的な話をする実験的な試みである。尚、展覧会観覧者に対する解説としては、平成29年度は各展覧会3回以上の館長または担当学芸員によるギャラリートークを実施している。平成28年度以前は各展覧会2回以上であった展覧会解説の機会を増やす一方で、より高度な知識を求めめる方を対象として、また研究成果の社会還元のひとつとして企画したのが葉山アート・アカデミーである。しかし、年度を通して定期的に開催できなかったこともあって参加人数が安定せず、これを反省として、平成30年度から「葉山美術講座」と名称を改め、規則的な開催とすることにした〔図2〕。

MULPAとは、Museum UnLearning Program for All「みんなで“まなびほぐす”美術館—社会を包む教育普及事業—」の略称で、公益財団法人かながわ国際交流財団が幹事となり、神奈川県立近代美術館、茅ヶ崎市美術館、平塚市美術館、横須賀美術館と、同じ地域の芸術家連携団体である相模湾・三浦半島アートリンクが参加して行う社会包摂事業である。MULPAそのものは平成28年度から予備知識や必要な技能を習得するための研修会等、準備的活動を始めていたが、平成29年7月8日に関東学院大学関内メディアセンターでフォーラム「みんなで

“まなびほぐす”美術館」を実施し、一般参加者68名を含む133名が参加して本格始動した。詳細はMULPAのウェブサイト(<http://www.kifjp.org/mulpa/>)に譲るが、意義深いのは、障害や言語の障壁などによって美術館を利用することが容易ではないと考えられる方々など、複数の多様な社会集団を招いたことであり、特に第2部ではワールドカフェの手法によって、異なる社会集団に属する参加者同志の対話を促したことである〔図3〕。



図2. 葉山アート・アカデミー
「アート・ディレクターとしての北原白秋」
日時:11月22日(土)
場所:葉山館 講堂



図3. MULPAフォーラム「みんなで“まなびほぐす”美術館」
日時:7月8日(土)
場所:関東学院大学関内メディアセンター

MULPAと並行して、神奈川県立近代美術館では、独自のアウトリーチ事業と社会包摂事業を実施した。もちろん、神奈川県立近代美術館は平成28年度以前にも、養護学校や特別支援学級への出張授業やそれらの児童生徒が来館して参加するワークショップなどを実施してきたが、平成29年度はMULPAや館員の自己研鑽で積んだ知識と経験に基づいて、より体系的、理論的に事業を展開した。

8月5、6日には、まず美術館のアウトリーチ事業として茅ヶ崎市内の発達障害児のための放課後等デイサービス施設で出張ワークショップを行い、10月14日にはMULPAとの連携事業としてその児童生徒を美術館に招いて、また、別の社会集団としてMULPAの大学生ボランティアが参加して、ポートレート撮影のワークショップを実施した。その目的は、児童生徒の自尊感情を高めると同時に、大学生にもさまざまな気付きの機会を提供することにあつた〔図4〕。

3月4日には、これもMULPAの連携事業として全盲の箏曲家・澤村祐司氏による演奏会を開催中のコレクション展「冬の旅、春の声」会場で実施した。また、これに合わせて、近隣の盲学校の

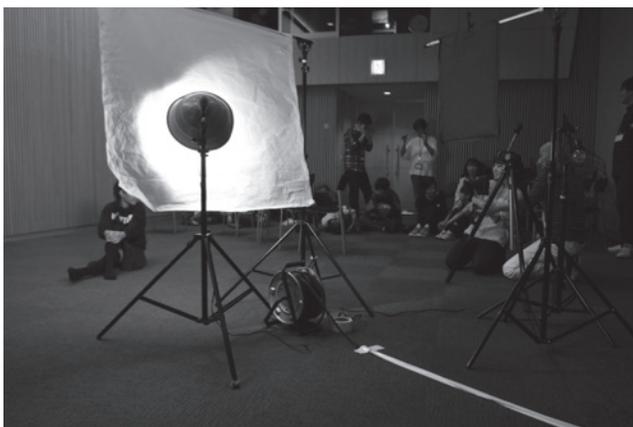


図4. 写真ワークショップ
「あなたとポートレート～あなたらしく、わたしらしく～」
日時:10月14日(土)
場所:葉山館 講堂

児童生徒を対象に、事前申し込みによる演奏前の鑑賞ミニワークショップと演奏後の澤村氏との交流会を実施した。ミニワークショップでは、MULPAの大学生ボランティアと盲学校の児童がペアを組み、展示室の絵画を対話によって、庭園の野外彫刻に触れることによってお互いの感覚を補いながら鑑賞した[図5]。演奏会とその後の交流会には、盲学校児童生徒の家族が熱心に参加され、事業実施の意義が確認された。また同日、第3展示ロビーでは金澤翔子氏の書「ともに生きる」を特別に展示した。



図5.「鑑賞ミニワークショップ」
日時:平成30年3月4日(日)
場所:葉山館 彫刻庭園

このように平成29年度からは、ある特定の社会集団を対象にアウトリーチ事業や招待事業を実施するだけでなく、複数の社会集団、あるいは異なる個性をもった人々を、美術を通して互いに結び付ける「ハブ」としての美術館の機能を意識した社会包摂事業を立ち上げたのである。

しゅうしゅう
作品蒐集管理活動

2017年度 購入・寄贈状況 2018(平成30)年3月31日現在
(作品)

購入件数	9件
新規寄贈件数	127件
管理替件数	0件
収蔵総件数	14,923件

(資料)

新規寄贈件数	149件
--------	------

2017年度 寄託状況 2018(平成30)年3月31日現在
(作品・資料)

寄託総件数	938件
-------	------

2017年度 新収蔵作品一覧

[凡例]

・寸法の単位はcmである。イメージ寸法と支持体寸法は、「/」で区切り記載した。
・署名年記は、書き込みの位置を示して記した。文字が判別できない場合は「□」で補った。

購入

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(厚・奥行)	署名年記・書込み等	備考
彫刻・インスタレーション								
砂澤ビッキ	午前三時の玩具(試作)	1985	クルミ、セン	41.5	34.0	10.2		

素描・水彩画など

砂澤ビッキ	MASK	1975	鉛筆、クレヨン、紙	35.5	25.2		左下:Mask 右下:BIKKY.S 75	
砂澤ビッキ	樹頭の頭部	1982	鉛筆、色鉛筆、紙	25.7	36.3		中下:1982.12. 右下:BIKKY.	
砂澤ビッキ	無題	1986	鉛筆、紙	36.3	25.8		右下:BIKKY 1986.1.10.	
砂澤ビッキ	蝶番蝶	1986	鉛筆、紙	36.3	25.7		中下:86.1.26 BIKKY.	
砂澤ビッキ	午前三時の玩具	1987	鉛筆、紙	36.4	25.7		右下:1987.9 BIKKY.	
砂澤ビッキ	午前三時の玩具	1987	鉛筆、紙	36.3	25.7		中下:1987.10 完成 右下:BIKKY.	

神奈川県立近代美術館賞

油彩画・アクリル画など

小原信子	馬と人 A	2017	油絵具、カンヴァス	130.3	194.0			第57回神奈川県女流美術家展
村田恵理子	ながめる、そこにいる、はなれるように。	2017	岩絵具、アクリル絵具、綿布	130.3	162.0			第53回神奈川県美術展

寄贈

〈栗田政裕氏寄贈〉

版画(日本)

栗田政裕;石黒敦彦	詩画集『玻璃隕石の降る夜』 I 創生	2016	木口木版、紙	18.3 / 27.0	7.4 / 42.3 (二つ折)		左下:26/50 右下:mas kurita"	詩:石黒敦彦
栗田政裕;石黒敦彦	詩画集『玻璃隕石の降る夜』 II 晶華	2016	木口木版、紙	14.8 / 27.2	9.6 / 42.5 (二つ折)		左下:26/50 右下:mas kurita	詩:石黒敦彦
栗田政裕;石黒敦彦	詩画集『玻璃隕石の降る夜』 III 牡蠣と玻璃玉	2016	木口木版、紙	15.9 / 27.1	8.9 / 42.7 (二つ折)		左下:26/50 右下:mas kurita	詩:石黒敦彦
栗田政裕;石黒敦彦	詩画集『玻璃隕石の降る夜』 IV 六月の雪	2016	木口木版、紙	12.0 / 27.1	11.1 / 42.2 (二つ折)		左下:26/50 右下:mas kurita	詩:石黒敦彦
栗田政裕;石黒敦彦	詩画集『玻璃隕石の降る夜』 V 天体の風	2016	木口木版、紙	16.8 / 27.1	7.6 / 42.5 (二つ折)		左下:26/50 右下:mas kurita	詩:石黒敦彦
栗田政裕	『イマジオ&ポエティカ』第48号	2017	木口木版、紙	22.0	18.0			ボックスウッドクリエーション 2017年 限定99部の内36 木口 木版2葉:《ガジュラホ幻想》、《ダ ンサー》
栗田政裕	『イマジオ&ポエティカ』第49号	2017	木口木版、紙	22.0	18.0			ボックスウッドクリエーション 2018年 限定99部の内36 木口 木版2葉:《ブダガヤ》、《サル ナート仏》

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考
〈鈴木明氏寄贈〉								
素描・水彩画など								
木下秀一郎	船弁慶	不詳	木炭、水彩絵具、紙	28.1	23.4			
〈砂澤涼子氏寄贈〉								
彫刻・インスタレーション								
砂澤ビッキ	TOH 2	1985-1986	クミ、アカエゾマツ、セン	141.0	252.0	41.0		
素描・水彩画など								
砂澤ビッキ	無題	不詳	色鉛筆、紙	24.6	17.6			
版画(西洋)								
ビル・リード	無題	不詳	シルクスクリーン、紙	64.0	49.5			
〈豊島純子氏寄贈〉								
油彩画・アクリル画など								
津田正周	兎	不詳	油絵具、カンヴァス	37.9	45.7			右下:Masatika Tuda
〈藤本恵子氏寄贈〉								
素描・水彩画など								
砂澤ビッキ	たんぼぼ	1969	鉛筆、水彩絵具、紙	20.7	14.0			左下:BIKKY, S 1969 [印]
〈堀内冬彦氏寄贈〉								
彫刻・インスタレーション								
堀内正和	ひざまづく女	1931	石膏	105.0	71.0	57.0		
堀内正和	K君の首	1931	石膏	57.0	21.0	37.0		
堀内正和	臥像	1932	石膏	50.0	157.0	70.0		
堀内正和	トルソ	1935	テラコッタ	5.5	11.8	5.5		
堀内正和	淳子の首	1946	セメント	25.0	18.0	23.0		
堀内正和	壺をだく子	1947	テラコッタ	10.5	9.7	7.0		
堀内正和	長男の首	1949	ブロンズ	22.0	14.0	13.0		
堀内正和	Cubi	1949	石膏	37.0	46.0	51.0		
堀内正和	Cubi	1950	石膏	40.0	22.0	27.0		
堀内正和	首B	1950	石膏	43.0	30.0	26.0		
堀内正和	海辺	1951	石膏	48.0	116.0	72.0		
堀内正和	作品	1951	石膏	130.0	35.0	30.0		
堀内正和	横の作品	1952	石膏	29.0	73.0	34.0		
堀内正和	横の作品	1952	セメント	57.0	160.0	68.0		
堀内正和	海の花A	1952	石膏	81.5	40.0	40.0		
堀内正和	海の花C	1952	樹脂	72.0	60.0	18.0		
堀内正和	線 A	1954	鉄	89.0	64.5	33.5		
堀内正和	CARIATIDE	1960	鉄、セメント	228.4	50.0	58.0		
堀内正和	海の風	1962	ポリエステル、鉄	41.0	130.0	57.0		
堀内正和	海の風	1962	樹脂	63.0	123.0	47.0		
堀内正和	のどちんことはなのあな	1965	石膏	44.0	54.0	54.0		
堀内正和	Cubes et Tubes	1966	石膏	198.0	39.0	34.0		
堀内正和	エヴァからもらった大きなリンゴ	1966	石膏	16.0	35.5	26.0		
堀内正和	箱は空にかえっていく	1966	石膏	86.0	30.0	30.0		
堀内正和	指の股もまた股である	1968	鉄、木、石膏	77.0	100.0	30.0		
堀内正和	円筒をななめに通り抜けるもうひとつの円筒	1970	石膏	64.0	35.0	35.0		
堀内正和	球の切り方	1970	石膏	45.0	34.0	34.0		
堀内正和	片側曲面四辺形(単面四辺形)	1972	樹脂	42.0	29.0	15.0		
堀内正和	ひねくれブリズム	1975	石膏	24.0	34.0	5.0		
堀内正和	ひねくれブリズム	1994 (原型1975)	ガラス、 ステンレス・スチール	24.0	34.0	5.0		
堀内正和	まる	1983	塩化ビニール	30.0	30.0	30.0		
堀内正和	三本の直方体(線)	1983	鉄	83.0	92.0	110.0		

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考
堀内正和	水平と垂直に犯された卵球	1990	木	60.0	40.0	40.0		
堀内正和	マラルディの角度による	1996	ステンレス・スチール	246.2	125.0	59.0		
堀内正和	不詳	不詳	石膏	39.0	57.0	57.0		
堀内正和	紙彫刻—うらがえる直方体[M-001]	1960	紙	62.0	11.0	11.0		
堀内正和	紙彫刻—うらがえる円筒[M-002]	1961	紙	74.0	13.0	13.0		
堀内正和	紙彫刻—うらがえる三角柱[M-003]	1961	紙	65.0	9.0	8.0		
堀内正和	紙彫刻—単面直角四辺形[M-004]	1964	紙	15.0	9.0	8.0		
堀内正和	紙彫刻—単面直角四辺形[M-005]	1964	紙	47.0	11.0	8.0		
堀内正和	紙彫刻—円筒をななめに通り抜けるもうひとつの円筒A[M-007]	1969	紙	12.5	10.5	10.5		
堀内正和	紙彫刻—円筒をななめに通り抜けるもうひとつの円筒B[M-008]	1970	紙	18.5	10.0	10.0		
堀内正和	紙彫刻—ななめの円筒をななめに通り抜けるもうひとつの円筒[M-009]	1970	紙	12.5	12.0	9.3		
堀内正和	紙彫刻—ねじれ三角[M-010]	1970	紙	13.0	8.5	8.0		
堀内正和	紙彫刻—SOS[M-011]	1972	紙	25.0	12.5	12.5		
堀内正和	紙彫刻—長方形の三角関係A[M-012]	1969-1973	紙	29.0	16.0	16.0		
堀内正和	紙彫刻—長方形の三角関係B[M-013]	1969-1973	紙	14.0	10.0	9.0		
堀内正和	紙彫刻—四角い形の三角関係[M-014]	1969-1973	紙	9.0	11.0	11.0		
堀内正和	紙彫刻—円錐形にえぐられた立方体[M-015]	1973	紙	41.0	20.0	20.0		
堀内正和	紙彫刻—立方体から奔出しようとする円錐形[M-017]	1975年頃	紙	30.5	14.0	13.0		
堀内正和	紙彫刻—半分よこむく立方体[M-018]	1975	紙	20.0	17.0	10.0		
堀内正和	紙彫刻—正六面体(地)から出てきた正四面体(火)[M-020]	不詳	紙	14.0	17.0	33.0		
堀内正和	紙彫刻—三つの立方体A[M-022]	1977	紙	14.5	30.0	18.0		
堀内正和	紙彫刻—三つの立方体C[M-023]	1977	紙	9.0	18.0	11.0		
堀内正和	紙彫刻—三つの立方体D[M-024]	1977	色鉛筆、紙	13.0	26.0	15.0		
堀内正和	紙彫刻—三つ半の立方体[M-026]	1978	紙	9.0	18.0	9.0		
堀内正和	紙彫刻—三本の菱形柱A(右まわり)[M-027]	1979	紙	44.5	40.0	40.0		
堀内正和	紙彫刻—三本の菱形柱B(左まわり)[M-028]	1979	紙	36.0	32.0	40.0		
堀内正和	紙彫刻—三本の菱形柱C(彩色)[M-029]	1979	水彩絵具、紙	17.5	32.5	27.5		
堀内正和	紙彫刻—立方体をななめに通りぬける円筒	1982	紙	24.0	12.0	12.0		
堀内正和	紙彫刻—まる[M-032]	1983	紙	11.0	11.0	11.0		
堀内正和	紙彫刻—27番目の立方体A[M-033]	1984	紙	23.0	13.0	13.0		
堀内正和	紙彫刻—27番目の立方体B[M-034]	1984	紙	16.0	18.0	9.0		
堀内正和	紙彫刻—進む円[M-036]	1985	紙	14.0	6.0	8.0		
堀内正和	紙彫刻—宙がえり円A[M-037]	1985	紙	47.0	13.0	13.0		
堀内正和	紙彫刻—宙がえり円B[M-038]	1985	紙	62.5	18.0	14.0		
堀内正和	紙彫刻—宙がえり円C[M-039]	1985	紙	64.0	14.0	14.0		
堀内正和	紙彫刻—半分おじぎする円[M-040]	1985	紙	30.0	21.0	18.0		
堀内正和	紙彫刻—体積が等しい五つの直方体[M-041]	1985	紙	49.5	16.0	21.0		
堀内正和	紙彫刻— $8+1/816 \times 4 \times 14\sqrt{3}+1$ [M-043]	1986	紙	21.0	10.0	10.0		
堀内正和	紙彫刻— $1+1/4$ [M-044]	1986	紙	30.0	10.0	10.0		
堀内正和	紙彫刻—体積が等しい六つの三角柱[M-045]	1986	紙	49.0	11.0	11.0		
堀内正和	紙彫刻—体積が等しい五つの円柱[M-046]	1986	紙	47.0	17.0	13.0		
堀内正和	紙彫刻—立方体の四等分[M-047]	1986	紙	22.5	10.0	9.0		
堀内正和	紙彫刻—ひしがた三つ[M-048]	1987	紙	26.0	14.0	10.0		
堀内正和	紙彫刻—四角の中の五角[M-050]	不詳	紙	13.0	16.0	16.0		
堀内正和	紙彫刻—立方体のなかの四面体のなかの八面体[M-051]	不詳	紙	6.7	6.7	6.7		
堀内正和	紙彫刻—正六面体内菱形六面体[M-052]	不詳	紙	9.0	9.0	9.0		
堀内正和	紙彫刻—二立方体六等分[M-053]	不詳	紙	6.0	12.0	6.0		
堀内正和	紙彫刻—上げたり下げたり[M-054]	1987	紙	40.5	10.0	10.0		
堀内正和	紙彫刻—ましかくとも糸[M-055]	1988	紙	26.0	26.0	10.0		
堀内正和	紙彫刻—菱形六面体内正三角八面体+正四面体+虚正四面体[M-056]	1988	紙	9.0	22.0	9.0		
堀内正和	紙彫刻—マラルディの角度による[M-057]	1988	紙	25.0	13.0	7.0		
堀内正和	紙彫刻—27番目の立方体C[M-059]	1989	紙	12.0	23.0	24.0		
堀内正和	紙彫刻—正六面体胎内から出た正四面体[M-060]	1989	紙	13.0	20.0	20.0		

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考
堀内正和	紙彫刻—大小三角立ちん棒[M-061]	1989	紙	42.0	19.0	16.0		
堀内正和	紙彫刻—反転欠落立方体(立方体のそとがわ)[M-062]	1989	紙	8.5	14.0	11.0		
堀内正和	紙彫刻—まる 三角 四角[M-063]	1990	紙	41.5	13.5	13.5		
堀内正和	紙彫刻—三角 四角 五、六面[M-064]	1990	紙	24.0	12.0	10.0		
堀内正和	紙彫刻—菱形六面塔(あおむき菱形六面体)[M-065]	1990年頃	紙	23.0	9.5	7.0		
堀内正和	紙彫刻—菱形六面体から抜けおちる四面体[M-066]	1990年頃	紙	24.0	14.0	14.0		
堀内正和	紙彫刻—上下前後[M-067]	1990年頃	紙	40.0	12.0	9.0		
堀内正和	紙彫刻—笑う立方体[M-068]	1990年頃	紙	43.0	14.0	14.0		
堀内正和	紙彫刻—あくびする四面体[M-069]	1990年頃	紙	25.0	15.0	11.0		
堀内正和	紙彫刻—あくびしそうな四面体[M-070]	1990年頃	紙	26.0	12.0	12.0		
堀内正和	紙彫刻—和の輪[M-072]	1990	紙	30.5	10.0	9.0		
堀内正和	紙彫刻—ま四角三つ[M-073]	1990年頃	紙	25.0	22.0	18.0		
堀内正和	紙彫刻—三角穴から四面体[M-074]	1990	紙	26.5	6.0	6.0		
堀内正和	紙彫刻—二つの三角柱 三角形 A[M-075]	1990	紙	26.0	26.0	15.0		
堀内正和	紙彫刻—二つの三角柱 三角形 B[M-076]	1990	紙	29.5	25.0	15.0		
堀内正和	紙彫刻—水平と垂直に犯された卵球[M-077]	1990	紙	30.0	20.5	20.5		
堀内正和	紙彫刻—三々五々の四面体[M-078]	1991	紙	34.0	15.0	13.0		
堀内正和	紙彫刻—27番目の立方体D[M-079]	1992	紙	39.0	13.0	17.0		
堀内正和	紙彫刻—27番目の立方体E[M-080]	1992	紙	33.0	11.0	8.0		
堀内正和	紙彫刻—27番目の立方体F[M-081]	1992	紙	32.0	6.0	6.0		
堀内正和	紙彫刻—27番目の立方体G[M-082]	1992	紙	9.0	9.0	9.0		
堀内正和	紙彫刻—27番目の立方体H[M-083]	不詳	紙	9.5	9.5	9.3		
堀内正和	紙彫刻—14/27[M-084]	1993	紙	12.5	9.0	9.0		
堀内正和	紙彫刻—二十面体[M-085]	1993	紙	21.0	17.0	12.0		
堀内正和	紙彫刻—へっこみましかく十二面体[M-086]	1993	紙	52.0	10.0	10.0		
堀内正和	紙彫刻—正二十面体—割引A[M-087]	1993	紙	33.0	12.0	12.0		
堀内正和	紙彫刻—直方体のななめ切り[M-089]	不詳	紙	20.0	10.0	4.0		
堀内正和	紙彫刻—立方体斜開塔[M-090]	不詳	紙	22.0	13.0	11.0		
堀内正和	紙彫刻—反転欠落立方体(立方体のそとがわ)[M-091]	1993	紙	9.5	21.0	10.0		
堀内正和	紙彫刻—立方体の十二等分	不詳	紙	6.5	6.5	6.5		
堀内正和	紙彫刻—扇形の舞い	1985	紙	18.0	18.0	18.0		
堀内正和	紙彫刻—ある構図	不詳	紙	10.5	31.0	31.0		
堀内正和	紙彫刻(レブリカ)	不詳	紙	6.0	6.0	6.0		

関連資料

〈青木茂氏寄贈〉

永島辰五郎 編輯出版	明治九年第八月新刻 東京書畫人名式覽	1876	印刷、紙	50.1	38.2			
不詳	古今名家 南畫一覽 全 明治十年七月	1877	印刷、紙	37.1	25.6			
宮田宇兵衛 著者并出版人	書畫大家一覽	1878	印刷、紙	37.2	51.1			
榎本古鉄 編輯	清朝書畫人名一覽 全	1879	印刷、紙	26.1	24.8			
小谷誠之	皇國名譽書畫價表 明治十二年	1879	印刷、紙	48.4	36.9			
北尾卯三郎	皇國名譽書畫人名録	1880	印刷、紙	37.6	26.4			
宮田宇兵衛	東京諸大家雷銘鏡	1880	印刷、紙	35.5	50.2			
竹村貞治郎	皇國名譽人名富録	1881	印刷、紙	50.0	74.2			
開運堂	明治十四歳 皇國名譽 書畫人名富録[封筒]	1881	印刷、紙	18.3	12.2			
大國有誠 編輯	古今名家 改正南畫一覽 全	1881	印刷、紙	49.0	35.2			
大國有誠 編輯	古今名家 改正南畫一覽 全	1881	印刷、紙	48.6	35.2			
清水嘉兵衛	午の春四面一覽	1882	印刷、紙	49.0	37.5			
大槻	絵画共進会出品画家々々一覽 明治十五年	1882	印刷、紙	49.0	36.0			
東花堂 宮田宇平	東京大家二人揃 雷名見立鏡	1883	印刷、紙	34.6	47.2			
宮田宇兵衛	書畫番附 内国絵画博覧会人名	1884	印刷、紙	108.7	46.0		裏面:山中藏	
清水嘉兵衛	大日本書畫價額表	1884	印刷、紙	48.2	37.0			
中川利八郎 編纂	大日本現在名譽諸大家鑑案内 全	1885	印刷、紙	37.7	48.7			
倉島伊左衛門	大日本儒詩書畫一覽	1885	印刷、紙	49.0	36.0			
児玉又七	改正全國 書畫一覽	1886	印刷、紙	36.3	24.6			
竹村貞治良	東京名家八勝	1888	印刷、紙	37.0	25.7			

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考
児玉又七	明治廿二年改正新版 書画名家一覽	1889	印刷、紙	36.9	25.0			
不詳	古今名家 新撰書画一覽 全	1889	印刷、紙	48.5	35.2			
松雲堂	明治諸大家書畫人名一覽 次第不同	1890	印刷、紙	24.0	31.0			
樋口正三郎 編刊	明治廿四年版 新撰日本畫家一覽 全	1891	印刷、紙	37.7	52.7			
不詳	現在 今世名家書画一覽 全	1891	印刷、紙	50.2	36.2			
竹村貞次郎	東京八大家一覽表	1892	印刷、紙	37.0	26.3			
不詳	明治大見立改正新版 書画集覽 次第不同	1892	印刷、紙	37.0	24.7			
不詳	古今名家 新撰書畫一覽 全	1892	印刷、紙	49.2	36.7			
三浦静運堂	大日本全國書畫大家一覽 明治廿五年一月	1892	印刷、紙	38.0	52.1			
竹村貞治郎	改正全國 書畫一覽	1892	印刷、紙	49.4	37.2			
開運堂 竹村貞次郎	七福人雷名鏡	1893	印刷、紙	53.9	38.9			
不詳	明治大見立改正新版 書画一覽表	1895	印刷、紙	36.5	24.8			
不詳	全國古今 書畫定位鏡	1897	印刷、紙	54.1	39.2			
古島竹次郎	明治三十一年略曆	1898	印刷、紙	37.5	25.5			
市橋安吉	東京專門書画大家一覽表	1899	印刷、紙	50.6	37.7			
不詳	古今名家 新撰書画一覽 全	1902	印刷、紙	50.9	38.5			
競撰社	大日本繪画著名大見立 明治三十六年度大改正	1903	印刷、紙	55.0	78.2			
石塚猪男蔵 編輯兼発行	日本書画評價表(一)／日本書画評價表(二)	1909	印刷、紙	56.0	40.0			
不詳	大正三年大改正 日本書画評價一覽／改正 日本書画評價一覽	1914	印刷、紙	55.0	78.5			
不詳	大日本繪画著名大見立 大正三年度改正	1914	印刷、紙	54.5	78.0			
秋圃	現故南畫半切價格表	1915	木版、紙	34.0	48.0		木茂珍蔵	
不詳	大日本書画見立鏡 大正四年度大改正発行	1915	印刷、紙	54.0	78.0			
不詳	大正五年度 帝國繪画番附／印譜	1916	印刷、紙	55.0	39.4			
石塚猪男蔵 編輯兼発行	大正六年改正 増補古今書画名家一覽／古今 書画名家印鑑譜	1917	印刷、紙	54.2	79.2			
吉岡班嶺 編輯兼発行	大正七年度 帝國繪画番附	1918	印刷、紙	55.1	79.2		木茂珍蔵	
吉岡班嶺 編輯兼発行	大正七年度 帝國繪画番附	1918	印刷、紙	55.1	79.2			
不詳	大正七年度 帝國繪画番附[封筒]	1918	印刷、紙	14.2	20.2			
不詳	日本書畫評價一覽 大正八年大改正／日本 書畫評價一覽	1919	印刷、紙	55.0	80.0			
不詳	大正八年度 帝國繪画番附／大正八年度帝國 繪画番附	1919	印刷、紙	55.0	40.0			
不詳	大正九年度 帝國繪画番附	1920	印刷、紙	54.6	79.0			
不詳	大正拾年度 帝國繪画番附／大正拾年 帝國 繪画番附	1921	印刷、紙	55.0	79.5			
田中豊平	大正拾三年度改正 東西畫家格付表	1923	印刷、紙	56.0	41.2			
不詳	大正十三年度 帝國繪画番附独立大家／古画 及書幅	1924	印刷、紙	54.5	78.5			
藤森ひさぎ 編／ 東洋美術協会刊	大正十五年版 東洋画家名鑑／前代名画家	1926	印刷、紙	55.0	79.0			
不詳	大正十五年版 東洋画家名鑑[封筒]	1926	印刷、紙	15.0	22.7			
清水澄編	現代畫家番附	1935	印刷、紙	18.7	13.0			
東楓荘散人 編／ 益井俊二 発行	改訂古今書畫名家一覽表／古今書画名家 印鑑譜 昭和十二年改正増補	1937	印刷、紙	55.0	79.5			
文英堂	昭和拾貳年 日本書畫評價一覽[封筒]	1937	印刷、紙	19.5	14.3			
不詳	日本諸芸鑑 貳編	不詳	印刷、紙	25.0	19.5			
不詳	日本諸芸鑑 三編	不詳	印刷、紙	25.0	19.0			
不詳	日本諸芸鑑 仿編	不詳	印刷、紙	25.0	19.0			
不詳	大日本画家系図一覽 全	不詳	印刷、紙	36.7	49.5			
山内定吉輯	改正 今昔名家南画集覽	不詳	印刷、紙	48.5	37.2			
一方池一庭撰	國學書画 東京明治 人名録	不詳	印刷、紙	45.3	67.5			
不詳	画家人名一覽[表紙・裏表紙]	不詳	印刷、紙	12.3	9.2			
豊国画	『時代加々見 三編上』	不詳	印刷、紙	17.0	11.5			
為永春水／国貞画	『時代加々見 三編下』	不詳	印刷、紙	17.0	11.5			
国貞画	『金華七変化 第十八篇』(表紙のみ)	不詳	印刷、紙	17.0	11.5			
仮名垣魯文／国貞画	『金華七変化 第二九篇 下』(絵双紙)	不詳	印刷、紙	17.0	11.5			
仮名垣魯文／国貞画	『金華七変化 第三〇編 下』(絵双紙)	不詳	印刷、紙	17.0	11.5			
豊国画	『一名八犬伝 犬の神幣 九編上』	不詳	印刷、紙	17.0	11.5			
為永春水／豊国画	『幻日記 上巻』	不詳	印刷、紙	17.0	11.5			
為永春水／国貞画	『薄佛幻日記 初篇序』	不詳	印刷、紙	17.0	11.5			

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考
不詳	『新編金瓶梅第七集 上』	不詳	印刷、紙	17.0	11.5			
鶴亭秀賀/国貞画	『梅松録 第七編』	不詳	印刷、紙	17.0	11.5			
万亭應賀/一陽齋豊国画	『釈迦八相 倭文庫 十三編上之巻』	不詳	印刷、紙	17.0	11.5			
種員/豊国画	『児雷也豪傑譚 十五編』	不詳	印刷、紙	17.0	11.5			
種彦/芳幾画	『白縫物語 三十九編 下』	不詳	印刷、紙	17.0	11.5			
種員/国貞画	『□□物語 十五編下』	不詳	印刷、紙	17.0	11.5			
万亭應賀/国貞画	『倭文庫四拾二編 上』	不詳	印刷、紙	17.0	11.5			
山東京伝翁/豊国画	『春の□□のそうし 八編上』	不詳	印刷、紙	17.0	11.5			
精文堂梓	『國定忠治實記』	不詳	印刷、紙	17.4	12.3			
豊国画	『室町源氏胡蝶』上	不詳	印刷、紙	17.5	11.5			
豊国画	『室町源氏胡蝶』下	不詳	印刷、紙	17.5	11.5			
国安画	『娘唇振袖初第二篇』上巻	不詳	印刷、紙	18.0	12.0			
国安画	『娘唇振袖初第二篇』下巻	不詳	印刷、紙	18.0	12.0			
集雅齋蔵板	『木本花鳥』	天啓元年	印刷、紙	27.5	19.6			
集雅齋蔵板	『草本花詩』	天啓元年	印刷、紙	27.6	19.6			
集雅齋蔵板	『新編五言唐詩画譜』	不詳	印刷、紙	26.6	19.5			
集雅齋蔵板	『新編六言唐詩画譜』	不詳	印刷、紙	26.6	19.5			
集雅齋蔵板	『新編七言唐詩画譜』	不詳	印刷、紙	26.6	19.5			
清繪齋	『唐解元傲古今画譜』	不詳	印刷、紙	26.6	19.5			
清繪齋	『張白雲選名公扇譜』	不詳	印刷、紙	26.6	19.5			
不詳	『金剛般若波羅密經』	不詳	印刷、紙	29.8	13.2			
不詳	『外国交際公法』上・下	1870	印刷、紙	22.5	15.3			
啓蒙義舎蔵版	『虞列伊氏解剖訓蒙圖』坤	1872	印刷、紙	22.5	15.5			
不詳	『暴夜物語』第一篇・第二篇	1875	印刷、紙	各22.5	15.3			
東海散士	『東洋之佳人 全』	1888	印刷、紙	23.4	14.7			
不詳	『宇治川兩岸一覽』上	不詳	印刷、紙	17.8	12.5			
不詳	『宇治川兩岸一覽』下	不詳	印刷、紙	17.8	12.5			
不詳	『□□□』	不詳	印刷、紙	18.0	12.0			
不詳	『幻日記 六』	不詳	印刷、紙	17.5	11.6			
木村徳太郎 刻	『嶺山画譜 一』	1911	印刷、紙	25.0	17.0			
木村徳太郎 刻	『嶺山画譜 二』	1911	印刷、紙	25.0	17.0			
正木直彦 編纂兼発行	『十三松堂観摩録』	1935	印刷、紙	27.3	19.8			
平木政次	『明治初期洋画壇回顧』	1936	印刷、紙	19.7	13.6			
恩地孝四郎画/富岳本社刊	『詞華集 日本の花』	1946	印刷、紙	26.0	18.3			
恩地孝四郎画/前田夕暮著/富岳本社刊	『歌集 新頌・富士』	1946	印刷、紙	29.0	20.2			
徳力富吉郎/前川文夫/山内長三編	『若沖の拓版画』	1981	印刷、紙	28.0	19.4			
飯野農夫也	『郷土からの(詩と文)』	1984	印刷、紙	21.6	15.5			
不詳	『百花鳥図譜』	1989	印刷、紙	23.2	16.8			
書物展望社	『書物展望』会報第1冊	1944年6月	印刷、紙	22.6	15.8			
書物展望社	『書物展望』会報第2冊	1944年8月	印刷、紙	22.6	15.8			
書物展望社	『書物展望』会報第3冊	1944年9月	印刷、紙	22.6	15.8			
書物展望社	『書物展望』会報第4冊	1944年10月	印刷、紙	22.6	15.8			
書物展望社	『書物展望』会報第5冊	1944年12月	印刷、紙	22.6	15.8			
書物展望社	『書物展望』第15巻1号	1948	印刷、紙	23.5	17.0			
書物展望社	『書物展望』第15巻2号	1948	印刷、紙	23.5	17.0			
書物展望社	『書物展望』第16巻1号	1949	印刷、紙	23.5	17.0			
書物展望社	『書物展望』第16巻2号	1949	印刷、紙	23.5	17.0			
書物展望社	『書物展望』第16巻3号	1949	印刷、紙	23.5	17.0			
書物展望社	『書物展望』第16巻4号	1949	印刷、紙	23.5	17.0			
書物展望社	『書物展望』第17巻1号	1950	印刷、紙	23.5	17.0			
書物展望社	『書物展望』第17巻2号	1950	印刷、紙	23.5	17.0			
書物展望社	『書物展望』第18巻1号	1951	印刷、紙	23.5	17.0			
書物展望社	『書物展望』第18巻2号	1951	印刷、紙	23.5	17.0			
木村莊八/河野通勢画	大佛次郎「霧笛」/村松梢風「ふらんすお政」 /田中貢太郎「情鬼」 新聞切り抜き	不詳	印刷、紙	13.0	44.0			
木村莊八画	十一谷義三郎著「時の敗者 唐人お吉」新聞切り抜き	不詳	印刷、紙	8.0	40.0			

作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦・高)	寸法(横・幅)	寸法(奥行)	署名年記・書込み等	備考
木村莊八画	里見弾「羽左衛門傳説」新聞切り抜き	不詳	印刷、紙	7.5	28.5			
〈伊藤亜古氏寄贈〉								
朝倉 摂	〔《沙上》(部分)1〕	1946	顔料、紙	73.8	100.3	2.0		
朝倉 摂	〔《沙上》(部分)2〕	1946	顔料、紙	117.3	82.2			
朝倉 摂	〔農業をする女性(部分)〕	不詳	顔料、紙	126.1	86.2			
〈河野実氏寄贈〉								
中國木刻作者協会	『中國木刻』創刊号	1942	印刷、紙	24.0	17.5			
〈後藤秀聖氏寄贈〉								
武林写真館(武林盛一)	〔原田笑人〕	1890	写真、紙	9.8/10.8	6.3/6.8		裏面：呈 安藤大君 原田笑人 廿三年八月	
不詳	〔原田豊吉〕	1892	写真、紙	14.5/16.4	10.0/10.8		裏面：複写 明治廿五年春 三十三	元画像撮影： Erich Sellin & CO.
〔泰昌照相〕	〔安藤少尉ほか8名〕	1895	写真、紙	10.5/10.8	15.3/16.5		裏面：明治廿八年十月三日写影 小崎曹長 友枝特務曹長 木郎軍医 安藤少尉 片山曹長 桑野大尉 平岡大尉 内田中尉 関本少尉 於營口 安藤少尉記〔印〕	
中黒 實	〔原田龍蔵〕	1895	写真、紙	9.5/10.8	6.2/6.5		裏面：明治廿八年十一月寫 原田龍蔵 明治廿六年十月出生	
中黒 實	〔原田一三ほか2名〕	1896	写真、紙	9.4/10.8	6.1/6.5		裏面：明治廿九年四月写 原田一三 明治廿九年一月出生	
藤井石雄	〔歩兵第十聯隊第六中隊幹部5名〕	1896	写真、紙	14.8/16.5	10.4/10.8		裏面：明治廿九年十一月写 In. Himedji 歩兵第十聯隊第六中隊幹部之照相 小倉大尉竹峯少尉 歩兵第四十聯隊二補補ス因テ紀念トス K. Ando	
獨立館後藤	〔歩兵第十聯隊3名〕	1896	写真、紙	14.8/16.6	10.5/10.8		裏面：明治廿九年十二月十八日 當歩兵第十聯隊軍旗祭 因爲紀念 撮影 安藤生	
玉翠館(気賀秋敏)	〔原田直次郎肖像写真模写〕	1899	写真、紙	14.2/16.4	10.0/10.6		裏面：是亡父ガ最近ノ撮影ニヨリ門人正英ノ寫セル者聊紀念ノ爲メ更ニ之ヲ寫真ニ附シ謹ミテ生前辱交ノ君子ニ呈ス 明治廿二年十二月廿六日 原田龍蔵	
〈水沢勉氏寄贈〉								
ヴァーツラフ・フィアラ	〔マルシア・ブルリューク蔵書票〕	不詳	印刷、紙	21.0	12.8			
ヴァーツラフ・フィアラ	〔マリアナ・フィアローヴァ蔵書票〕	不詳	印刷、紙	11.9	8.0		左：VF 左上：EX LIBRIS 下：MARIANA FIALOVA	
ヴァーツラフ・フィアラ	〔ヴァーツラフ・フィアラ蔵書票〕	不詳	印刷、紙	10.0	7.1		左：VF	
ヴァーツラフ・フィアラ	〔ニキフォロヴァ蔵書票(男)〕	不詳	印刷、紙	10.0	7.1		右上：НЗ КНИГ 下：Н. А. НИКИФОРОВА VF	
ヴァーツラフ・フィアラ	〔花瓶の花〕	1963	リトグラフ、紙	20.8	27.8		左下：14/60(鉛筆) 右下：VF 63(版) V.Fiala(鉛筆)	
ヴァーツラフ・フィアラ	〔チューリップ〕	1963	リトグラフ、紙	12.0	11.0		左下：36/140(鉛筆) VF 63(版) 右下：V.Fiala(版)	
ヴァーツラフ・フィアラ	〔風景〕	1972	リトグラフ、紙	15.8	10.7		左下：VF(版)P.F.1972 右下：V.Fiala	
ヴァーツラフ・フィアラ	〔花瓶の花〕	不詳	リトグラフ、紙	23.0	16.4		左下：VF(版) 右下：V.Fiala(鉛筆)	

館外貸出作品一覧

開催初日が2017年4月1日から2018年3月31日までの展覧会に限る
(巡回展の場合は、第一会場の会期による)

件数	点数	作家名《作品名》	「展覧会名」会場(会期)
1	1~2	古賀春江《窓外の化粧》、《サーカスの景》	「川端康成 美と文学の森」久留米市美術館(4月1日~5月21日)
2	3~5	堀 文子《初秋》、《蓮》、《霧氷》	「白寿記念 堀文子 一私流の生き方を求めて」名都美術館(4月4日~5月28日)
	6	奥谷 博《足摺遠雷》	
	7	川村清雄《室内》	
3	8	岸田劉生《近藤医学博士之図》	「リアル(写真)のゆくえ—高橋由一、岸田劉生、そして現代につながるもの」平塚市美術館(4月15日~6月11日)、足利市立美術館(6月17日~7月30日)、碧南市藤井達吉現代美術館(8月8日~9月18日)、姫路市立美術館(9月23日~11月5日)
	9	寄託作品(油彩)	
4	10~11	柚木沙弥郎《型染布》、《型染布》	「柚木沙弥郎 いのちの旗じるし展」泉美術館(4月20日~6月4日)
	12	フランチェスク・スタロヴィエイスキ《ヴロツワフ現代劇場、ベルトルト・ブレヒト『肝っ玉おっ母とその子どもたち』》	
	13	ロマン・チェシレーヴィチ《ワルシャワ国立オペラ劇場、ダッラピッコラ『囚人』》	
5	14~16	ヘンリク・トマシェフスキ《ポーランド—民衆芸術が魅力のポーランドに行こう》、《スタジオ劇場(テアトル・スタジオ)、ヴィトカツィ》、《ドラマ劇場(テアトル・ドラマティチュニ)、W. ゴンブローヴィチ『結婚』》	「クエイ兄弟:ファントム・ミュージアム」渋谷区立松濤美術館(6月6日~7月23日)
	17	レシエク・ホウダノーヴィチ《デサ・ワルシャワとブラハ・アート・センター主催の展示・販売会『チェコ・スロヴァキアの芸術家の絵画、ガラス細工、陶器』》	
	18	ユゼフ・ムロシュチャク《ワルシャワ・オペレッタ劇場『乞食学生』》	
	19	ヤン・レニーツァ《大劇場(テアトル・ヴィエルキ)、アルバン・ベルク『ヴォツェック』》	
6	20~44	アルベルト・ジャコメッティ《裸婦小立像》、《肘をつくヤナイハラ》、《洗面所に立つアネット》、《ヤナイハラの頭部、落書き》、《幾つかのヤナイハラの頭部、グラスなど》、《ヤナイハラの頭部、幾つかの落書き》、《4つの頭部と落書き》、《剣を持つ3人の男、男の頭部など》、《幾つかの頭部》、《頭部、人物像など》、《4人の人物》、《幾つかのヤナイハラの頭部など》、《ヤナイハラの頭部と幾つかの頭部》、《男の頭部と落書き》、《葛飾北斎「うぼがえとき」模写》、《ヤナイハラの頭部》、《肘をつくヤナイハラ》、《向き合うカップル、男の頭部》、《アトリエの椅子》、《花束》、《ヤナイハラの頭部》、《ヤナイハラの頭部》、《眠るヤナイハラ》、《斜め横向きのヤナイハラの頭部、幾つかの頭部など》、《ヤナイハラの頭部》	「ジャコメッティ展」国立新美術館(6月14日~9月4日)、豊田市美術館(10月14日~12月24日)
7	45	宮崎 進《習作「ヒロシマ」記憶と祈り》	「宮崎進—すべてが沁みる大地—」多摩美術大学美術館(7月15日~10月9日)
	46	川口起美雄《故郷を喪失したもたち》	
8	47	古賀春江《窓外の化粧》	「富山県美術館開館記念展 Part 1 生命と美の物語 LIFE—楽園をもとめて」富山県美術館(8月26日~11月5日)
	48	高橋由一《江の島図》	
	49	福沢一郎《よき料理人》	
9	50	籾木清方《お夏清十郎物語》(6面)	「没後45年 籾木清方展」高松市美術館(9月9日~10月15日)
10	51~52	高村光太郎《大倉喜八郎像》、《裸婦坐像》	「没後30年記念 高田博厚展」福井市美術館(9月16日~11月5日)
11	53~76	片岡球子《幻想》、《海(鳴門)》、《火山(浅間山)》、《面構 足利尊氏》、《面構 足利義満》、《面構 足利義政》、《面構 等持院殿》、《面構 徳川家康公》、《面構 日蓮》、《面構 白隠》、《面構 上杉謙信と直江山城守》、《面構 豊太閤と黒田如水》、《面構 東洲斎写楽》、《面構 葛飾北斎》、《面構 喜多川歌麿と鳥居清長》、《面構 安藤広重》、《面構 鳥文斎栄之》、《面構 山崎辨栄上人・猿則承陸王楽人》、《面構 国直改め三代豊国》、《面構 歌川国芳》、《面構 初代豊国》、《カンナ》、《海(真鶴の海)》、《面構 狂言作者河竹黙阿弥・浮世絵師三代豊国》	「片岡球子・面構 神奈川県立近代美術館コレクションを中心に」平塚市美術館(9月30日~11月26日)
12	77	林 敬二《ETERE III》	「林敬二展」O美術館(10月14日~11月7日)
	78~79	山口勝弘《ヴィトリウスNo.37》、《光のオブジェY》	
13	80~85	山口勝弘;大辻清司《APN No.1》、《APN No.2》、《APN No.4》、《APN No.6》、《APN No.8》、《APN No.10》	「岡本太郎とメディア・アート 山口勝弘—受け継がれるもの」川崎市岡本太郎美術館(11月3日~2018年1月28日)
14	86~91	清宮賀文《祈》、《小さな炎》、《希望のマスク》(以上3点は望月富助コレクション)、《近づくと悲しみ》(北川原コレクション)、《或る時》、《初秋の風》	「生誕100年 清宮賀文 あの夕日の彼方へ」高崎市美術館(12月10日~2018年1月31日)、茨城県近代美術館(2月23日~4月8日)
	92~94	岸田劉生《近藤医学博士之図》、《初夏の麦畑と石垣》、《童女図(麗子立像)》	
15	95	椿 貞雄《村山政司の像》	「求道の画家 岸田劉生と椿貞雄」宮城県美術館(2018年1月27日~3月25日)、久留米市美術館(4月7日~6月17日)
	96	寄託作品(油彩)「宮城県美術館のみ」	
16	97~132	青山義雄《二人の男》、《アトリエ》、《湖のほとり》、《遊ぶ子供》、《海辺の輪舞》、《聖なる歌》、《みのりの秋》、《海辺の前庭》、《幻想の一風景》、《散策》、《夜の散策》、《牧場にて》、《風景》、《アダム》、《竹叢》、《糸杉のある風景》、《イビサ風景》、《裸婦》、《茅ヶ崎風景》、《アトリエの自画像》、《壺》、《自画像》、《家鴨の葬式:油彩習作》、《チューリップのある静物》、《コロワーズを吸う自画像》、《自画像》、《南仏風景》、《カーニユのホテルの窓から》、《スケッチブック No.3》、《スケッチブック No.41》、《スケッチブック No.42》、《スケッチブック No.43》、《スケッチブック No.53》、《スケッチブック No.107》、《スケッチブック No.117》、《スケッチブック No.128》	「青山義雄展 きらめく軌跡をたどる」横須賀美術館(2018年2月10日~4月15日)
17	133~135	麻生三郎《形態A》、《形態B》、《男》	「東京~沖縄 池袋モンパルナスとニシムイ美術村」板橋区立美術館(2018年2月24日~4月15日)
18	136	谷保玲奈《呼応》	「谷保玲奈展 共鳴」横浜美術館アートギャラリー(2018年3月17日~4月22日)
	137	梅原龍三郎《熱海野島別荘》	
19	138	中川一政《静物(びん・白布)》	「横堀角次郎と仲間たち」アーツ前橋(2018年3月17日~5月29日)
	139	三岸好太郎《ニコライ堂遠望》	

件数	点数	作家名《作品名》	「展覧会名」会場(会期)
20	140～148	阿部展也《飢え》、《生誕》、《太郎》、《無題》、《無題》、《EARTH》、《R-2》、《R-29》、《R-50》	「阿部展也—あくなき越境者」広島市現代美術館(2018年3月23日～5月20日)、新潟市美術館(6月23日～8月26日)、埼玉県立近代美術館(9月15日～11月4日)
21	149～150	長谷川利行《新宿風景》、《裸婦》(2点とも北川原コレクション)	「長谷川利行展」福島県立美術館(2018年3月24日～4月22日)、府中市美術館(5月19日～7月8日)、碧南市藤井達吉現代美術館(7月21日～9月9日)、久留米市美術館(9月22日～11月4日)、足利市立美術館(11月13日～12月24日)

当館を含む巡回展への貸出作品

件数	点数	作家名《作品名》	「展覧会名」会場(会期)
1	1～5	萬鉄五郎《田園風景》、《日傘の裸婦》、《裸婦》、《茅ヶ崎・柳島》(各会場半期)、《山水図》	「没後90年 萬鉄五郎展」岩手県立美術館／萬鉄五郎記念美術館(4月15日～6月18日)、神奈川県立近代美術館 葉山(7月1日～9月3日)、新潟県立近代美術館(9月16日～11月19日)

2017年度修復作品一覧

※1 記載のあるものは外部委託、ないものは当館修復担当研究員 伊藤由美が行った。
 ※2 「神奈川県まなびや基金」を活用した彫刻整備(p.57)参照

作者	作品名	寸法(cm) 縦・高×横・幅×厚・奥行	制作年	種別	修復担当 ※1
朝倉 摂	歎び	197.0×109.3	1943	日本画	増田絵画修復工房
朝倉 摂	夫婦／街に見る	130.5×162.5 / 195.8×193.0	1953/1942	日本画	増田絵画修復工房
保田春彦	地平の幕舎 ※2	53.0×309.0×310.0	1993	彫刻	文化財修復工房 明舎
柳原義達	裸婦 座る〔台座〕 ※2	32.5×53.8×77.3	1958	彫刻	有限会社 ブロンズスタジオ
堀内正和	ひざまづく女 ※2	105.0×71.0×57.0	1931	彫刻	株式会社 文化財ユニオン
堀内正和	壺をだく子 ※2	10.5×9.7×7.0	1947	彫刻	株式会社 文化財ユニオン
堀内正和	海辺 ※2	48.0×116.0×72.0	1951	彫刻	株式会社 文化財ユニオン
堀内正和	作品 ※2	130.0×35.0×30.0	1951	彫刻	株式会社 文化財ユニオン
堀内正和	横の作品 ※2	29.0×73.0×34.0	1952	彫刻	株式会社 文化財ユニオン
堀内正和	のどちんことはなのあな ※2	44.0×54.0×54.0	1965	彫刻	株式会社 文化財ユニオン
堀内正和	箱は空にかえっていく ※2	86.0×30.0×30.0	1966	彫刻	株式会社 文化財ユニオン
堀内正和	指の股もまた股である ※2	77.0×100.0×30.0	1968	彫刻	株式会社 文化財ユニオン
堀内正和	球の切り方 ※2	45.0×34.0×34.0	1970	彫刻	株式会社 文化財ユニオン
堀内正和	三本の直方体(線) ※2	83.0×92.0×110.0	1983	彫刻	株式会社 文化財ユニオン
有島生馬	英夫像	45.8×38.0	1922	油彩画	
藤間 清	無題(赤)	45.4×37.8	1985	油彩画	
津田正周	兎	37.9×45.7	不詳	油彩画	
金沢重治	初夏の景(妙本寺境内)	80.5×100.0	1953	油彩画	
金沢重治	梅	80.5×100.7	1959	油彩画	
村山知義	現在の藝術と未来の藝術	19.5×13.7×1.6	1924	図書資料	

修復報告 1

伊藤由美

作者：津田正周

作品名：兎

制作年：不詳

材料：油絵具、カンヴァス

寸法(mm)：修復前 379×454

修復後 379×457

修復前の所見

本作品は、元所蔵者の遺族宅に長年収蔵されていた後、2017年度当館に寄贈された。

画面全体に汚れの付着があり、本来白色に近い背景部はやや黄化が見られる。中央に描かれた黒兎部分と背景左上方に、10×13mm程の目立つ剥落がある(図3)。裏面木枠に別の作品名が記されていることや、画布の変形、剥落部の観察から下層に別の絵が描かれていると思われる(図4)。塗り重ねた絵具層間の固着は良好とはいえ、亀裂に沿った浮き上がりが散見される(図6)。絵具層に柔軟性はなく、画面全体に多方向の目立つ亀裂が生じている(図5)。表面の汚れや画布全体の緩やかな変形のため一見目立たないが注意深く観察すると、細い亀裂も全体に多く生じているのがわかる。これらの亀裂は、下層の絵具層の厚みや硬さに起因すると思われる。裏面の観察では、絵具層の亀裂が画布の変形を伴っているのがわかる(図12)。

裏面木枠上に黒色絵具で作者名、題名が明記されている(図4)。上辺には右から、「兎 津田正周」、右辺には本辺を上辺とする縦画面とした時に右から「吹奏する伊太利兵 津田正周」と記されており、作者名は線で消してある。下層の絵はこの「吹奏する伊太利兵」と考えられる。裏面は埃の付着がひどい。

額は美術館搬入時には吊り用ヒートン取り付け位置が下方であり、作品が天地逆に装着されていた(図2)。表側には広範囲に亘る黒い汚れの付着がある(図1)。右辺に欠損、入れ子の側面全体に割れが生じている。

修復処置

1. 調査

修復前の撮影、作品の状態調査を行った(図1～6)。

2. 浮き上がり接着

絵具層の目立つ浮き上がり箇所、層間剥離箇所を膠で接着した。

3. 洗浄

画面に付着した汚れを希アンモニア水溶液で除去した。画面は長年、付着していた汚れのためにやや黄変していた。また、洗浄後は汚れの下で目立たなかった細かい亀裂の存在もわかるようになった。

4. 表打ちによる画面養生

絵具層の固着が良好ではなく層間剥離や剥落を起こしやすい状態であるので、次の作業の取り扱いを考慮し、絵具層保護のための養生を行った。全面に和紙をメチルセルロースで接着した(図7)。

5. 木枠取り外し及び裏面清掃、殺菌

木枠を取り外した後、画布の裏面と木枠の下に堆積していた埃やごみを除去し、裏面全体をエタノールで殺菌した(図8)。

6. 張りしろ補強布接着

画面周辺の張りしろの幅が、仮張りや木枠張り直しには不十分であるので、新たに帯状の麻布を接着し、張りしろ補強を行った(図8、12)。

7. 仮張り変形修正

下層の絵具に影響された画布全体の変形や、亀裂に沿った絵具層の変形が目立っているが、脆弱な絵具層の状態を鑑みるとアイロンなどによる変形修正ができないため、仮張りによるテンションで変形修正を試みた(図9、10)。

8. 裏面より接着剤含浸

全体の絵具層の固着不良は、将来、新たな浮き上がりや剥落を起こす可能性があるため、表打ちの和紙を除去後、裏面よりアクリル系接着剤を含浸させて絵具層の固着強化を行った(図11)。

9. 絵具層の浮き上がり接着

接着剤含浸後、画面側から再度、コテによる加温、加圧で亀裂部分の接着と変形修正を行った。

10. 木枠張り込み

画布をオリジナルの木枠に張り込んだ(図15、16)。

11. 充填整形

剥落箇所水性の充填剤を充填し、整形した(図14)。

12. 補彩

充填箇所を溶剤型アクリル絵具で補彩した(図15)。

13. ワニス塗布

ダンマル樹脂の保護ワニスを塗布した。

14. 額の欠損、割れ部分の接着

入れ子側面の割れを接着し、欠損箇所は木工用パテで充填して補彩をした。

15. 額洗浄

全体の汚れのほかに、広範囲に及び付着している黒い汚れを洗浄した。洗浄で除去しきれない目立つ汚れは、補彩をした(図1、17)。

16. 額の装着

作品に額を装着した(図17、18)

17. 撮影

修復後の撮影を行った(図15～18)

修復後の所見

洗浄により画面全体の汚れや黄変が改善され、本来の明るい色調を取り戻した。また、汚れを除去したことで繊細な色味も見えるようになり、ただ黒い塊のように見えていた黒兎も、ほんのり赤みを帯びた目や、耳の形の流れ、柔らかい体の丸みなども感じられるようになった。

また、絵具層間の固着強化により、将来において安定した状態となった。

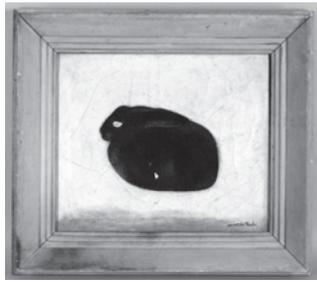


図1. 修復前 額付き表 全体の汚れとともに左下の汚れが目立つ

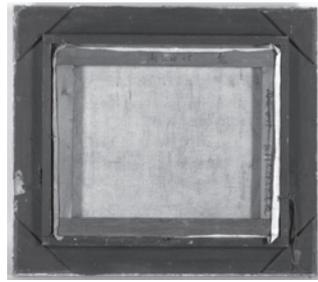


図2. 修復前 額付き裏 額は上下逆に装着されている

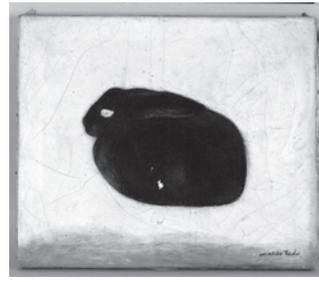


図3. 修復前 全体に黄変がみられ、兎部分と背景左上に目立つ剥落がある

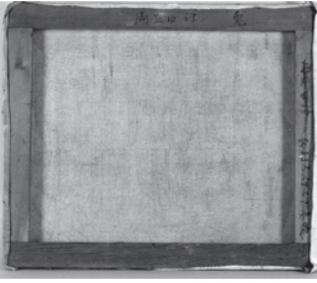


図4. 修復前 裏面 木枠上辺と右辺に作者名、題名が明記されている

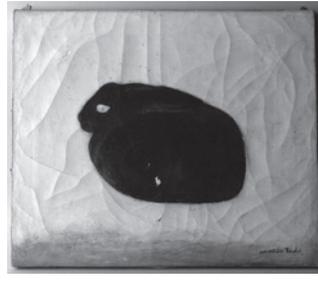


図5. 修復前 表 左からの側光線写真 全面に生じた亀裂と変形がわかる

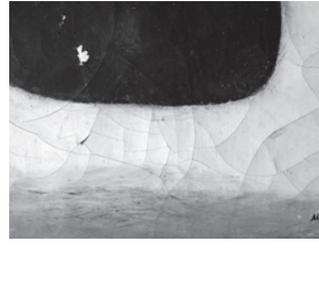


図6. 修復前 部分 亀裂に沿った絵具の浮き上がり

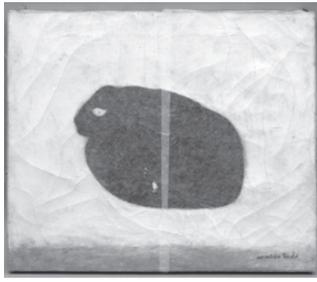


図7. 修復中 画面保護のための表打ち養生

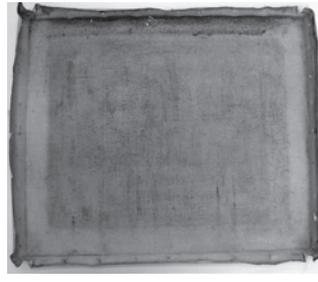


図8. 修復中 木枠除去後 裏面木枠下に埃やごみがたまっている

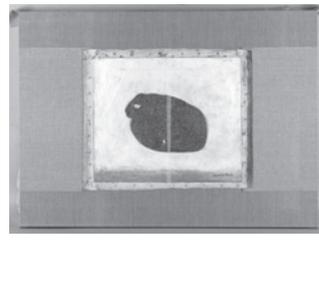


図9. 修復中 仮枠に張って、画布と絵具層の变形修正を行った

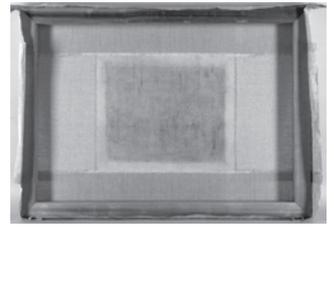


図10. 修復中 仮張り変形修正 裏面変形修正を行った

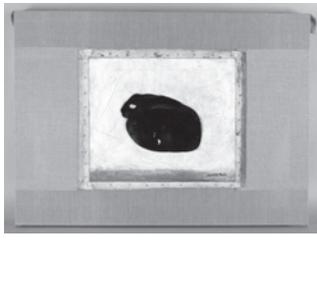


図11. 修復中 養生の和紙を除去して、裏面より接着剤を塗布した

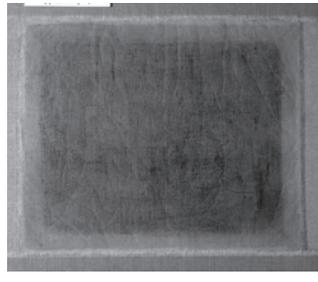


図12. 修復中 裏面全体に、絵具の亀裂による画布の変形が生じている

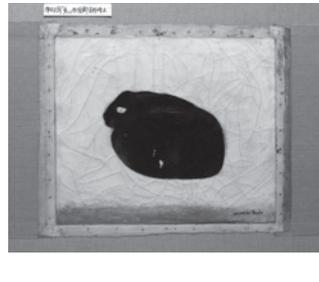


図13. 修復中 画面洗浄後、黄化していた背景の色調が明るくなった

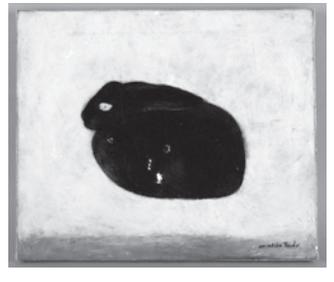


図14. 修復中 オリジナルの木枠に張り直し、剥落部を充填した。

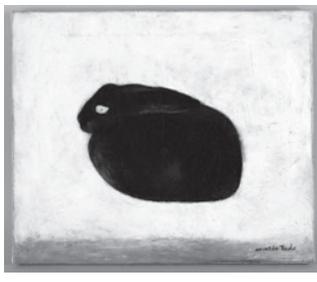


図15. 修復後 剥落部の充填整形後、補彩を行った

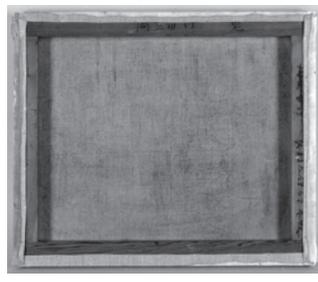


図16. 修復後 裏面

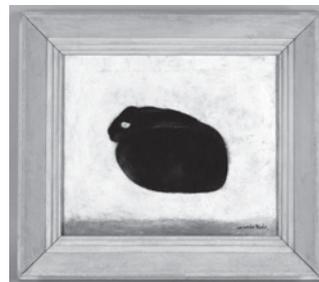


図17. 修復後 額の洗浄を行い、作品を装着した

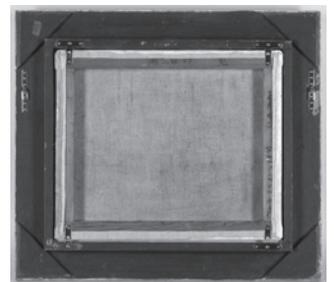


図18. 修復後 額装 裏面

修復報告 2

文化財修復工房 明舎
立体作品保存修復家 藤原 徹

作 者：保田春彦
作 品 名：地平の暮舎
制 作 年：1993年
材 質：鉄(コールテン鋼 15、40mm厚)
寸法(cm)：53.0×309.0×310.0
設置場所：葉山館 前庭
作業期間：2017年9月9日～2018年3月12日

所見

本作品は全体に斑点腐食が進行し、土や砂、植物の汚れが付着し当初の味わいが減少している。制作後27年経過しておりコールテン鋼特有の鱗状腐食が進み、接合部の一部に亀裂も見られる。底部裏面には瘤状の腐食も見られ、深部にまで腐食が進行していると思われる。

これらのことを鑑み、分解し各部分の状態を確認しながら鱗状の腐食物を軽減し、防錆材により錆の不動態化を考えなくてはならないと考える。また、設置環境により特に塩害も考慮しなくてはならないため、作品の趣旨や美観を考慮しながら塩害に対応する保護膜の塗布も必要になるとと思われる。色味に関して制作当時は現状よりオレンジ色がかっていた筈であるが、この鋼材の性質上10年以上経過した現在では黒味がかかった茶色である。

処置提案

展示場所は海の近くで、塩害や砂等の強風によるプラスト状態になることを考慮しなくてはならない。

作品接合の安全性を考え、腐食による金属の痩せ等も考慮に入れること。また、作品の統一感や美観等も配慮する。

予想される処置については3種ケレン(サビ・旧塗膜を除去し、鋼面を露出させる。ただし、劣化していない塗膜活膜は残す)をグリットプラストとナイロンヤスリにより処置を行い、海辺の金属建造物等を使用される塗布剤(シリコンやウレタン、エポキシ系)で作品外容の変化の少ないものをテストして使用する。

分解できる部分は外した方が作業効率がよくなると思われる。

処置作業

1. 作品の移動

作品の位置の確認と目印のアンカーを打ち込み、周辺にある部材からユニック車にて吊り、トラックに積込み梱包する。

2. 実施作業

＊プラストと表面研磨のテスト

全体的にエアープラストにより埃や内部に入り込んだ小石、埃等を取り除く。グリットプラストの硬度の低い粉体からテストし、クルミグリッド粒度#80のものを使用した。また、金属表面は3種ケレン程度に研磨する。

極度に進行した腐食瘤等はエアーチッパーを用いて深部まで腐食の進行した部分(深いところで5mm程度)を取り除く。接合部などの凹凸の深い部分はワイヤーディスク、ナイロンタワシを用い作業を行った。

＊防錆剤の選択と色味の調整

作品の裏面(地面側)と箱内部は湿気が溜まり腐食しやすいので、タンニン酸(サビチェンジャー)にて黒錆を発生させた後、2液エポキシ樹脂塗料の防錆剤を塗布した。この防錆剤には乳鉢にて細かく粉碎した顔料にてコールテン鋼の色合いを調整した。この部分は以前にも防錆剤が塗布されていたのでそれに従った。

作品の上面や表面の部分にはプラスト洗浄後に脱脂を行い、アクリル樹脂(パラロイドB-72)の5%アセトン溶液を刷毛やローラーハケを用い塗布(60~100 μ m厚)し、乾燥後に流動パラフィンを全体に塗布した。これらは海風や砂塵などから作品をより長く保護するために行われた。また、アクリル樹脂塗料は耐候性もよく、劣化が見られればアセトンなどの有機溶剤にて取り除くことができる。

3. 設置作業

3.5トンユニック車にて作品の設置を行った。アンカーで目印をつけた位置から処置前の作品写真を参考に組み合わせた。玉石により作品の水平を出しながら設置した。

終わりに

始めは作品の底面の様子や、組み合わせ方法が理解できず、恐る恐るの進行であった。保田氏に伺いたいところであったが、病床にてそのチャンスを逃した。運良く美術館に残された写真資料により明らかとなり、中央部を一体で吊り上げ移動することができた。

コールテン鋼(耐候性鋼)の成分は銅、ニッケル、クロムなどの合金で成立ち、色合いは10年ぐらいで黒色化してゆく。腐食の進行していた部分もいくつかの部位で見られたが、直ちに作品を危険にするものではなく腐食生成物を取り除き防錆処置を行った。金属と金属の間隙や接合部、裏面にその進行が多く見られたので、タンニン酸やアクリル樹脂の塗布は行ったが、今後ナイロンタワシ等で汚れを取りながら経過を観察していただきたい。また、2、3年に一度は汚れ取りと流動パラフィンの塗布を実施すると作品の質感と魅力を維持することができる。

展示場所の状況により悪戯や足痕を着けられる可能性が高いが、ナイロンタワシ等で軽く拭き取るにより取り除くことができる。鳥の糞等は水洗いにて出来るだけ早く洗浄するとよい。春秋には高圧水による洗浄で作品の内部に溜まった汚れを取ると、腐食の進行を緩やかにすることができる。

強風による傷や塩分、金属同士の間隙、溶接部の異金属の付着した部分、地面の石との接触圧迫部分等により劣化被害を受けられると思われるので留意する。



図 1, 2. 展示状態



図 1

図 2



図 3

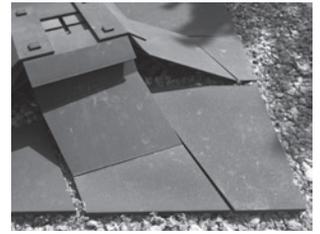


図 4

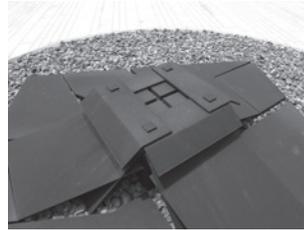


図 3～6. 表面の汚れと腐食状態

図 5



図 6

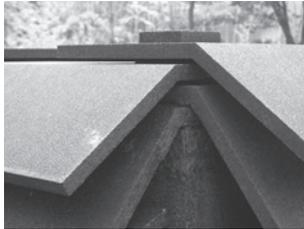


図 7, 8. 接合部の腐食進行

図 7

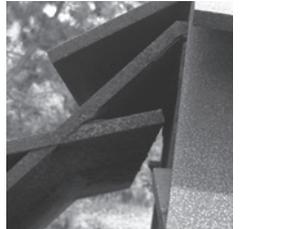


図 8

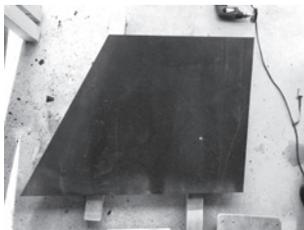


図 9, 10. 構成部分の表裏

図 9



図 10



図 11～13. 地面に接した部分の状態

図 11



図 12



図 14. 接合部の開き



図 15, 16. 浮き上がった腐食部分

図 15



図 16



図 13



図 17. グリットブラスト洗浄の様子



図 18. 右半分を処置

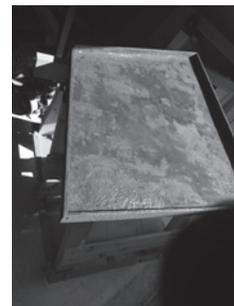


図 19. プラスト処置後に防錆材を塗布したところが明確になった

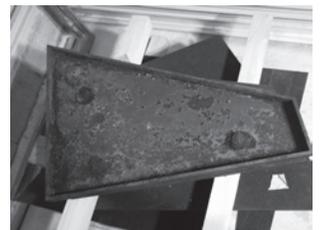


図 20. 瘤になった腐食部

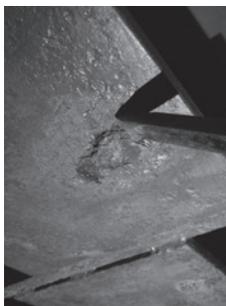


図 21, 22. エアーチップパーを用いて接触腐食部を取除く



図 22

図 21

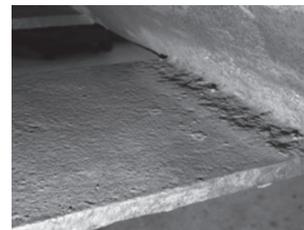


図 23, 24. 腐食部の処置後

図 23

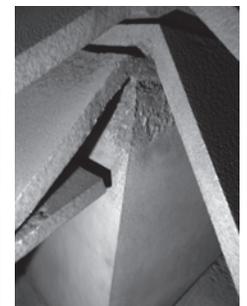


図 24

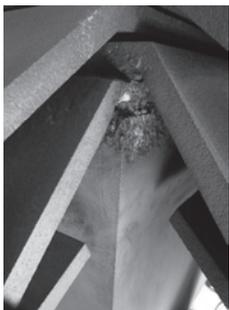


図 25



図 26

図 25, 26. タンニン酸処置による黒錆の発生



図 27 ~ 29. 錆止め剤の調色テスト

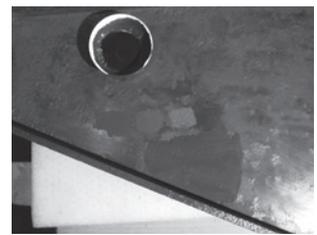


図 28



図 29



図 30. 中央内部の錆取り



図 31



図 32

図 31, 32. 脱脂後にタンニン酸を塗布



図 33 ~ 36
塗布後に見られた旧防錆部との斑



図 34

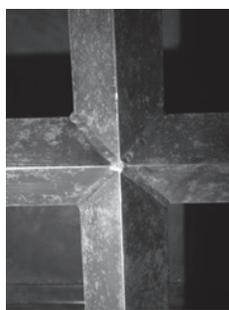


図 35



図 36



図 37. 作品表面の平面を調整するためのピンが見られた



図 38. 作品の表面部分は先ずナイロンタワシにて汚れと付着物を取り除いた



図 39. 清掃後にパラロイド B-27 の 5% アセトン溶液をローラーを用い塗布

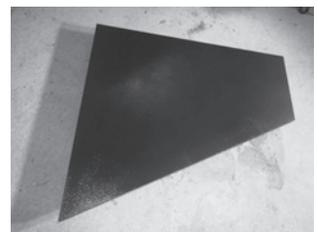


図 40. 塗布後



図 41, 42. 裏面には防錆材を塗布

図 41



図 42



図 43, 44. 表面にアクリル樹脂を塗布

図 43



図 44



図 45. 中心部の処置後



図 46. 作品の設置中



図 47, 48. 処置後

図 47



図 48

美術館資料の保存と活用

—新規事業 アーカイブ構築について

2011年の東日本大震災以降、全国の美術館・博物館において、歴史的な価値を持つ資源を後世に残すことの重要性があらためて議論され、作品・資料の保存方法についての見直しが進められている。絵画や彫刻などの美術作品は言うまでもないが、記録写真や文書などの資料についても作品に準じた適切な保存が求められている。

1951年に開館した当館には、現在まで半世紀以上の歴史がある。2016年に閉館した旧鎌倉館、1984年に開館した鎌倉別館、2003年に開館した葉山館の3館あわせて、これまでに700回を超える展覧会を開催し、多くの作家や作品を紹介するとともに、講演会や上映会などのイベントを実施してきた。それらの美術館活動にともなって作成、蓄積された資料は、鎌倉別館と葉山館あわせて段ボール300箱を超える量に上っており、整理および保管方法の検討が急務となっていた。さらに、過去の展覧会に関する国内外からの問い合わせも増加しており、そのニーズに応えていく必要があった。そのため、当館では2017年度より新規事業として「アーカイブ構築」を掲げ、美術館資料の整理と公開を推進していくこととした。国内の美術館で「機関（組織）アーカイブ」を整備している例はほとんどなく、日本初の公立の近代美術館として戦後の文化活動の一翼を担ってきた当館として、率先して取り組むべき課題と捉えている。2017年度はポーラ美術振興財団と文化庁から外部資金を得て主に次の2つの事業を行った。

旧鎌倉館の建築および展覧会についての調査研究

旧鎌倉館で開催された展覧会に関する資料368箱（アーカイバルボックス又は段ボール箱）の整理に着手し、展覧会ごとの分別と資料内容ごとの大まかな仕分けを行い、リストを作成した。建築については、当館の所蔵する建築図面のリストをまとめた。資料整理作業と並行し、アーカイブ事業の参考として慶應義塾大学アート・センター、国立新美術館アートライブラリー、高知県立美術館 石元泰博フォトセンター等への見学、調査を実施した。2018年3月27日に研究会を行い、今回の研究助成を得て変換・編集した映像資料の試写や今後の資料整理に向けた議論を行った。

（公益財団法人ポーラ美術振興財団 調査研究助成）

斎藤義重アーカイブの整理と活用

当館では2002年、斎藤義重のご遺族から図書や素描、マケットなどの作品関連資料のまとまった寄贈を受け、「斎藤義重文庫」として整備を進めていたが、一部の資料は整理が行き届かず残されていた。そのため、本事業では書簡約600通、手帳・ノート類約60冊について整理とリスト化を行うとともに、写真類のファイル6冊分（主に斎藤義重自身が撮影したもの、約3千コマ）について、デジタルデータ化を実施した。さらに、資料リスト等の英訳を行い、国内外の美術館や研究者が活用できるよう整備を進めた。

（文化庁 平成29年度我が国の現代美術の海外発信事業「我が国の現代美術の戦略的海外発信に向けた関連資料の整理」）

成果報告の一環として、当館ウェブサイトにおいて「神奈川県立近代美術館アーカイブ」のページを設け、その概要を①建築資料、②運営資料、③展覧会資料、④イベント資料、⑤作品資料、⑥作家

資料の6つに分類し、紹介している。今後、改修中の鎌倉別館がリニューアルオープンする2019年秋に、一部資料の一般公開および美術館アーカイブを紹介する展示を予定している。



図1. 資料整理の様子



図2. 整理を行った展覧会の会場写真の一例 「森芳雄・麻生三郎展」（1962年）



図3. デジタル化した斎藤義重アーカイブの写真の一例
（「サンパウロ・ビエンナーレ展」会場写真、1960年）

調査研究活動

調査・研究報告

木下杢太郎の詩集『食後の唄』と『木下杢太郎詩集』の挿画について

橋 秀文

はじめに

明治末から大正初めに日本耽美派の文学や美術を生み出したグループとしてその名を残した「パンの会」には、文学者の北原白秋(1885-1942)や木下杢太郎(1885-1945)、画家の石井柏亭(1882-1958)や山本鼎(1882-1946)らといった若い芸術家たちがいた。彼らが参加した雑誌『方寸』などでは文学者は文学を、そして美術家は美術をといったはっきりとした役割分担がなされていたわけではなく、文学者でありながら挿絵も描き、画家でありながら詩も掲載し、文学と美術の融合を目指したのが特徴だったといえる。ここでは「パンの会」の一人である木下杢太郎の代表的な2冊の詩集『食後の唄』と『木下杢太郎詩集』に焦点を絞り、詩と挿絵の関係を探ることで、今までほとんど知られることのなかった両者の意外な結びつきを解明したい。

2冊の詩集

木下杢太郎は生前、『食後の唄』(1919年)と『木下杢太郎詩集』(1930年)の2冊の詩集を出版している。前者は「パンの会」での創作活動に一区切りをつけた時期のものである。同じく「パンの会」で活躍した詩人・北原白秋は、その活動期に詩集『邪宗門』(1909年)と『思ひ出』(1911年)を出版し、時代の寵児となった。それに比べ木下杢太郎は、詩集刊行の機を逃したと見ることができる。『食後の唄』刊行の11年後、杢太郎が創作した詩のほとんどを集めた『木下杢太郎詩集』が第一書房から刊行された。ここには8点ほどの挿画が収められている。

今回、木下杢太郎の詩集の挿画に注目してみたのには理由がある。明治期の詩集の多くは、創作者たちが装幀や挿画に非常に強く関心を持ち、文字としての詩のみではなく、その詩の内容にふさわしい装幀や挿画を付そうとした。その中でも、特に「パンの会」の白秋や杢太郎たちは詩と絵画を融合させることに腐心した。そして、例えば白秋の『邪宗門』や『思ひ出』では白秋のみならず、石井柏亭や山本鼎らの制作した挿画を加えることに成功した。挿画という詩に付属したものと思われがちで、装飾的なものとして忘れ去られることも多い。そうした中で白秋は、率先して自作の詩集で、魅力的でさらに個人的な意味を持つ挿画を掲載した(註1)。白秋と杢太郎は、詩だけではなく挿画も自分自身で描き続けたが、詩と挿画がことのほか複雑に絡み合い、作者の韜晦趣味からその隠された意味を瞬時に読み取れなくなってしまったものもある。

『食後の唄』(1919年)の挿画

この詩集(図1)に収められた詩の多くは、杢太郎が1908年頃から1912年頃にかけて「パンの会」の時期、つまり耽美派の文学を謳歌していた頃に制作された。この詩集が、詩が制作された頃から少し時間をおいて遅れて刊行されたことは、先に述べた。詩の制作から詩集編纂、刊行まで間があることについて、杢太郎は序文で「予がわかき日の酔はもう全く醒めてしまった」(註2)と述べている。



図1.『食後の唄』表紙 1919年

しかし、いざ作るとなると装幀や挿画に熱が入って贅沢なものになるのが、杢太郎特有の癖であった。アララギ派の編集者久保田俊彦に、「…始めハ安価のパンフレット型のものニする積なりしが例之道楽氣出て無用之挿絵など入れ候」(註3)と言い訳めいた手紙を送っている。因みにこの詩集の装幀は洋画家の小糸源太郎(1887-1978)である。

「パンの会」の時期に創作した詩が主であるから、挿画3点中2点が「パンの会」に関係したものである。1枚目(図2)は「アメリカ屋バー」と思しきところの一室で、男が皿に乗せた女の首に手をやっている。まさに倦怠感にあふれた世紀末的な雰囲気の写真である。後年の杢太郎はこうしたデカダンなイメージをあまり好まなかったようだが(註4)、この作品だけは『食後の唄』と『木下杢太郎詩集』の両方に挿絵として用いている。詩との関わりで見れば、「該里酒」の後に差し込まれたこの図は、詩の視覚化といえなくもない。「幕あけて窓から見れば、星の夜の小網町河岸/舟一つ……かき水音」という舞台設定が明確に見て取れ、西洋への憧れと江戸の情景の融合した「パンの会」の時代の理想的雰囲気がよくあらわれている。

木下杢太郎にとって、詩集に挿画を入れることは自身で「道楽氣」と呼ぶほどの楽しみであった。女性の生首を皿に盛った図といい、

自身の経験を描いた「パンの会」の図(図3)といい、文学の喜びを十分堪能した時代の思い出を杢太郎は絵にできたのではないだろうか。それほど杢太郎にとって「パンの会」の時期の創作活動は、壮年期になっても重要であった。

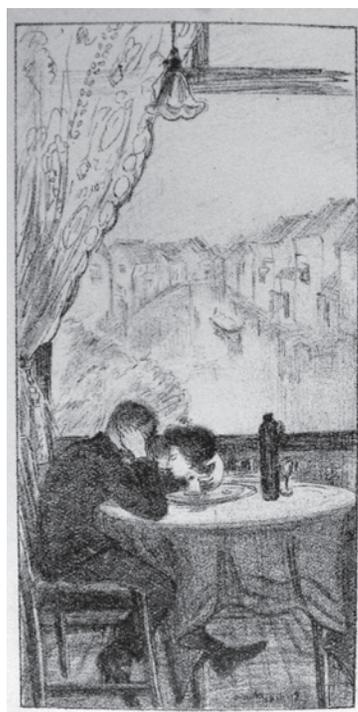


図2.『食後の唄』挿画1《無題》



図3.『食後の唄』挿画2《パンの会》



図4. 『食後の唄』挿画3《無題》



図5. 法隆寺金堂壁画観音菩薩像頭部(部分) 出典:『南部十大寺大鏡 第二輯 法隆寺大鏡 第二冊』(大塚巧藝社、1934年)、35図。

3点目の女性像(図4)が特に謎めている。ここでは、この女性像は「パンの会」という文学の思潮のなかで李太郎を理想の境地に導いてくれた「技芸女神」であると考えたい。この頃、李太郎は旧満州の南満医学堂教授(奉天病院皮膚科部長兼任)になって、中国や朝鮮の仏教美術に関心を持ち始めていた頃で、1917年8月、李太郎は結婚のため旧満州から一時帰国し、奈良を旅行している。新婦を連れて旧満洲に戻る前に、日本の仏教美術を実見し、大陸の仏教美術と比較検討したいと考えてのことであった(註5)。この女性像は、まさに焼失前に見た法隆寺金堂壁画第六壁の阿弥浄土図の右の観音菩薩像頭部(図5)を、彼なりの自由な解釈で描いたものといえる(註6)。

こうしてみると詩集『食後の唄』の挿画3点は、李太郎の青春時代を総括したものとも見て取れる。彼は、1912年「パンの会」が下火になってから7年後に詩集としてまとめ上げた時に、昔を懐かしみつつ、若かりし頃の詩ないし文芸全般に命を捧げた青春のシンボルとして技芸女神を作り上げた解釈することができる(註7)。

『木下李太郎詩集』(1930年)の挿画

『木下李太郎詩集』(図6)は、『食後の唄』の11年後、昭和の出版人の代表的人物の一人、長谷川巳之吉により刊行された。この詩集を出すことを推奨したのが詩人であり批評家でもあった日夏耿之介であった。李太郎が詩の創作活動をほとんど行わなくなった45歳の時の刊行であり、その後60歳で死去しているため、実質的に全代表作を収録したものといえる。

ハードカバーで表紙の四隅と背が革装、主体になる部分は布製という凝った贅沢なつくりとなっている。8点の挿画は、『食後の唄』のように詩の間ではなく、

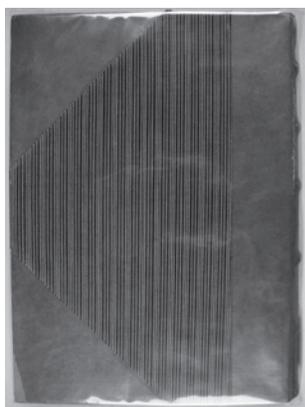


図6. 『木下李太郎詩集』表紙 1930年

別刷りの図版を本紙とは別の灰色の台紙に貼り付けた上で、目次の後にまとめて差し込んでいる。挿画の順番は原則として制作順と思われる。なお、装幀は李太郎自身によるものである。

最初の挿画は《メドゥーサの首》(図7)である。制作年は詳らかではないが、「パンの会」の時期に好んで用い



図7. 『木下李太郎詩集』挿画1《メドゥーサの首》



図8. 『木下李太郎詩集』挿画2《無題》

たモチーフで、壮年期の李太郎にとって青春の思い出といえるものであろう(註8)。続く挿画2(図8)は、1910年の雑誌『屋上庭園』第2号の挿絵として使用された「横浜三十三番」という、異人と芸妓と思しき日本女性が三味線に興じている図である。開港当時の西洋文化と江戸情緒の邂逅を視覚的に描き出したイメージとして、李太郎の「パンの会」の頃の詩の世界をよくあらわしている。挿画3《初夏の遊楽》(図9)は、北原白秋の詩集『東京景物詩及其他』(1913年)の挿絵として李太郎が原画を提供したものである。白秋詩集で伊上凡骨が原画を木版に起こしたものを、『木下李太郎詩集』では、3色カラー印刷で挿画にしている。水面は薄緑色、二人の男女が乗る小舟は灰色と、木版画に比べて画面全体の印象が少々暗くなっている。

挿画4(図10)は不思議な図像である。李太郎はこの小川のせせらぎのイメージを、森鷗外の愛娘小堀杏奴の随筆集『回想』(1942年)の装幀に使用している。この原画となる水彩画は1913年に制作されており、『木下李太郎詩集』の挿画4のイメージは、一見その原画の左半分を使っていると思われるのだが、よく見ると、別に制作したものと判断できる。画面右下には1913年の年記がある。李太郎は小堀杏奴の装幀を依頼されたとき、描きためていたものから選んだと日記に記しており(註9)、装幀・挿画などを依頼されると、その都度新作を制作するのではなく、日頃から描きためたものから選ぶことを楽しみとしていた。医者及び医学研究者として仕事に従事しながら、執筆活動に励んでいた李太郎ならではの方法であったといえよう。



図9. 『木下李太郎詩集』挿画3《初夏の遊楽》



図10. 『木下李太郎詩集』挿画4《無題》

挿画5の《鼻をほじる人》(図11)は、ローマ字で「HANA WO HOZIRU HITO」と下に記され、「パンの会」の時期に制作されたものと思われる。挿画6(図12)は『食後の唄』でも使用した女性の生首を抱く男の画像であり、2冊の詩集の両方で使用された唯一の挿画である。いかにもデカダンで世紀末的な趣味で、それがまさしく李太郎の青春時代の雰囲気をもたえている。挿画7(図13)は、1920年夏に洋画家・木村莊八とともに朝鮮・中国の仏教美術を中心に調査した際、高句麗古墳群の一つである真池洞の双楹塚古墳を訪ねた時に模写した婦人像である。李太郎にとって美的感性が刺激された女性像と思われ、『食後の唄』の「芸芸女神」に匹敵する理想的な女性像とみなすことが出来るのではない。

そして、最後の挿画8(図14)は、1924年フランスから帰国する直前に描いたイメージである。このイメージは、当時の雑誌『明星』(1924年8月号)に掲載されたもの(図15)と同じ主題によるものである。ほとんど同じであるが、雑誌のものより完成度が高い。この画像は何を表そうとしているのだろうか。自身の代表作を収めたこの詩集において、挿画は詩の視覚的解説という意味合いはほとんどないようだが、強いて言えば、「パンの会」時代の詩には、それにふさわしい雰囲気の挿絵が選ばれていたと思われる。雑誌『明星』の時点では、この挿画には「幻想」というタイトルが付されており、同年に執筆した短編小説「古都のまぼろし」を踏まえて描かれたものと推察される。当時、李太郎はパリから帰国する予定だったが、南蛮文学ないしキリシタン文学に対する興味が再燃して、急遽、帰国を先延ばしにして、スペイン、ポルトガルに立ち寄り、宣教師たちが16世紀の天正遣欧少年使節について書き記した記録を調査したのであった。その時の体験を小説仕立て



図14.『木下李太郎詩集』挿画8《無題》



図15.「幻想」『明星』(1924年8月号)所収

にしたのが「古都のまぼろし」である。古都のある大学の図書館の書庫内で老司書の話を書く主人公の私(李太郎)が描かれ、「まぼろし」ということでは、画面左上に天正遣欧少年使節の二人が話し合いながらゴンドラらしき舟の前を歩いている情景が描かれている(註10)。

結び

『木下李太郎詩集』に収められた挿画は、詩を説明しているのではなく、李太郎の人生の節目を彩る局面をあらわしていると解釈した方が自然である。「パンの会」時代の怪奇趣味的なメドゥーサの首、横浜の居留地の異国情緒あふれる情景。北原白秋に捧げた《初夏の遊楽》(図9)を自身の詩集に掲載したのは、固い友情で結ばれた青春を再度味わい直そうとしたかのようだ。1913年に制作された水彩の風景画も、懐かしい青春の一コマである。同時代に制作された《鼻をほじる人》(図11)を集大成となる詩集の中に掲載したことは、嫌悪を感じながらもそれを描こうとする李太郎の潔癖さを、ユーモアを交えて伝えてくれる。女性の生首を抱く男の図(図12)までは、「パンの会」つまり李太郎の青春時代と関わりのある挿画となっている。そして、残りの2点の挿画は「パンの会」以降の李太郎の方向性を示したものと考えてよい。高句麗古墳壁画の婦人像(図13)は、学術的に写実に徹して描いたのではなく、対象物から受ける感動を自由に解釈して描いたものであり、生命力あふれる優美さは「パンの会」からの成長を示している。「パンの会」の活動が最高潮に達したときに詩集が編まれたのであれば、おそらく世紀末風のイメージに収斂された挿画群によって、調和のとれたまとまりの良い、まさに耽美派を代表する詩集が誕生していたことであろう。「パンの会」が下火になって7年後の刊行となったことで、その時点で関心のあったイメージを李太郎は挿画に加えることができたのであった。それは見方によっては、読者に対する気配りが見受けられない、自己満足的な享楽人の行いとみなすことも可能である(註11)。しかし、東洋の高句麗古墳の優雅な婦人像にとどまらず、16世紀に始まった日本と西洋とのキリスト教を中心とする交流を研究し、それまであまり知られることのなかった遣欧少年使節の生き方を探ろうとする李太郎の意欲が、これらの挿画では示されている。詩集における挿画の位置づけを考えることにより、李太郎の多方面に向かう好奇心の旺盛さの一端が垣間見られる。この2冊の詩集の挿画は、ただ単に詩の二次的な飾りとして挿入されているのではなく、李太郎の思索の軌跡を視覚的にあらわしている点でとても重要な働きをしていると見て取ることが出来る。また、画家に挿画を依頼せず自身の挿画を使用した点で、白秋同様に、絵画のアカデミズムに対するアンチテーゼとしての李太郎のアマチュアリズムの姿勢を、この2冊の詩集から認められよう。



図12.『木下李太郎詩集』挿画6《無題》



図11.『木下李太郎詩集』挿画5《鼻をほじる人》



図13.『木下李太郎詩集』挿画7《無題》

註記

- 1) 筆者は拙論「アート・ディレクターとしての北原白秋」（『誌上のユートピア』展図録、美術館連絡協議会、2008年、314-320頁）で、北原白秋の詩集『思ひ出』の挿画に、彼の深層心理からくる女性への恐れと蔑視がはっきりと表れていることを指摘した。
- 2) 『食後の唄』の序を参照のこと。『木下李太郎全集』第2巻「詩集二」、岩波書店、1982年、178頁。
- 3) 『木下李太郎全集』第23巻「雑纂 書簡」、岩波書店、1982年、193頁（1919年9月28日、久保田俊彦宛）。
- 4) 木下李太郎は、芥川龍之介から『新思潮』の表紙を頼まれた時のことを回想したエッセーで、青年時に世紀末の画家シュトゥックやクリンガーの影響を受けて描いたと述べている（『木下李太郎全集』第15巻「評論随筆紀行九」、岩波書店、1982年、340頁）。李太郎の記憶違いで、その絵は『新思潮』ではなく、北原白秋の詩集『邪宗門』の挿画に使われたのだが、若い頃に描いた怪奇趣味的なイメージは悪趣味なものだと述懐している。
- 5) 李太郎は1917年8月に奈良を旅行した時、すでに旧満州に渡って仏教美術に関心を持ち始めていたのであるが、実際に高句麗古墳壁画や大同石仏寺を調査研究するのは、1918年から欧米留学に就く1921年までの3年間のことである。この時期に李太郎は和辻哲郎と仏教美術について書簡で意見を交換しており、1919年に和辻は『古寺巡礼』を刊行している。
- 6) 李太郎による朝鮮や中国の壁画や石仏の模写には、二つの系統があるようだ。一つは自身の自由な解釈による表現、もう一つは学術的な態度で忠実に対象物を模写したものである。第一の自由な解釈による表現について、澤柳大五郎は「その寫生の対象は佛像をはじめ、人の手で作られた藝術作品ばかりである。それ故それらは「見る所に多少の幻想を加えて写生して」はあてても、おのづから風景人物等の自然に對するものとは違つてゐる。それは李太郎の作品解釋（interpretation）でもある」と述べている（『木下李太郎画集第一巻佛像篇』用美社、1985年、14頁）。この観音菩薩像は李太郎の理想とする女性像を自由な解釈でとらえており、一見したところでは法隆寺の観音菩薩から着想を得たかどうかかわからないものとなっている。
- 7) 「技芸女神」という言葉を用いるのは唐突のように思えるかもしれないが、野田宇太郎がすでにその著『木下李太郎の生涯と藝術』（平凡社、1980年）で使用している。彼は、李太郎の小説「古都のまぼろし」で何度か出てくる女性の姿をした幻影を、李太郎が青春時代から追い求めていた技芸の女神としている（277頁）が、詩集『食後の唄』のこの3番目の挿画について触れることはなかった。
- 8) 註4参照。また、画面右下の曲線は蛇の姿を表しているように思われる。李太郎は、メドウサということで蛇の姿を書き込んだのであろうが、北原白秋は同時期の詩集『思ひ出』や歌集『桐の花』の挿画に、安珍清姫のイメージで清姫の蛇の姿を同じように何度となく描いている。また、『木下李太郎詩集』の挿画5《鼻をほじる人》（図11）の右上にも同じような蛇を思わせる曲線が描かれている。二人がこの蛇の形を暗号なりシンボリックの意味合いで使用していたのか、今後の研究課題である。なお、北原白秋の蛇のイメージに関しては、拙論「アート・ディレクターとしての北原白秋」（前出）参照。
- 9) 『木下李太郎日記』第5巻、岩波書店、1980年、179-180頁。
- 10) この挿画の情景は「古都のまぼろし」のイメージが濃厚であるが、図書室内で二人の人物が語り合っている場面は、ドラクロワの版画集『ファウスト』のなかの《メフィストフェレスとファウスト》の構図やモチーフの類似性を惹起させる。李太郎がパリに在る時は、フルスタンベール街のホテルを定宿としており、近くにはドラクロワの壁画で有名なサン・シュルピス大聖堂があった。李太郎と交友のあった洋画家青山義雄（1894-1996）は、1928年7月25日付李太郎宛の書簡で「サンシュルピースのお寺へドラクロワを見に行く度に君の居たホテルの前を通過して思ひ出す。君がカゼを引いて寝て居る時スプを持って行ったこともあったし、金を借りに行ったこともあった」と記している。李太郎は同大聖堂内のドラクロワの壁画《天使と闘うヤコブ》のヤコブのみ模写している。さらにドラクロワを敬愛し、作品も購入していたほどの李太郎であってみれば、ゲーテの『ファウスト』から着想を得たこの版画集を知らなかったとは思えない。李太郎にとってのドラクロワの影響については、今後の課題となろう。
- 11) 和辻哲郎は李太郎を最初「享楽人」と解釈した。その後、それだけではなくフマニストであると訂正した（「享楽人」『和辻哲郎随筆集』岩波文庫、1995年、179-186頁）。李太郎が一見すると享乐的な側面を持っていたのは確かだ。

*『食後の唄』と『木下李太郎詩集』の図版は、県立神奈川近代文学館所蔵のものを掲載させていただきました。また、木下李太郎宛青山義雄書簡の掲載に関しては、太田寧子氏及び青山太郎氏の承諾を得て、所蔵先の県立神奈川近代文学館のお世話になりました。執筆に際しては、藤木尚子氏、杵沢耕介氏のお世話になりました。記して感謝します。

1937年の『ソヴィエト連邦建設』に見る大粛清の影 ——ロシア革命への言及に着目して

靄山 昌夫

序

『ソヴィエト連邦建設』は、1930年1月から1940年5月までと、戦後の1949年1月から12月まで、合併号もあるが、原則月刊で合計134冊刊行されたソヴィエト社会主義共和国連邦（以下「ソヴィエト連邦」）の公式宣伝グラフ雑誌である（註1）。赤色海軍を特集した1937年1月号も、スターリン憲法を特集した同年9-10-11-12月合併号も1936年12月の第8回臨時ソヴィエト大会で制定されたスターリン憲法を扱っているが、後者には20年前、1917年のロシア革命への言及があるのに対して、前者には奇妙なほどにその言及がない。

本稿では、まず、十月革命20周年に刊行された1937年9-10-11-12月号、次に同年1月号の内容と構成を確認し、その後、前年1936年12月号も含めた編集委員の変遷を分析することで、1917年の革命への言及の有無の背景に、1937年には93万人以上が逮捕され、35万人以上が処刑されたとされる大粛清の中でも、とりわけ1917年以前から革命運動に参加した古参のポリシェヴィキ幹部の排除が関係していたことを示す。

I. 1937年9-10-11-12月号の内容と構成

『ソヴィエト連邦建設』1937年9-10-11-12月号は、4か月分の合併号で通常32頁から40頁程度の同誌としては破格の128頁である。装丁はエリ・リシツキー（1890-1941）とエス・リシツカヤ（ソフィア・リシツカヤ=キュッペルス、1891-1978）夫妻による。リシツキー夫妻が装丁した同誌は15冊あり、エリ・リシツキー単独の装丁を加えても19冊に過ぎず、ニコライ・トロツキン（1897-1990）の48冊には遥かに及ばない（註2）。また、アレクサンドル・ロトチェンコ（1891-1956）とワルワラ・ステパーノワ（1894-1958）夫妻による装丁も12冊に過ぎない。

けれども、1937年1月号（図1）や9-10-11-12月号（図2）のように、リシツキー夫妻やロトチェンコ夫妻といった構成主義などの前衛的な芸術活動を革命直後に先導した芸術家たちが、革命や軍、ソヴィエト連邦の国家体制に関する本誌の特集号を装丁する機会が多い（註3）。

9-10-11-12月号は内容から4章に分けられる。第1章は表紙から13頁まで、主としてロシア革命を扱っている（註4）。第2章は14頁から35頁まで、146条からなるスターリン憲法の初めの部分を



図1. 1937年1月号、表紙



図2. 1937年9-10-11-12月号、表紙

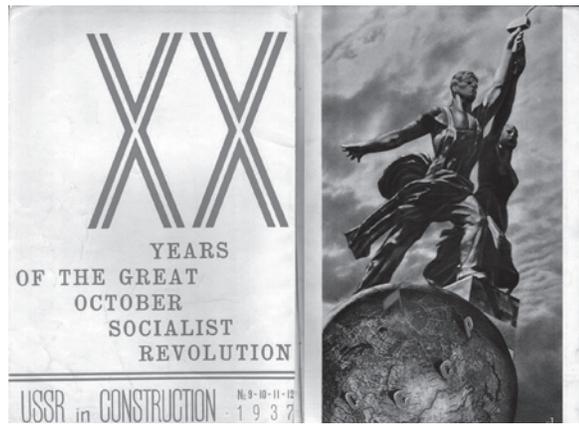


図3. 9-10-11-12月号、2-3頁（見返しと扉）

紹介している。第3章は36頁から87頁まで、ソヴィエト連邦を構成する11の共和国を紹介している。第4章は88頁から125頁まで、スターリン憲法の後半部分を紹介している。

まず、表紙には「1917年から1937年」と記されている。見返しには「偉大な十月社会主義革命の20年」と記され、対向する3頁の扉は、地上の6分の1を占めるソヴィエト連邦の上にヴェーラ・ムーヒナ（1889-1953）の彫刻《労働者とコルホーズの女性》が立つモンタージュであり、右下には「el」とリシツキーの署名がある（図3）。この彫像は、まさに1937年に開催されたパリ万国博覧会のソヴィエト連邦館の上に立ち、向かいの第三帝国館と対峙していた。続く4-5頁の見開きの中央には、封建社会の「階級と搾取」のピラミッドがあり、左にプラトン（前427-前347）、トーマス・モア（1478-1535）、トンマーゾ・カンパネラ（1568-1639）、右にジャン＝ジャック・ルソー（1712-1778）、アンリ・ド・サン＝シモン（1760-1825）、シャルル・フーリエ（1772-1837）の肖像がある。彼らは次の6-7頁で「科学的社会主義の道は、人類の幸福への唯一の道だ」という言葉の下に肖像が並べられたカール・マルクス（1818-1883）、フリードリヒ・エンゲルス（1820-1895）、ウラジーミル・レーニン（1870-1924）、ヨシフ・スターリン（1878-1953）の「先駆者」として位置づけられ、結果として、スターリンの歴史的正当性が示されている（図4）。

この4人の構成は、グスターフ・クルーツィス（1895-1938）が1934年に作ったポスター《マルクス、エンゲルス、レーニン、スターリンの旗をより高く》（図5）（註5）を想起させる。クルーツィスは、スターリンに正面を向けさせ、レーニン、エンゲルス、マルクスと次第にスターリンの方に顔を向けることによって、見る人の視線をマルクスからスターリンへと導き、スターリンを歴史的に認識させる工夫をしている。一方、リシツキーはフォトモンタージュによって人

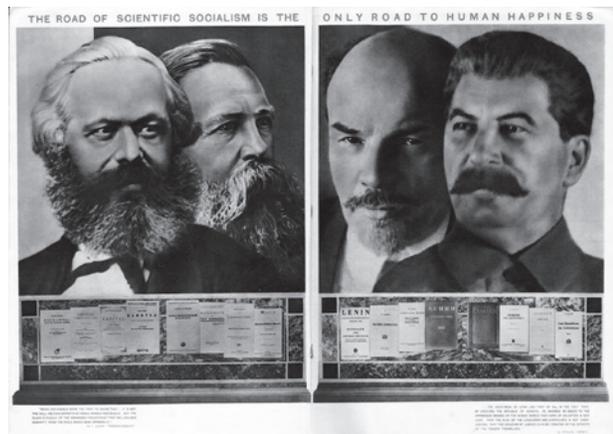


図4. 9-10-11-12月号、6-7頁



図5. グスターフ・クルーティス《マルクス、エンゲルス、レーニン、スターリンの旗をより高く》1934年

物像を部分的に重ね合わせ、歴史的連続性、正統性を表している。

8-9頁には民衆を率いるレーニンが描かれ、10-11頁は1917年、旧暦10月25日の革命である。10頁にはパーヴェル・クズネツォフ(註6)の絵画《反乱を統率する革命軍事委員会》とワレリアン・シシュエグロフ(註7)の絵画《冬宮突撃》が上下に配置され、後者にはペトログラート・ソヴィエトの革命軍事委員会のピラが重ねられている。11頁の絵画はボリス・イオガンソン(註8)の《スモリーヌィのレーニンとスターリン》であり、下部中央列には、「レーニンとスターリンに率いられ、武装したプロレタリアは、軍事独裁体制の設立を試みた臨時政府を打倒した」と記されている。1929年に国外追放されたレフ・トロツキー(1879-1940)の名前は、当然ここにはない。

12-13頁は、革命に続く内戦である(図6)。左上にレーニンの肖像、右上にスターリンの肖像、中央下部にはドミートリー・モオール(註9)による内戦期のポスター《ヴランゲリはまだ生きて容赦なく奴の息の根を止めろ》(1920年)が配置されている。ピョートル・ヴランゲリ男爵(1878-1928)は白軍の軍人である。内戦当時のポスターは、人々の記憶を喚起するためのものであり、実際、右頁上部には「我々の敵に内戦の教訓を思い出させてやろう、この20年間に我が国は1000倍も強固になったことを彼らに知らしめてやろう!」と記されている。これは同時に、1937年の「現在」も意識させている。

この見開きは下から捲って展開すると、見開きふたつを縦に繋げた4頁分(14-17頁)の「ポスター」になり、スターリンと労働者と農民の若者が劇的に現れる(図7)。彼らの下には、1年前の1936年12月5日に制定されたスターリン憲法第1条「ソヴィエト連邦は、労働者と農民の社会主義国家である」が記され、ここから第2章が始まる。

次の見開きでは、スターリン憲法を制定した第8回臨時ソヴィエト大会が扱われ、上辺には第2条から第4条が記されている。



図6. 9-10-11-12月号、12-13頁

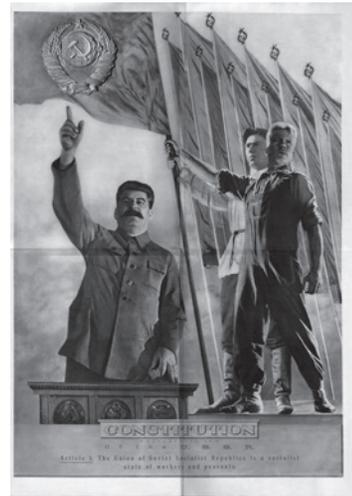


図7. 9-10-11-12月号、14-17頁

続く20-27頁は、第6条「土地、鉱床、水、森林、工場、製造所、鉱山、鉄道、水運と空輸、銀行、通信手段、国営農場のような大規模な国営農業事業、機械やトラクター基地やそれに類するもの、市の事業や市の主要な住宅地、工業用地は、国家の資産、つまり、全人民の資産である」と共に、地上の6分の1を占めるソヴィエト連邦の自然や産業、民族などを紹介している(図8)。

30-31頁の見開きは、土地の共有を扱い、左頁には1917年の労働者・兵士代表による第2回全ロシア・ソヴィエト大会における、土地の個人所有権を廃止したレーニンの布告が抜粋され、右頁には、第一次五カ年計画以降、集団農場に与えられた永続的土地保有の国家保証書の抜粋が掲載されている(図9)。

第2章は、34-35頁の第12条「ソヴィエト連邦では労働は、『働かざる者は食うべからず』という原則に従って、義務であり、あら

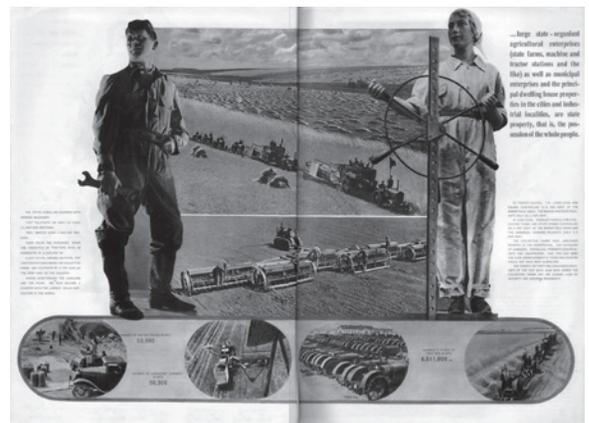


図8. 9-10-11-12月号、26-27頁



図9. 9-10-11-12月号、30-31頁



図 10. 9-10-11-12月号、34-35頁



図 11. エリ・リシツキー《すべては前線のために！ すべては勝利のために！》1941-42年

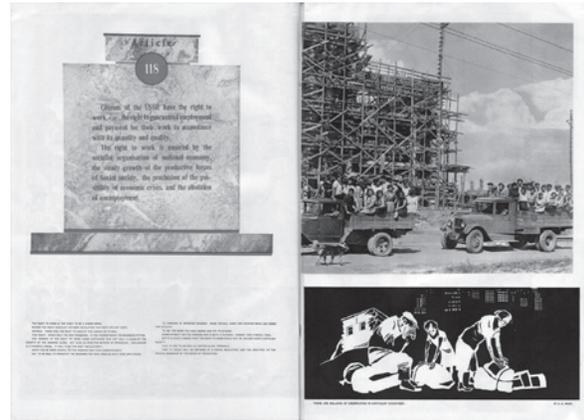


図 12. 9-10-11-12月号、90-91頁

下のモオールの風刺画《資本主義国家では、数百万の失業者がいる》が描写する帝政ロシアの都市労働者の厳しい状況と対比している(図12)。

以下同様に、96頁には休息と余暇の権利を定めた第119条が示され、対向する97頁の上には現在の保養所で過ごす人々の健康的に演出された写真、下には酔いつぶれた人々を描いたモオールの風刺画《帝政ロシアの「休息と余暇の権利」》が掲載されている。102頁には生存権を定めた第120条、対向する103頁の上には現在の余暇を楽しむ年金受給者の写真、下にはモオールの風刺画《資本主義は彼らから搾られるだけ搾り、彼らに残すのは死ぬ権利だけだ》、106頁には教育を受ける権利を定めた第121条、対向する107頁の上には卒業証書を手にした青年たちの写真、下はモオールの風刺画《祝福されるのはおとなしい者、または知識でこきおろす》、112頁は女性の平等権を定めた第122条、113頁の上は議会の壇上に立つアジア系の女性の写真、下はモオールの風刺画《あらゆる形の隷属なかでもっとも酷いもの》となっている。

そして、126頁では、この号の結びとして前景に4組の母子を配置した集団の写真の中に「スターリン憲法はソヴィエト人民の幸せである」と記されている。対向する127頁の奥付には「9-10-11-12月号 スターリン憲法」と特集が明示されている(図13)。

このように、本号は4章で構成され、第2、第4章でスターリン憲法を抜粋して解説する一方、第1章ではロシア革命を、第3章ではソヴィエト連邦を構成する11の共和国を扱っている。そして、ソヴィエト連邦と帝政ロシアとの対比の中で、20周年を迎えたロシア革命を強く意識して編集されている。

ゆる健全な市民の名誉である」で終わるが、この見開きで興味深いのは、リシツキーがフォトモンタージュに用いた写真である(図10)。左上の人物は、4年後、リシツキー最晩年のポスター《すべては前線のために！ すべては勝利のために！》(1941-42年、図11)にも登場する。つまり、リシツキーは、フォトモンタージュを構成するのに、ストックした人物写真を必要に応じて用いているのである。

第3章は、36頁のウラジーミル・ファヴォールスキー(註10)の壁画かその原画と思われる《ソヴィエト連邦》で始まる。そして、37頁下部には、「1917年10月、偉大なプロレタリア革命が我が国で始まり、皇帝と地主と資本主義者を打倒したとき、我々の指導者、我々の父であり保護者である偉大なレーニンは、支配する民族も服従する民族もあってはならないし、諸民族は平等で自由でなければならないと言った。そうして、かれは古い帝政の、ブルジョワのやり方を葬り、新しい方針、ボリシェヴィキの方針、つまり諸民族と我が国との友情の方針、友愛の方針を宣言した」という、十月革命に言及した1935年のスターリンの言葉が記載されている。

38-39頁の見開きには、ソヴィエト連邦の地図の上下に、ソヴィエト連邦を構成する11の共和国を表した擬人像のレリーフが配置され、40-87頁には、各共和国の紹介がされている。

憲法の後半部分を紹介する第4章は、1936年の第8回臨時ソヴィエト大会でのスターリンによる演説「ソヴィエト憲法草案について」の抜粋と写真を掲載した88-89頁の見開きで始まる。

次の90頁には、労働の権利を定めた憲法第118条が示されている。対向する91頁には、上にソヴィエト連邦の現在の若者たちが建設現場に向かう様子を理想的に演出して撮った写真を掲載し、

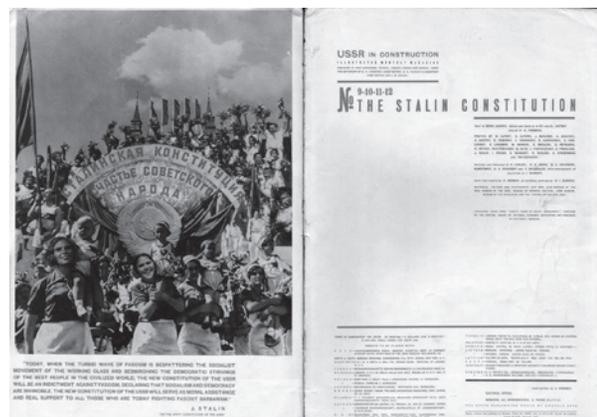


図 13. 9-10-11-12月号、126-127頁

II. 1937年1月号の内容と構成

赤色海軍を特集した1937年1月号もリシツキー夫妻が装丁しているが、構成は大きく異なり、全体が海軍を紹介するひとつの物語になっている。その中で、9-10-11-12月号と同様に、前月1936年12月開催の第8回臨時ソヴィエト大会で制定されたスターリン憲法が採り上げられる一方、9-10-11-12月号とは異なり、1月号にはロシア革命への直接の言及がない。

本号は、見返し(2頁)で記者がカザフスタンの少年に質問することから始まる。「カザフスタン、ユーラシア大陸の正に中心、ステップ、高い陽射しの下、乾いた暑さの中の黄色い草原。あらゆる方向に限りなく広がる乾いた大地が、海からカザフスタンの集団農場を隔てる。ソヴィエトの5つの全艦隊から離れたこの場所で、興味深い会話がなされた。広々とした学校の近く、木々の無いステップに新しく植樹されたポプラの下、私たちはカザフの幼いピオネールのグループと会った。私は彼らの中で一番小さな子に向かって、通訳を介して、彼の名前を聞いた。『マガウヤ』と彼は答えた。それから私は質問した。赤色海軍とは何か？」

これに対して扉(3頁)で、少年は「赤軍は僕たちの集団農場の防衛隊です」と答え、記者は同じ質問を繰り返すと、「馬でなく船に乗っているだけで、同じことです」と応じる。そして、「幼いマガウヤは正しい。なぜなら…」という右下の言葉が続く頁へと物語を繋ぐ。そして、以下4-11頁の赤い大文字の見出しを追うと、次のような物語が写真と共に展開される(図14)。

- 4-5頁 : 我が国の戦艦で、我が国の巡洋艦で
- 6-7頁 : 我が国の飛行艇で、我が国の水雷艇で
- 8-9頁 : 我が国の潜水艦で…我が国の海岸の砲台で…
- 10-11頁 : 我が国の駆逐艦で…防衛しているのは…

「ソヴィエト社会主義共和国連邦の憲法である」と12頁にスターリンの肖像と共に結びの言葉が現れる。12頁の上辺は切り取られ、10-11頁(正確には10頁と13頁)の見出しがそのまま見えるように工夫されている(図15)^(註11)。そしてスターリンの肖像の下には、憲法第6条が掲載され、海軍が守るべきものが具体的に示される。「土地、鉱床、水、森林、工場、製造所、鉱山、鉄道、水運と空輸、銀行、通信手段、国営農場のような大規模な国営農業事業、機械やトラクター基地やそれに類するもの、市の事業や市の主要な住宅地、工業用地は、国家の資産、つまり、全人民の資産である。」対向する13頁にはそれらを説明する13点の写真が掲載されている。このように1月号もすでに、前月に制定されたスターリン

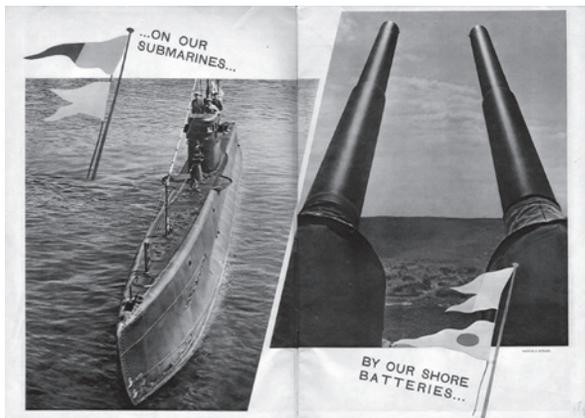


図14. 1937年1月号、8-9頁

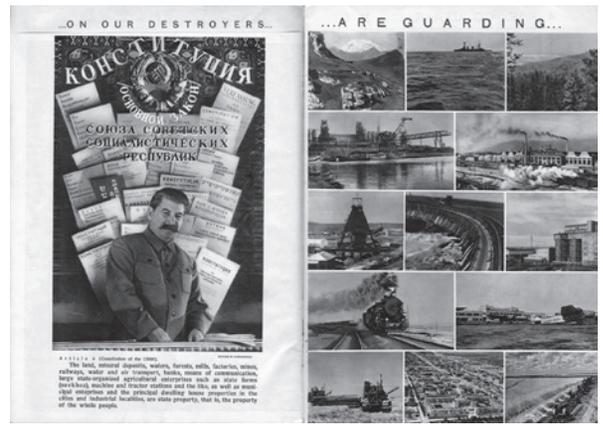


図15. 1月号、12-13頁

憲法に言及している。

さらに、14-15頁には「防衛しているのは、働く権利であり、」という見出しと写真と共に、「ソヴィエト連邦市民は働く権利を有する」という文言で始まる第118条が斜めに掲載されている。以下同様に、見出しと写真とそれに対応する憲法の条文が組み合わされた構成が25頁まで続き(図16)、それ以降は42-43頁を除いて、4-11頁と同様の見出しと写真による構成になっている(図17)。

- 16-17頁 : 休息と娯楽の権利、教育の権利であり、
第119、120、121条
- 18-21頁 : 我々は人種と民族の平等を守る 第123条
- 22-23頁 : 我々は赤色海軍の水兵、 第132条
- 24-25頁 : 士官、そして政治将校であり、 第133条
- 26-27頁 : 我々が育ったのは、内戦の戦闘の中、
第一次と第二次五カ年計画の建設作業の中であり



図16. 1月号、18-19頁

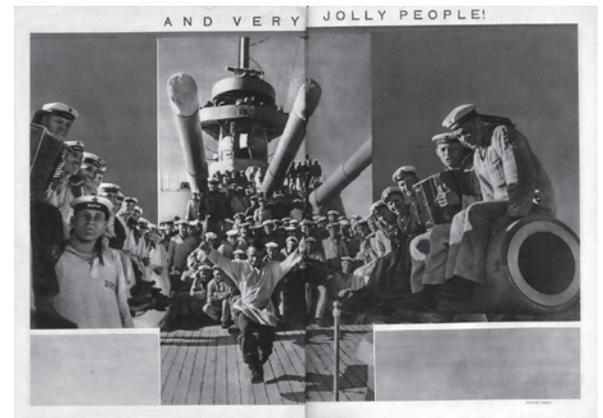


図17. 1月号、38-39頁

28-29 頁：我々はレーニンとスターリンの党によって訓練され、
我々は若い共産主義同盟員であり、
30-31 頁：我々はスタハーノフ運動者である(註 12)
32-35 頁：我々が学んでいるのは、
我が社会主義国家を防衛することである。
36-37 頁：我々は健康で
38-39 頁：とても陽気な人間である！
40-41 頁：これが我々が働き学ぶ様子である
42-43 頁：我々の妻は、友人であり伴侶である 第 122、137 条
44-45 頁：そして、ここに我々の子供たちがいて、
46-47 頁：その生命と幸福、未来は赤色海軍によって守られ
48 頁：赤色海軍は、国家全体と同様、スターリン憲法に票
を投じたのである

そして、49 頁の奥付には「1 号 労農赤色海軍」と記されている。
このように、1 月号は赤色海軍を特集しながら、1936 年 12 月に
制定されたスターリン憲法を前提として編集されている。一方で、
9-10-11-12 月号と比較すると、本号は 1917 年の革命から 20 年目
となる 1937 年の最初の号であるにも関わらず、革命への言及がな
いというのは奇妙である。

III. 編集委員の変遷と大粛清

ここで、『ソヴィエト連邦建設』編集委員の変遷を確認したい
(表 1)。二重丸は編集長を示している。1937 年 1 月号の編集委員
は、ソヴィエト連邦人民委員会議、副議長ヴァレーリー・メジラー
ウク(1893-1938、編集長)、ソヴィエト連邦内務人民委員ニコラ

イ・エジョーフ(1895-1940)の妻エヴゲーニヤ・エジョーフ(1904-
1938、副編集長)、ソヴィエト連邦財務人民委員部通貨勲章局長ト
リフォン・エヌキーゼ(1877-1937)、ソヴィエト連邦国家計画委員
会、副議長ゲンナージー・スミルノーフ(1903-1938)、そして、労
農赤軍参謀本部情報局長セミョーン・ウリーツキー(1895-1938)
である。

一方、この前の 1936 年 12 月号は、当然 12 月 5 日に制定され
たスターリン憲法の取材には間に合わず、山岳バダフシャーン自治
州を特集している。そして、この号の編集委員は大きく異なって
いて、奥付に記されているのは、この年の 6 月に他界し、哀悼の
意をあらわす黒枠に囲まれた作家の故マクシム・ゴーリキー(1868-
1936)、ソヴィエト連邦財務人民委員グリゴリー・グリニコフ
(1890-1938)、エヌキーゼ、エジョーフ、ジャーナリストのミハイル・
コリツォーフ(1898-1940)、そして、印刷で名前が塗り潰された人
物、ウリーツキー、全連邦発明家協会会長アルテミー・ハラートフ
(1894-1938)であった(図 18)。

1936 年 11 月号の奥付との比較から、この 12 月号の奥付で名
前が塗りつぶされた人物は、その 12 月に逮捕、翌年 9 月に処刑
されたソヴィエト連邦国立銀行理事長レフ・マリヤーシン(1894-
1937)であることが判る。製版過程で削り取らずに塗り潰したこと、
ゴーリキーとは明らかに対照的な扱いをしていること、『ソヴィエト
連邦建設』が公式宣伝グラフ誌であることを考えれば、これが「見
せしめ」である可能性は除外できない。

また、12 月号を最後に編集委員から外れるグリニコフは 1937
年 8 月に逮捕、翌年 3 月に処刑、コリツォーフは 1938 年 12 月に
逮捕、1940 年 2 月に処刑、ハラートフも 1938 年に逮捕、同年 10

表 1 『ソヴィエト連邦建設』編集委員の変遷

号	1930年 1月	1935年 12月	1936年 1月	1936年 6月	1936年 7月	1936年 12月	1937年 1月	1937年 4月	1937年 5月	1937年 7月	1937年 8月	1938年 1月	1938年 2月	
ゴーリキー	○	○	○	□	□	□								作家 1936年6月、死去
コリツォーフ	○	○	○	○	○	○								ジャーナリスト 1938年12月、逮捕 1940年2月、処刑
ピヤタコフ	◎	◎	◎	◎										ソヴィエト連邦重工業人民委員部第一次官 1936年9月、逮捕 1937年1月、処刑
ウリーツキー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	労農赤軍参謀本部情報局長 1937年11月、逮捕 1938年8月、処刑
ハラートフ	○	○	○	○	○	○								全連邦発明家協会会長 元国立出版局長 1938年、逮捕 1938年10月、処刑
コナール	○													農業食糧人民委員部次官 1933年1月、逮捕 1933年3月、処刑
グリニコフ		○	○	○	○	○								ソヴィエト連邦財務人民委員 1937年8月、逮捕 1938年3月、処刑
エヌキーゼ		○	○	○	○	○	○	○						ソヴィエト連邦財務人民委員部通貨勲章局長 1937年7月、逮捕 1937年11月、処刑
エジョーフ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1938年11月、自殺 夫ニコライ・エジョーフ ソヴィエト連邦内務人民委員 1939年4月、逮捕 1940年2月、処刑
マリヤーシン		○	○	○	○	■								ソヴィエト連邦国立銀行理事長 1936年12月、逮捕 1937年9月、処刑
メジラーウク							◎	◎						ソヴィエト連邦人民委員会副議長 1937年12月、逮捕 1938年7月、処刑
コーサレフ									◎	◎	◎	◎		全連邦レーニン共産主義青年同盟中央委員 会第一書記 1938年11月、逮捕 1939年2月、処刑
スミルノーフ							○	○	○	○				ソヴィエト連邦国家計画委員会副議長 1937年10月、逮捕 1938年7月、処刑



図 18. 1936 年 12 月号、奥付

月に処刑されている。つまり、1937 年前後に行われた大粛清は、『ソヴィエト連邦建設』の編集委員も対象外ではなく、粛清の結果として編集委員の多くが 1937 年 1 月号で交代したのである（註 13）。

そして、それ以前の編集委員、初代編集長でソヴィエト連邦重工業人民委員部第一次官ゲオルギー・ピャタコフ(1890-1937)、ウリーツキー、マリヤーシンは古参のポリシェヴィキ、つまり、1917 年の革命前からのポリシェヴィキ、トリフォン・エヌキーゼは従弟のアーヴェリ・エヌキーゼ(1877-1937) がやはり古参のポリシェヴィキ、グリニコフは社会革命党(エスエル) というように、この交代は明らかに 1917 年以前から革命運動に参加していた幹部たち、つまり、スターリンの潜在的な対抗勢力の排除を意図していたと考えられる。

こうして、古参のポリシェヴィキ幹部たちの排除と前年末のスターリン憲法の制定を踏まえ、新しい編集委員たちは 1937 年 1 月号を注意深く構成したと容易に想像できる。つまり、スターリン以外の古参のポリシェヴィキ幹部たちも存命しているこの時点で、1917 年のロシア革命への言及は避けられたのであろう。そして、まさに 1937 年 1 月 23 日から 30 日には、大粛清の象徴とされるモスクワ裁判の 2 回目が行われ、その被告の中心人物こそ、レーニンの死後、スターリンではなくトロツキーを支持したピャタコフであった。この裁判の 17 人の被告の内、ピャタコフを含む 15 人が、スターリンの暗殺を企てたとして死刑となった（註 14）。

つまり、スターリン以外の古参のポリシェヴィキ幹部たちを排除することによって、『ソヴィエト連邦建設』1937 年 9-10-11-12 月号では、スターリンの歴史的正当性を訴えるために、満を持して 1917 年のロシア革命 20 周年を記念しつつ、スターリン憲法を特集したと推測されるのである。

* 本稿は JSPS 科研費(17K02405)の助成を受けています。

** 本稿は 2017 年 9 月 16 日から 11 月 5 日まで神奈川県立近代美術館 葉山で開催されたコレクション展「1937—モダニズムの分岐点」のパンフレット掲載の拙稿『ソヴィエト連邦建設』に見る 1937 年前後のソヴィエト社会主義共和国連邦の一端(5-7 頁)と 2017 年 12 月 16 日に早稲田大学で開催された 20 世紀メディア研究会第 116 回研究会の口頭発表『ソヴィエト連邦建設』に見るロシア革命—1937 年から 1917 年までを振り返る』を基に執筆しました。

*** 本稿の挿図の作品は図 11 を除いて、松本瑠樹コレクションです。

註記

- 1) 神奈川県立近代美術館には 117 冊が寄託されている。詳細は榎山昌夫編『「旧ソヴィエト連邦における宣伝印刷物の文化学的研究」報告書』神奈川県立近代美術館、2016 年(以下『報告書』)を参照のこと。
- 2) 最大の装丁を手掛けたトローシニコフ戦前の本誌の中心的なデザイナーであり、1930 年 1 月の創刊号の表紙をデザインしたのは、妻のオリガ・デイナーコ(1897-1970)である。
- 3) 『ソヴィエト連邦建設』(1930-1941 年と 1949 年)の特集テーマと寄稿者・装丁者リスト『報告書』14-28 頁
- 4) 『ソヴィエト連邦建設』に目次はなく、創刊から最初の数号を除いてノンブルもないため、便宜的に表紙を第 1 頁として数えた。
- 5) このポスターは、再版や改訂版も含めて、33 万枚以上も印刷され、特に 1936 年には 25 万枚も印刷された。
- 6) パーヴェル・クズネツォフ(1878-1968)は、モスクワ絵画彫刻建築学校でコンスタンチン・コロヴァンやワレンチン・セローフに師事し、モスクワの象徴主義グループ「青バラ」の中心人物であった。1919 年から 1924 年まで教育人民委員部の造形美術部長を務めた。
- 7) ワレリアン・シエグロフ(1901-1984)は、ポスターや本や雑誌の挿絵を手掛けていた。
- 8) ボリス・イオガンソン(1893-1973)は、モスクワ絵画彫刻建築学校で、ニコライ・カサートキンやコンスタンチン・コロヴァンに師事し、革命ロシア美術家協会(アフル)の設立メンバーであった。
- 9) ドミトリー・モール(ドミトリー・オルロフ、1883-1946)は、プロパガンダポスターで知られ、ロシア通信社(ロスタ)で働いた。
- 10) ウラジミール・ファヴォールスキー(1886-1964)は、コンスタンチン・ユオーン(1875-1958)のアトリエで学び、1920 年から 1930 年には、国立高等芸術技術工房(ヴフテマス)、国立高等芸術技術研究所(ヴフテイン)の教授、その後、印刷研究所、造形芸術研究所の教授などを務めた。四芸術協会のメンバーであった。
- 11) 同様の工夫は 18-21 頁と 32-35 頁にも見られる。
- 12) アレクセイ・スタハノフ(1906-1977)は、超人的採掘記録を作った炭鉱労働者で、スタハノフ運動とは、彼に倣った作業効率向上運動のこと。彼は、アメリカの『タイム』誌 1935 年 12 月 16 日号の表紙も飾った。
- 13) 大粛清によって、1937 年には 93 万人以上が逮捕、35 万人以上が処刑され、1938 年には 63 万人以上が逮捕、32 万人以上が処刑されたとされる。
- 14) モスクワ裁判の概要は以下の通り。
第 1 回(1936 年 8 月 19 日から 24 日) 合同本部陰謀事件。ナチス・ドイツとの関係、国外のトロツキーと連携して、セルゲイ・キーロフ(1886-1936)を暗殺し、スターリンの暗殺を企てたとして被告 16 名全員死刑、9 月 1 日にはレニングラート共産党支部の関係者 5000 人を死刑。
第 2 回(1937 年 1 月 23 日から 30 日) 併行本部陰謀事件。日独ファシストの手先として、スターリンの暗殺を企てたとしてピャタコフら被告 17 人中、15 人死刑(翌日執行)。
第 3 回(1938 年 3 月 2 日から 13 日) 右翼トロツキスト陰謀事件。被告 21 人死刑(2 日後執行)。

調査研究の発表・執筆等

1. 当館開催展覧会にともなう調査研究・発表

展覧会図録への発表：計 14 件 (pp.6-17 参照)

外部媒体への発表：計 8 件

2. 収蔵作品及び館内活動に関する調査研究・発表

水沢 勉「斎藤義重アーカイブの整理と活用」、平成 29 年度我が国の現代美術の海外発信事業「我が国の現代美術の戦略的海外発信に向けた関連資料の整理」成果報告会、文化庁、2018 年 2 月 18 日、国立新美術館 企画展示室 2E 特設会場

橋 秀文「香月泰男による新収蔵作品の 3 点と北川原コレクションの 2 点について」『神奈川県立近代美術館年報 2016』、神奈川県立近代美術館、2018 年 3 月、pp.57-60

粕山昌夫「『ソヴィエト連邦建設』に見るロシア革命—1937 年から 1917 年までを振り返る」、20 世紀メディア研究所第 116 回研究会、20 世紀メディア研究所、2017 年 12 月 16 日、早稲田大学

粕山昌夫「神奈川県立近代美術館における地域連携の新しい試み」第 5 回アートリンクキャラバン in 小田原、相模湾・三浦半島アートリンク (SaMAL)、2018 年 1 月 20 日、内野邸 (旧醤油店、小田原市板橋)

ほか 5 件

3. そのほかの調査研究・発表

高階秀爾、建島 哲、水沢 勉、蓑 豊 (編)『まちとミュージアムが織りなす文化：過去から未来へ』、現代企画室、2017 年 12 月

粕山昌夫「村田朋泰が創る「異界」の魅力」『村田朋泰特集—夢の記憶装置』、イメージフォーラム、2018 年 3 月、pp. 22-23

三本松倫代「ハンネ・ダルボーフェン《私の父へのオマージュ》」『ハンネ・ダルボーフェン (Fuji Xerox print collection, no. 53)』、富士ゼロックス、2017 年 9 月、pp. 3-11

伊藤由美「ジョルジュ=アンリ・ルオー《町外れ》の修復について」『姫路市立美術館 美術館だより』vol.137、姫路市立美術館、2018 年 1 月 26 日、p.5

西澤晴美「福島秀子《ささげもの》について」『石井コレクション研究 5：桂ゆき・福島秀子』、筑波大学芸術学系、2017 年 11 月、pp.30-44

朝木由香「鏡だけが知っている色彩の秘密：加納光於「揺らめく色の穂先に」に寄せて」『加納光於：揺らめく色の穂先に』展図録、CCGA 現代グラフィックアートセンター、2017 年 6 月、pp.6-7

藤代知子・東京パブリッシングハウス制作協力『中西夏之 Bibliography』、横田茂ギャラリー、2017 年 10 月

ほか 7 件

外部資金の活用

1. 外部資金を活用した調査研究

「ポーランドと旧ソヴィエト連邦の視覚デザインとその周辺領域の比較研究」平成 29 年度科学研究費助成事業 (基盤研究 C：研究代表者 粕山昌夫)

「シュルレアリスムの受容と発信：瀧口修造による共同制作の実践」平成 29 年度科学研究費助成事業 (基盤研究 C：研究分担者 朝木由香)

「旧鎌倉館の建築および展覧会についての調査研究」公益財団法人ポーラ美術振興財団 (研究代表者 西澤晴美、研究分担者 長門佐季、三本松倫代)

2. 外部資金を活用した展覧会・事業

「コレクション展：1937—モダニズムの分岐点」芸術文化振興基金助成事業

「斎藤義重アーカイブの整理と活用」文化庁 平成 29 年度我が国の現代美術の海外発信事業「我が国の現代美術の戦略的海外発信に向けた関連資料の整理」

「神奈川県まなびや基金」を活用した彫刻整備

2014(平成26)年7月、神奈川県は橘川雄一氏より、神奈川県立近代美術館における彫刻作品の整備を目的とした3,000万円の寄附を受け、神奈川県教育委員会が管理する「神奈川県まなびや基金」に組み入れた。この彫刻整備は寄附受入から5年間のうちに行うことが条件となっており、2017年度は彫刻作品の修復と野外彫刻の環境改善そしてキャプション整備を行った。

「神奈川県まなびや基金」は、神奈川の県立学校などの教育環境向上のための自主財源確保を目指して2009年度に創設された基金で、寄附金やその運用益金を財源としている。

・ 彫刻作品の修復

保田春彦《地平の幕舎》の修復(「修復報告2」pp.42-44 参照)

長期にわたる屋外展示と塩害のため錆の発生がひどく、修復を必要とした。表面的な錆を除去したのち、本来の錆色や風合いを残しつつ、外気から鉄材を保護するために保護剤を塗布した。

作者	作品名	寸法 (cm) 高×幅×奥行	制作年	種別	修復担当
保田春彦	地平の幕舎	53.0 × 309.0 × 310.0	1993	彫刻	文化財修復工房 明舎

柳原義達《裸婦 座る》の台座制作

同作品はブロンズ製の裸婦座像を鉄製の台座に座らせており、その台座も作家本人によって制作された作品の一部となっている。鉄製の台座は、長期の屋外展示と塩害のために錆による腐食がひどく、孔食も多く見られ、裸婦像の重量を支える強度も落ちていた。以前、裸婦像とともに台座の修復を行ったが、鉄の劣化と痩せのため、今後は野外展示には耐えられないと判断した。作品は今後も屋外展示を予定しているため、鉄製オリジナル台座は屋内展示のみに使用することとし、屋外展示に際しては屋外環境にも耐えるブロンズ製にオリジナルの鉄の色と風合いを模した加工を施した台座を複製し使用することにした。

作者	作品名	寸法 (cm) 高×幅×奥行	制作年	種別	修復担当
柳原義達	裸婦 座る [台座]	32.5 × 53.8 × 77.3	1958	彫刻	有限会社 ブロンズスタジオ

堀内正和の彫刻作品 10 点の修復

堀内正和の彫刻作品 10 点が経年で劣化していたため、作品の洗浄と損傷に応じた充填、研磨、補彩を行った。また、一部の作品については防錆剤を塗布し強度を高めた。

作者	作品名	寸法 (cm) 高×幅×奥行	制作年	種別	修復担当
堀内正和	ひざまづく女	105.0×71.0×57.0	1931	彫刻	株式会社 文化財ユニオン
	壺をだく子	10.5×9.7×7.0	1947	彫刻	
	海辺	48.0×116.0×72.0	1951	彫刻	
	作品	130.0×35.0×30.0	1951	彫刻	
	横の作品	29.0×73.0×34.0	1952	彫刻	
	のどちんことはなのあな	44.0×54.0×54.0	1965	彫刻	
	箱は空にかえっていく	86.0×30.0×30.0	1966	彫刻	
	指の股もまた股である	77.0×100.0×30.0	1968	彫刻	
	球の切り方	45.0×34.0×34.0	1970	彫刻	
	三本の直方体(線)	83.0×92.0×110.0	1983	彫刻	

・ 野外彫刻の周辺環境整備とキャプションの整備

葉山館敷地正面入口から美術館へと通じる歩道脇(李禹煥《項》設置場所後部)の樹木・斜面の環境を改善するため、同作品を一時的に撤去しその周辺を整備したのち、作品を再設置した。

また、同作品のみならず他の野外彫刻作品のキャプションにおいて経年劣化(ステンレスの腐食、印字部分の褪色)や記載情報の更新の必要性が生じていたため、キャプションの素材を従来のステンレスから(より耐久性があると期待される)陶製に変更。視認性などを高めるためデザインを再検討し、本年度は同作品のキャプションのみ制作と設置を行った。

作品の撤去と再設置、環境整備

施工業者:株式会社 東京美術工芸社

野外彫刻キャプション

デザイン:柿木原政広、山口崇多(10inc.)

制作:CRIOS

設置:株式会社 東京美術工芸社

講師派遣・外部委員等就任

1) 講演会講師等派遣(当館主催の学校連携プログラム以外の講師派遣)

実施日	会場	内容	主催/共催	派遣者
2017年4月9日	鎌倉ギャラリー	トークイベント「人とアートを育てる場所「鎌倉に育つ、鎌倉に暮らす、鎌倉で育てる」	レゾナンス 鎌倉の響き	三本松倫代
2017年10月9日	新潟県立近代美術館	萬鐵五郎「近代」を越えて生きた画家	新潟県立近代美術館	水沢 勉
2018年2月18日	横須賀美術館	青山義雄展関連記念講演会「青山義雄その人と芸術」	横須賀美術館	橋 秀文

2) 外部委員等就任

職員名	団体名	職名
水沢 勉	東京藝術大学	客員教授、非常勤講師
	群馬県立館林美術館	作品収集委員会委員
	広島県立美術館	美術館評価委員会委員
	横須賀美術館	美術品評価委員会委員
	鎌倉市	鎌倉市教育委員会美術工芸作品収集選定委員会委員
	平塚市	平塚市美術館協議会委員
	福岡市	福岡アジア美術館美術資料収集審査員
	公益財団法人かながわ国際交流財団	理事
橋 秀文	公益財団法人ポーラ美術振興財団	助成事業選考委員
	東京国立近代美術館	美術作品修理業務企画審査員
	群馬県立近代美術館	作品収集委員会委員
	平塚市美術館	平塚市美術品選定評価委員会委員
	世田谷区	世田谷美術館美術品等収集委員会委員
畠山昌夫	神奈川県民経済生活協同組合	夏休みに描くクレヨン画コンクール審査員
	鳥取県美術展覧会運営委員会	鳥取県美術展覧会審査員
	茅ヶ崎市	茅ヶ崎市美術品審査委員会委員
	湯河原町	湯河原町美術品等選定委員会委員
李 美那	公益財団法人かながわ国際交流財団	みんなで“まなびほぐす”美術館—社会を包む教育普及事業作業部会委員
	東京藝術大学	非常勤講師
長門佐季	神奈川県	カナガワビエンナーレ国際児童画展審査員
	一般社団法人照明学会	美術館・博物館照明技術指針作成委員会委員
伊藤由美	東京藝術大学	非常勤講師
	愛知県立芸術大学	非常勤講師
三本松倫代	神奈川県女流美術家協会	神奈川県女流美術家協会展審査員
	公益財団法人日本美術協会・上野の森美術館ほか	VOCA展2017推薦委員
	公益財団法人かながわ国際交流財団	みんなで“まなびほぐす”美術館—社会を包む教育普及事業作業部会委員
高嶋雄一郎	神奈川県	文化財保護ポスター展審査員
	公益財団法人かながわ国際交流財団	みんなで“まなびほぐす”美術館—社会を包む教育普及事業作業部会委員
西澤晴美	筑波大学	非常勤講師
	神奈川県	神奈川県美術展生徒部門審査員

運営・管理報告

概況

1. 沿革

昭和26年11月17日	神奈川県立近代美術館として開館
昭和41年3月31日	収蔵庫及び常設展示室並びに附属棟を増設
昭和44年3月31日	学芸員室を増設
昭和49年8月1日	神奈川県立近代美術館組織規則(昭和49年神奈川県教育委員会規則第9号)により、管理課、学芸課の2課を置く
昭和59年7月28日	別館を開館
平成3年10月30日	本館の改修工事完了
平成13年7月5日	PFI事業契約の締結
平成15年6月1日	神奈川県立近代美術館組織規則の改正により、管理課、企画課、普及課の3課体制となる
平成15年10月11日	葉山館を開館
平成28年1月31日	鎌倉館の一般公開を終了
平成28年3月31日	鎌倉館を閉館
平成28年12月22日	鎌倉館の建物を(宗)鶴岡八幡宮に譲渡
平成29年9月4日	鎌倉別館、改修工事のため一時休館 (～平成31年9月までの予定)

2. 所掌事務

県民の近代美術に対する知識及び教養の向上を図るため、近代美術に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を実施する。

3. 施設の状況

平成29年4月1日現在

ア 土地	面積	
県有	(葉山館分)※生涯学習課管理	15,034.86㎡
	(鎌倉別館分)	4,937.00㎡
イ 建物	延床面積	
	(鎌倉別館分)	1,599.00㎡
借用	(葉山館分)	(有償分) 7,111.51㎡

収入・支出の状況

(平成29年度実績)

収入

科目	金額(円)	内訳
教育総務費使用料	6,100	鎌倉別館電柱等
土地使用料		
社会教育費使用料	43,881,850	観覧料収入
社会教育費委託金	2,029,522	我が国の現代美術の海外発信事業
社会教育費事業収入	9,654,892	図録販売
社会教育費受講料収入	253,000	県立社会教育施設公開講座
社会教育費立替収入	2,107,874	レストラン他光熱水費
教育費雑入	649,984	芸術文化振興基金助成金等
計	58,583,222	

PFI事業の概要

1. 事業内容

鎌倉の地における開館以来半世紀が経過する中で不足してきた機能を補うため、既設館と連携する新館を葉山町に建設し連携することで、これまでの高い企画力を受け継ぎ、展示・収蔵機能の充実など、生涯学習時代にふさわしい機能を備えた美術館を整備することとした。その整備に当たっては、PFI法に基づき事業者が新たに葉山町に新館を建設・所有し、維持管理業務・美術館支援業務・備品等整備業務を行うとともに、既設館についても維持管理業務を行うこととした。事業者は、平成15(2003)年4月に開始した維持管理業務・美術館支援業務が終了する30年後の2033年3月末をもって県に施設を無償譲渡する。事業者の主な業務は次のとおり。

- ア 葉山館建設業務：葉山館 新築工事、バスベイ・歩道整備工事など
- イ 維持管理業務：葉山館 建築物修繕、建築設備保守管理(修理を含む)、清掃、警備、受付・監視など
鎌倉館及び鎌倉別館 建築設備保守管理(修理を含まない)、清掃、警備、受付・監視など
※鎌倉館の業務は借地期限の平成27年度までとする。
- ウ 美術館支援業務：美術情報システムの整備及び運用支援、独立採算による付帯施設(レストラン、ミュージアムショップ、駐車場)運営

2. 事業者

株式会社モマ神奈川パートナーズ

所在地：横浜市西区みなとみらい2-2-1

支出(人件費含まず)

科目	金額(円)	内訳
維持運営費	21,756,613	維持管理
美術館事業費	56,931,094	展覧会開催費
美術作品整備費	38,761,884	美術作品購入・修復、 鎌倉別館改修に係る関連業務
特定事業費	387,658,876	PFI事業費
県立社会教育施設公開講座事業費	297,000	
計	505,405,467	

関係法規

神奈川県立近代美術館条例

昭和42年3月20日

条例第6号

(趣旨)

第1条 この条例は、神奈川県立近代美術館(以下「美術館」という。)の設置、管理等に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 近代美術に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の近代美術に対する知識及び教養の向上を図るため、美術館を三浦郡葉山町一色2,208番地の1に設置する。

(職員)

第3条 美術館に、事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(観覧料の納付等)

第4条 美術館に展示している美術館資料を観覧する者(以下「観覧者」という。)は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。ただし、公開の施設に展示している美術館資料の観覧については、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、特別な企画の展覧会を開催する場合の観覧料は、神奈川県教育委員会(以下「教育委員会」という。)がその都度別に定めることができる。

3 教育委員会は、第1項本文及び前項に規定する観覧料を収めた者に観覧券を交付するものとする。

4 観覧者(別表備考2に規定する者を除く。)は、入館する際に、前項に規定する観覧券又はこれに代わるものとして教育委員会が認めたものを提出し、又は提示しなければならない。

(観覧料の減免)

第5条 前条第1項本文及び第2項の規定にかかわらず、教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者については、観覧料を減免することができる。

(1) 教育委員会が開催する行事に参加する者

(2) 教育課程に基づく教育活動として入館する高校生(学校教育法(昭和22年法律第26号。別表備考において「法」という。)第1条に規定する高等学校及び中等教育学校の後期課程並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者をいう。別表において同じ。)並びに児童及び生徒の引率者

(3) その他教育委員会が適当と認めた者

(観覧料の不還付)

第6条 既に納付された観覧料は、還付しない。ただし、教育委員会が災害その他特別の事情により還付するのを適当と認めたときは、この限りでない。

(資料の特別利用)

第7条 美術館資料を学術上の研究のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

(利用の制限)

第8条 教育委員会は、美術館の利用者が次の各号のいずれかに該当する場合には、その利用を制限することができる。

(1) この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

(2) 他の利用者に著しく迷惑をかけるおそれがあると認めるとき。

(3) 施設、美術館資料等を損傷するおそれがあると認めるとき。

(4) その他教育委員会が必要と認めるとき。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理等に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附則

1 この条例は、昭和42年4月1日から施行する。

2 神奈川県立近代美術館条例(昭和26年神奈川県条例第46号)は、廃止する。

附則(平成28年10月21日条例第77号)

この条例は、平成28年12月1日から施行する。

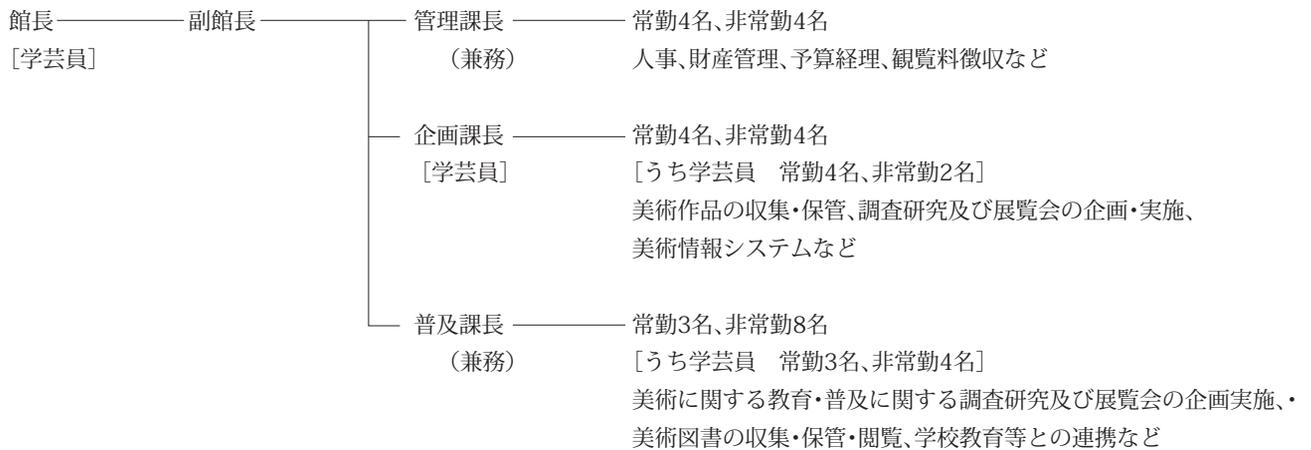
別表(第4条関係)

区 分	個 人	20人以上の団体
20歳以上65歳未満の者(学生及び高校生を除く。)	1人につき 250円	1人につき 150円
20歳未満の者(高校生を除く。) 学生(65歳以上の者を除く。)	同 150円	同 100円
65歳以上の者 高校生	同 100円	同 100円

- 備考 1 学生とは、法第1条に規定する大学及び高等専門学校、法第124条に規定する専修学校並びに法第134条第1項に規定する各種学校に在学する者をいう。
2 学齢に達しない者並びに法第1条に規定する小学校、中学校、中等教育学校の前期課程及び特別支援学校並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者は、無料とする。

組織

葉山館の整備による組織の改編を行うため、神奈川県立近代美術館組織規則を改正(平成15年6月1日施行)し、従来の管理課・学芸課の2課体制から、管理課・企画課・普及課の3課体制となった。平成29年4月1日現在の職員配置状況は次のとおり。



職員数合計 30名

常勤 13名(再任用3名、臨任2名含む)、非常勤 17名(短時間勤務再任用2名含む)

[うち学芸員 常勤 8名(再任用1名、臨任2名含む)、非常勤 7名]

施設別配置状況

葉山館 常勤 9名(再任用2名、臨任2名含む)、非常勤 14名(短時間勤務再任用2名含む)

[うち学芸員 常勤 5名(再任用1名、臨任2名含む)、非常勤 5名]

鎌倉別館 常勤 4名(再任用1名含む)、非常勤 3名

[うち学芸員 常勤 3名、非常勤 2名]

職員一覧

館長(非常勤) 水沢 勉

副館長 井上 宏一

管理課
 課長(兼) 井上 宏一
 主査 奈良部 康則
 主査 松島 隆志
 管理業務主任専門員 石井 渉
 管理業務主任専門員 児玉 祐一郎 平成29年4月1日から
 管理業務専門員 山崎 崇
 非常勤事務補助員 小野 和子
 非常勤事務補助員 二藤部 映
 非常勤事務補助員 森 祐子 平成29年4月1日から

企画課
 課長 橋 秀文
 主任学芸員 李 美那 平成29年9月30日まで
 主任学芸員 長門 佐季
 学芸員 西澤 晴美
 臨時学芸員 朝木 由香
 臨時学芸員 土居 由美 平成29年10月1日から
 非常勤研究員 伊藤 由美
 非常勤学芸員 荒木 和
 非常勤学芸員 渡邊 美喜
 非常勤事務嘱託 平戸 誠一郎

普及課
 課長(兼) 橋 秀文
 主任学芸員 糸山 昌夫
 主任学芸員 三本松 倫代
 主任学芸員 高嶋 雄一郎
 非常勤学芸員 土居 由美 平成29年9月30日まで
 非常勤学芸員 鈴木 敬子 平成29年4月1日から
 非常勤学芸員 高原 茉莉奈 平成29年4月1日から
 非常勤学芸員 立花 由美子 平成29年4月1日から平成29年12月3日まで
 非常勤学芸員 八木 めぐみ 平成29年10月1日から
 非常勤学芸員 吉田 有璃子 平成29年12月4日から

[美術図書室]

図書業務専門員 山中 久美子
 非常勤司書 藤代 知子
 非常勤司書 小川 さよ子
 非常勤司書 大野 寿子

年報 2017 (平成 29) 年度

発行日：2018年11月30日

編集・発行：神奈川県立近代美術館

葉山館 〒240-0111 三浦郡葉山町一色2208-1 電話 046-875-2800

鎌倉別館 〒248-0005 鎌倉市雪ノ下2-8-1 電話 0467-22-5000

制作：リーヴル

ANNUAL REPORT 2017

Edited and published by The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama, 2018

Produced by Livre

© 2018 The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama

